

茨城県教育財団文化財調査報告第139集

(仮称)中根・金田台地区特定土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

中谷津遺跡Ⅰ

作業室用

平成 10 年 9 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第139集

(仮称)中根・金田台地区特定土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

中^{なか}谷^や津^つ遺跡1

平成 10 年 9 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



中谷津遺跡全景（桜川を望む）



古墳主体部

序

茨城県は、昭和38年に筑波研究学園都市計画地域の指定を受けて以来、我が国の科学技術の研究開発の中心として、また、国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい町づくりを進めています。

この新しい町づくりに欠かせない常磐新線の建設と沿線開発は、つくば市と東京圏を結び、人・物・情報の交流を盛んにし、地域の活性化の大きな力となります。

その中で、都市・整備公団は、常磐新線の整備に伴う沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を進めております。

この予定地内に中谷津遺跡が存在していたため、財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成8年10月から翌年7月まで発掘調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構、遺物が確認され、つくば市の歴史を解明する上に多大な成果をあげることができました。

本書は、中谷津遺跡の調査成果を収録したものであります。本書を研究資料としてはもとより、郷土史の理解を深め、ひいては教育、文化の向上の一助として広く御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査及び報告書の刊行に当たり、委託者である住宅・都市整備公団からいただいた多大なる御協力に対し心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成10年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成8年10月から平成9年7月まで発掘調査を実施した茨城県つくば市大字中根字中谷津797番地の1ほか[〃]に所在する中谷津遺跡[〃]の発掘調査報告書である。
- 2 中谷津遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	中 島 弘 光	平成7年4月～	
	齋 藤 佳 郎 川 俣 勝 慶	平成8年4月～平成10年3月 平成10年4月～	
常 務 理 事	梅 澤 秀 夫	平成8年4月～平成9年3月	
	齋 藤 紀 彦	平成9年4月～	
事 務 局 長	小 林 隆 郎	平成8年4月～平成9年3月	
	西 村 敏 一	平成9年4月～	
埋 藏 文 化 財 部 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～	
埋 藏 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 業 管 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成8年4月～平成9年3月
		河 崎 孝 典	平成9年4月～平成10年3月
	課 長 代 理	鈴 木 三 郎	平成10年4月～
		根 本 達 夫	平成7年4月～
	主 任 調 査 員	清 水 薫	平成9年4月～平成10年3月(平成8年4月～平成9年3月係氏)
		小 高 五 十 二	平成8年4月～平成10年3月
		池 田 晃 一	平成10年4月～
主 事	川 崎 敦 司	平成10年4月～	
経 理 課	課 長	河 崎 孝 典	平成8年4月～平成9年3月
		鈴 木 三 郎	平成9年4月～平成10年3月
		佐 藤 健	平成10年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
		大 高 春 夫	平成7年4月～平成9年3月
	主 任	清 水 薫	平成10年4月～
		小 池 孝	平成7年4月～平成10年3月
		宮 本 勉	平成9年4月～
		木 下 光 保	平成10年4月～
		柳 澤 松 雄	平成8年4月～平成9年3月
主 事	小 西 孝 典	平成9年4月～平成10年3月	
調 査 第 二 課 長	和 田 雄 次	平成8年4月～平成10年3月	

調 査 二 課	調査第一班長	後藤 哲也	平成7年4月～平成9年3月
	調査第一班長	鶴見 貞雄	平成9年4月～平成10年3月
	主任調査員	中山 忠久	平成8年10月～平成9年3月 調査
		川村 満博	平成8年10月～平成9年3月 調査
		池田 晃一	平成9年4月～平成9年7月 調査
	成島 一也	平成9年4月～平成9年7月 調査	
整 理 課	課長	川井 正一	平成10年4月～
	首席調査員	萩野谷 悟	平成10年4月～
	主任調査員	川村 満博	平成10年4月～平成10年9月 整理・執筆・編集

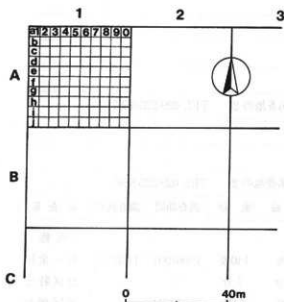
- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、人骨・獣骨・魚骨の種類同定については国立歴史民族博物館の西本豊弘氏に、貝については同館の小林園子氏にご指導をいただいた。また、旧石器時代の石器については千葉県立中央博物館の橋本勝雄氏に、北陸系の縄文土器については財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団の寺崎裕輔氏にご指導をいただいた。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概略

ふりがな	(かしょう)なかねこんだちちくたくていとちかくせりじぎょうないまほうぶんかせいちようさほうこくしょ							
書名	(仮称) 中根・金田台地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
副書名	中谷津遺跡I							
巻次	I							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第139集							
著者名	川村 満博							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	1998(平成10)年9月30日							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
なかやついでせき 中谷津遺跡	いばらきけんつくばしおおあぎ 茨城県つくば市大字 なかねあぎなかやつ 中根字中谷津 ばんち 797番地の1ほか	08220	36度 6分 13秒	140度 7分 58秒	19961001 ～ 19970731	11,373㎡	(仮称)中根・金田台地区特定土地区画整理事業に伴う事前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中谷津遺跡	散布地	旧石器	旧石器集中地点1か所	石器(剥片)	旧石器時代、縄文時代、奈良時代、中・近世の複合遺跡である。地点貝塚から貝類や魚骨類、縄文晩期の竪穴住居跡から土偶、土版、独鈷石など祭祀に関連する遺物がセットで出土している。			
	集落跡	縄文	竪穴住居跡10軒 土坑 115基 地点貝塚4か所 遺物包含層 4か所	縄文土器(後期・晩期)、石器・石製品(独鈷石、石鏃、磨石、敲石、凹石、石斧、石錘、剥片、垂飾り)、土製品(土版、土偶、垂飾り)、貝類、魚骨、獣骨				
	古墳	古墳	古墳 1基	人骨、土師器片				
	生活跡	中・近世	溝 11条					
	生活跡	時期不明	土坑 16基					

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標を原点とし、X軸 = +11,640m, Y軸 = +26,700mの交点を基準点 (A1a) とした。



大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらにこの大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……, 西から東へ1, 2, 3 ……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c …… j, 西から東へ1, 2, 3 …… 0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a区」、「B2b区」のように呼称した。

第1図 調査区呼称方法概念図

2 遺構・遺物・土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡—S I 土坑—S K 古墳—T M 地点貝塚—S M 溝—S D 不明遺構—S X
 遺物 土器・陶器—P 土製品—D P 石製品—Q 金属製品・古銭—M 拓本土器—T P
 土層 攪乱—K

3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は縮尺200分の1、住居跡や土坑、不明遺構は60分の1、地点貝塚、焼土遺構は30分の1に縮尺することを原則として掲載した。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は、炉を通る軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。それが不明な場合は、最大幅をとる軸線を長軸とし、主軸方向に準じて表示した。

なお、[]を付したものは推定である。

- (4) 土器の計測値は、A—口径 B—器高 C—底径 D—高台径 E—高台高 F—体部径 G—つまみ高とし、単位はcmである。

なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。

- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号(P)など、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

なお、拓影図で掲載した縄文土器片については、遺物観察表に記載せず、「遺構」の中の「遺物」の項目で解説を加えた。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経緯	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	10
1 竪穴住居跡	10
2 古墳	41
3 地点貝塚	46
4 土坑	48
5 溝	79
6 焼土遺構	81
7 不明遺構	84
8 旧石器集中地点	85
9 遺物包含層	87
10 遺構外出土遺物	107
第4節 まとめ	122

写真図版

挿 図 目 次

第1図	調査区呼称方法概念図	第35図	第17号土坑出土遺物実測図 …………… 56
第2図	中谷津遺跡周辺遺跡地図 …………… 6	第36図	第17・18・19・28・52号土坑 出土遺物実測図 …………… 57
第3図	基本土層図 …………… 8	第37図	第52・56・93・94・98・131号 土坑出土遺物実測図 …… 58
第4図	中谷津遺跡調査区制図 …………… 9	第38図	その他の土坑実測図(1) …………… 59
第5図	第1号住居跡実測図 …………… 11	第39図	その他の土坑実測図(2) …………… 60
第6図	第1号住居跡出土遺物実測図 …………… 12	第40図	その他の土坑実測図(3) …………… 61
第7図	第2号住居跡実測図 …………… 13	第41図	その他の土坑実測図(4) …………… 62
第8図	第2号住居跡出土遺物実測図 …………… 14	第42図	その他の土坑実測図(5) …………… 63
第9図	第3号住居跡実測図 …………… 15	第43図	その他の土坑実測図(6) …………… 64
第10図	第3号住居跡出土遺物実測図(1) …………… 17	第44図	その他の土坑実測図(7) …………… 65
第11図	第3号住居跡出土遺物実測図(2) …………… 18	第45図	その他の土坑実測図(8) …………… 66
第12図	第4・5・6号住居跡実測図(1) …………… 20	第46図	その他の土坑出土遺物実測図(1) …… 71
第13図	第4・5号住居跡実測図(2) …………… 21	第47図	その他の土坑出土遺物実測図(2) …… 72
第14図	第6号住居跡実測図(3) …………… 22	第48図	その他の土坑出土遺物実測図(3) …… 73
第15図	第4号住居跡出土遺物実測図 …………… 23	第49図	溝土層断面図 …………… 79
第16図	第5号住居跡出土遺物実測図 …………… 25	第50図	第5・11・13号溝出土遺物実測図 …… 80
第17図	第6号住居跡出土遺物実測図 …………… 27	第51図	第1・2・3・4・5・6号 焼土遺構実測図・出土遺物実測図 …… 83
第18図	第7号住居跡実測図 …………… 28	第52図	第1号不明遺構実測図・出土遺物実測図 …… 84
第19図	第7号住居跡出土遺物実測図(1) …… 30	第53図	第2号不明遺構実測図 …………… 85
第20図	第7号住居跡出土遺物実測図(2) …… 31	第54図	旧石器集中地点実測図 …………… 86
第21図	第7号住居跡出土遺物実測図(3) …… 32	第55図	旧石器集中地点出土遺物実測図 …… 86
第22図	第10号住居跡実測図 …………… 34	第56図	第1号遺物包含層実測図 …………… 88
第23図	第10号住居跡出土遺物実測図(1) …… 36	第57図	第1号遺物包含層出土遺物実測図 …… 89
第24図	第10号住居跡出土遺物実測図(2) …… 37	第58図	第3号遺物包含層実測図 …………… 91
第25図	第11A・B号住居跡実測図・ 出土遺物実測図 …………… 39	第59図	第3号遺物包含層出土遺物実測図(1) …… 92
第26図	第1号古墳実測図(1) …………… 42	第60図	第3号遺物包含層出土遺物実測図(2) …… 93
第27図	第1号古墳実測図(2) …………… 43	第61図	第3号遺物包含層出土遺物実測図(3) …… 94
第28図	第1号古墳実測図(3) …………… 44	第62図	第4号遺物包含層実測図 …………… 97
第29図	第1号古墳出土遺物実測図 …………… 45	第63図	第4号遺物包含層出土遺物実測図(1) …… 98
第30図	第1・2・3・4号地点貝塚実測図 …… 46	第64図	第4号遺物包含層出土遺物実測図(2) …… 99
第31図	第3号地点貝塚出土遺物実測図 …… 47	第65図	第4号遺物包含層出土遺物実測図(3) …… 100
第32図	第11・14・15・17・18・19・28 52・56・93・94号土坑実測図 …… 54	第66図	第6号遺物包含層実測図 …………… 103
第33図	第98・130・131号土坑実測図 …………… 55		
第34図	第11・14・15号土坑出土遺物実測図 …… 55		

第67圖	第6号遺物包含層出土遺物実測圖(1) ……104	第74圖	遺構外出土遺物実測圖(5) ……114
第68圖	第6号遺物包含層出土遺物実測圖(2) ……105	第75圖	遺構外出土遺物実測圖(6) ……115
第69圖	第6号遺物包含層出土遺物実測圖(3) ……106	第76圖	遺構外出土遺物実測圖(7) ……116
第70圖	遺構外出土遺物実測圖(1) ……110	第77圖	遺構外出土遺物実測圖(8) ……117
第71圖	遺構外出土遺物実測圖(2) ……111	第78圖	遺構外出土遺物実測圖(9) ……118
第72圖	遺構外出土遺物実測圖(3) ……112	第79圖	遺構外出土遺物実測圖(0) ……119
第73圖	遺構外出土遺物実測圖(4) ……113		

表 目 次

表1	周辺遺跡一覽表 …… 7
表2	住居跡一覽表 …… 40
表3	土坑一覽表 …… 76
表4	溝一覽表 …… 81

写真図版目次

- PL 1 中谷津遺跡全景, (平成 8 年度調査)
中谷津遺跡全景, (平成 9 年度調査)
- PL 2 第10号住居跡
第1号古墳主体部
- PL 3 第1号住居跡, 第2号住居跡
第3号住居跡
- PL 4 第4号住居跡, 第5号住居跡遺物
出土状況, 第6号住居跡
- PL 5 第3・4・5・6号住居跡
第3号住居跡遺物出土状況 (埋甕)
- PL 6 第7号住居跡
第7号住居跡遺物出土状況
第11A・B号住居跡
- PL 7 第10号住居跡遺物出土状況
第10号住居跡遺物出土状況 (土版)
第3号遺物包含層遺物出土状況
- PL 8 第1号古墳全景, 第1号古墳主体部
- PL 9 第1号古墳玄室内骨片出土状況
第1号古墳主体部掘り方
- PL 10 第1号地点貝塚, 第1号地点貝塚土層断面
第3号地点貝塚遺物出土状況, 第14号土坑
第18号土坑遺物出土状況, 第19号土坑
第19号土坑遺物出土状況, 第28号土坑
- PL 11 第52号土坑遺物出土状況, 第93号土坑遺物
出土状況, 第94号土坑遺物出土状況,
第98号土坑遺物出土状況, 第152号土坑遺物
出土状況, 第1号不明遺構, 第5号焼土遺構
旧石器集中地点遺物出土状況
- PL 12 第1・2号住居跡出土遺物
- PL 13 第3号住居跡出土遺物
- PL 14 第4・5・6号住居跡出土遺物
- PL 15 第4・5・6号住居跡出土遺物
- PL 16 第7号住居跡出土遺物
- PL 17 第7号住居跡出土遺物
- PL 18 第10号住居跡出土遺物
- PL 19 第10号住居跡出土遺物, 第1号古墳出土遺物
第17・28・52・109号土坑出土遺物
- PL 20 第11A・B号住居跡出土遺物
第17・52・142号土坑出土遺物
- PL 21 第15・19・28・93・94・98・136・152号土坑
出土遺物
- PL 22 第5・11・13号溝出土遺物, 第1号不明遺
構出土遺物, 旧石器集中地点出土遺物,
第1号遺物包含層出土遺物
- PL 23 第1・3号遺物包含層出土遺物
- PL 24 第3・4号遺物包含層出土遺物
- PL 25 第4・6号遺物包含層出土遺物
- PL 26 第6号遺物包含層出土遺物
- PL 27 遺構外出土遺物
- PL 28 遺構外出土遺物, 第56・67・86・126・129号
土坑出土遺物, 第13号溝出土遺物
- PL 29 遺構外出土遺物, 第1号古墳出土遺物
第126号土坑出土遺物
- PL 30 土器片錘, 土器片円盤, 土製垂飾り
遺構外出土遺物
- PL 31 遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県では、西暦2005年開通をめざし、常磐新線とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。

当遺跡の所在する中根地区については、平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会あてに、中根・金田台地区特定土地区画整理事業における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会した。

これに対して茨城県教育委員会は、平成7年5月15日から6月8日にかけて現地踏査を、10月9日から13日にかけて試掘調査を行い、住宅・都市整備公団つくば開発局あてに、「中谷津地区」内に、中谷津遺跡が所在する旨回答した。

平成8年2月8日、住宅・都市整備公団つくば開発局から茨城県教育委員会あてに、中根・金田台地区特定土地区画整理事業に係る中谷津遺跡の取り扱いについて協議があり、文化財保護の立場から再三協議を重ねた。

その結果、現状保存が困難であることから、平成8年2月19日、茨城県教育委員会から住宅・都市整備公団つくば開発局あてに、中谷津遺跡(7,932㎡)を記録保存とする旨回答し、調査機関として、財団法人茨城県教育財団が照会された。

茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成8年10月1日から中谷津遺跡の発掘調査を開始した。平成8年度は、1区から5区(7,932㎡)までの調査を終了した。

平成9年3月11日に平成9年度の中谷津遺跡の取り扱いについて協議があった。同年3月17日、茨城県教育委員会から住宅・都市整備公団つくば開発局あてに、中谷津遺跡(3,441㎡)を記録保存とする旨回答し、調査機関として、財団法人茨城県教育財団が照会された。

第2節 調査経過

中谷津遺跡の発掘調査は、平成8年10月1日から平成9年7月31日までの10か月にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

平成8年度

- 10月 発掘調査を開始するため、現場事務所予定地と土捨場の業者による伐開、作業員募集等の諸準備を行った。
- 11月 現場事務所、倉庫を設置し、12日から業者による調査区の伐開を開始した。18日から調査補助員を投入して、表採及びグリッドやトレンチを設定しての試掘を行った。
- 12月 調査区の区割り(第4図)を行った。13日から1区の人力による表土除去及び遺構確認を行った。20日から1～3区の重機による表土除去と遺構確認を行った。
- 1月 24日に1～3区遺構確認作業を終了し、27日に方眼杭打ち測量を実施して遺構調査を始めた。
- 2月 1～3区の遺構調査を引き続き行うとともに、6日から4・5区の業者による伐開、13日から重機による表土除去を開始した。
- 3月 1～3区の遺構調査を終了し、4・5区の遺構調査を開始した。19日に4・5区の遺構調査をほぼ終

了し、24日から1～4区の重機による埋め戻しを行い、28日に終了した。

平成9年度

- 4月 現場休憩所・倉庫、駐車場等の移設を行い、16日から調査補助員を投入して調査を再開した。
- 5月 5区の補足調査を行うとともに、21日から6区の重機による伐開表土除去を開始し、その後、遺構確認作業を行った。
- 6月 12日に6区の遺構確認作業が終了し、遺構調査を始めた。
- 7月 6区の旧石器集中地点の調査後、中谷津遺跡の調査を全て終了し、現場休憩所・倉庫・駐車場を次の調査遺跡である中原遺跡に移設した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

中谷津遺跡は、茨城県つくば市大字中根字中谷津797番地の11に所在している。昭和62年11月の4町村合併（桜村、谷田部町、大穂町、豊里町、昭和63年1月に筑波町も編入）によるつくば市誕生以前は、新治郡桜村に属していた。

つくば市は、茨城県南西部に位置し、北は真壁郡明野町、同郡真壁町、新治郡八郷町に、東は同郡新治村、土浦市、南は牛久市、稲敷郡基崎町、筑波郡伊奈町、同郡谷和原村に、西は水海道市、結城郡石下町、同郡千代川村、下妻市に接し、総面積は259.53km²である。

つくば市の地形は、北東は筑波山を中心とする筑波山塊に接し、東は霞ヶ浦に流入する桜川と、西は緩流して利根川と合流する小貝川に挟まれた筑波・稲敷台地上にあり、市街地の大部分がここに形成されている。筑波・稲敷台地は、標高が概ね20数mであり、東へわずかに標高を増す。東部は、北西から南東に向かう、花室川や小野川によって開析され、短冊状に分断されている。また、西部は、牛久沼へ流入する稲背川、東谷田川、西谷田川によって開析されている。筑波・稲敷台地の地層は、上位から、関東ローム層が0.5～2.5mの厚さで、常態粘土層が0.3～5.0mの厚さで堆積し、その下に竜ヶ崎層といわれる砂層が続いている。

当遺跡は、つくば市の南東部に位置し、東を桜川、西を花室川に挟まれた標高約25mの東に張り出す舌状台地先端部に立地しており、桜川の低地との標高差は約20mである。遺跡周辺の土地利用の現状は、山林と宅地、芝畑となっており、桜川・花室川の低地は主として水田、一部微高地は宅地や畑地となっている。当遺跡の調査前の現況は山林であった。

第2節 歴史的環境

つくば市桜地区（旧桜村）の遺跡は、桜川右岸流域の微高地、桜川と花室川に挟まれた台地上に数多く点在している。旧石器時代の遺跡は、茨城県教育財団によって調査された柴崎遺跡（33）（中谷津遺跡から北西に約1.5km）で、旧石器時代のナイフ形石器と尖頭器などが出土している。また、平成9年度から調査が始まった中原遺跡（36）（当遺跡から南西に約1km）からナイフ形石器と石刃が出土しており、中谷津遺跡の周辺では旧石器時代から人々の生活が始まっていることが確認されている。

縄文時代の遺跡は、桜川を東に望む台地の縁辺部と花室川右岸の台地に多い。代表的な遺跡としては旭台貝塚（1）、下広岡遺跡（35）などがあげられる。旭台貝塚は中谷津遺跡から約200m西に所在する、縄文時代後期から晩期の遺跡で、ヤマトシジミを主体とする汽水系の貝塚である。下広岡遺跡は当遺跡から南東約6kmの位置に所在する。昭和53年から55年にかけて、茨城県教育財団によって調査が行われ、縄文時代中期の住居跡が86軒検出されている。

弥生時代の遺跡は、桜川を東に望む台地上と、桜川低地の中の微高地で確認されている。当遺跡周辺では、南に約1.5kmの位置に花室遺跡（17）が、南東約2.5kmの位置に古菜遺跡（18）が所在する。

古墳時代では、桜川を東に望む台地上と桜川低地内の微高地を中心に、前方後円墳や円墳が確認されている。天神塚古墳（5）、金田古墳（9）などは全長80m前後の前方後円墳であり、松塚古墳群（10）内の松塚1号

墳、松塚2号墳は全長90m級の前方後円墳である。桜地区には鹿島神社が多いことから、大和政権の開拓統治との関わりも考えられる。当遺跡の周辺では、北約300mの位置に滝の台古墳群(7)、南東約300mの位置に横町古墳群(8)が確認されており、当遺跡で検出された古墳との関連も考えられる。滝の台古墳群内にある休見神社では、祭神の天津彦根命が応神朝に茨城国造になり、子孫がそれを世襲したという社伝が残されており、滝の台古墳群を茨城国造系の一族の墳墓とみる考えもある。古墳以外でも、前に述べた柴崎遺跡や下広岡遺跡で、この時代の住居跡が多数確認されている。

奈良・平安時代では、「和名抄」に見える、筑波郡栗原郷、河内郡菅田郷・大村郷が桜地区の郷名に比定されており、律令期にはこれらの郷が成立していたと考えられる。当遺跡周辺の遺跡では、南約1kmの地点にある九重庵寺跡(26)が代表的である。「桜村史」では、九重庵寺は奈良時代後期に建立されたとしており、瓦や礎石、瓦塔などが採集されている。前に述べた中原遺跡で、奈良・平安時代の堅穴住居跡や掘立建物跡が多数検出されている。また、当遺跡から南東約1.5kmの位置に所在した本田遺跡(12)と、南東約2.5kmに所在した上ノ室条里遺跡(32)は、ともに条里遺構であったが、今は涸渾して往時の様相をとどめない。

中世になると、県南部のほとんどの地域が権門寺社への寄進地系荘園に組み込まれる。桜地区は、田中荘、大井荘、信太荘に属していたと思われる。「東寺百合文書」の信太荘関連史料の中に、下大村郷(大)、弘岡郷(上広岡、下広岡)、上茂呂郷(上ノ室)、古来郷(古来)などが散見され、桜地区の南部は信太荘に属していたと考えられる。また、「日輪寺文書」に「強清水郷」という記載がある。強清水郷は今の金田と考えられており、この地域は田中荘に属していたと考えられる。信太荘、田中荘は鎌倉時代初期には小田氏の支配下にあったと考えられ、一時的に北条得宗家や上杉氏の支配に変わる時期もあったが、室町時代の後半まで小田氏がその影響力を残していた。中世の桜地区の遺跡はそのほとんどが城館で、桜川を東に望む台地の縁辺部に所在し、いずれも小田氏関連の城館といわれている。当遺跡から南約1km弱の位置に金田城跡(27)が、そこから南約1kmに花室城跡(29)が所在する。花室城跡から東約1kmに古来館跡(30)、谷津を越えてすぐ南に上ノ室城跡(32)が所在する。「小田天庵記」によると金田城は沼尻氏の、上の室城は吉原氏の居城といわれている。また、「東国關戦私記」によると大津氏が花室城の城主となっている。また、柴崎遺跡や中原遺跡からも、中・近世の遺構・遺物が検出されている。

小田氏の衰退後、この地域は結城秀康の支配地となるが、江戸時代になり、秀康の越前移封に伴い、天領、藩領、旗本領と細分されていった。

註

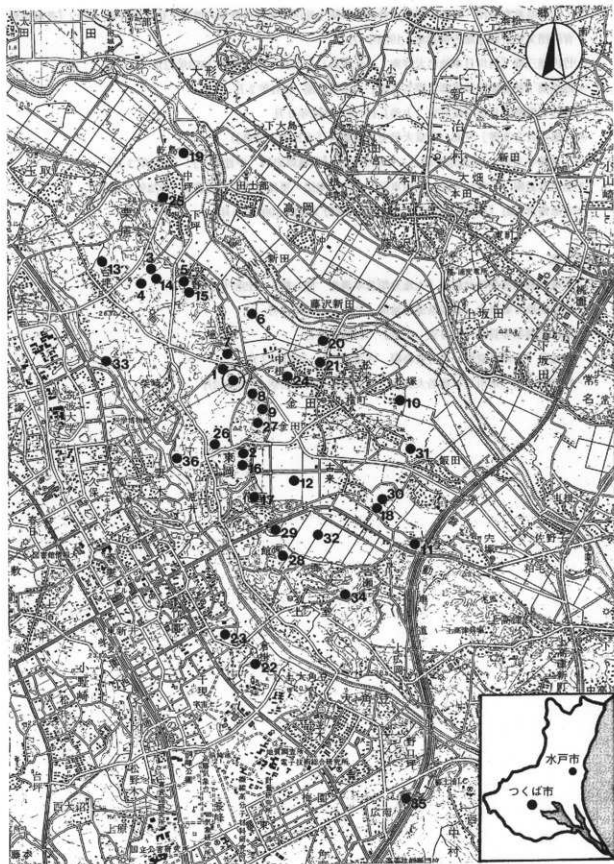
- (1)茨城県教育財団「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅹ』1981年3月
- (2)茨城県教育財団「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書(Ⅰ)」『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』1989年9月
・茨城県教育財団「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書(Ⅱ)」『茨城県教育財団文化財調査報告第63集』1991年3月
・茨城県教育財団「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書(Ⅲ)」『茨城県教育財団文化財調査報告第72集』1992年3月

・茨城県教育財団「研究学園都市計画桜崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書（Ⅳ）」『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』1994年9月

- (3)竹内理三編『角川日本地名大辞典 8 茨城県』1309頁 角川書店 1973年12月
- (4)池邊彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館 1981年2月
- (5)桜村史編纂委員会『桜村史 上巻』141頁 1982年3月
- (6)『東寺百合文書』り46（東京大学史料編纂所『大日本古文書』）
- (7)『日輪寺文書』（茨城県史編さん中世史部会『茨城県史料 中世編Ⅰ』 1970年3月）
- (8)黒川真道編『千葉伝考記・小田軍記・小田天庵記・里見九代記』峯書房 1973年9月
- (9)吉原格斎校訂『東国關戦私記』（復刻版）常野文献社 1997年11月

参考文献

- ・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 龍ヶ崎』 1987年12月
- ・茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図 2版』1990年3月
- ・桜村史編纂委員会『桜村史 上巻』 1982年3月
- ・茨城県『茨城県資料 考古資料編 古墳時代』 1974年2月
- ・竹内理三編『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1973年12月



第2図 中谷津遺跡周辺遺跡位置図

第3章 遺跡

第1節 遺跡の概要

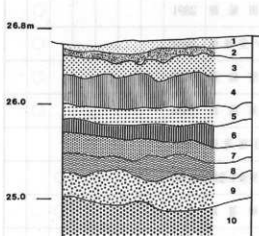
中谷津遺跡は、つくば市の東側を南北に流れる桜川右岸の標高約25mの台地縁辺部に位置している。調査区は、便宜上、中央部東側の1区、中央部西側の2区、南部の3区、北部西側の4区、東部の5区、北部の6区に分け調査し、総面積は11,373㎡である。現況は山林である。

今回の調査によって、旧石器集中地点1か所、住居跡10軒、土坑131基、地点貝塚4か所、遺物包含層4か所、焼土遺構6基、古墳1基、溝11条、不明遺構2基が検出されている。

住居跡はすべて縄文時代後・晩期である。そのほかは、古墳（古墳時代後期）、溝11条（中・近世）のぞき、すべて縄文時代と思われる。

遺物は、遺物収納箱（60×40×20cm）に116箱出土している。遺物の大部分は縄文時代後期（堀之内1式期）の土器片である。そのほか、土製品では土製垂飾り・土版・土偶が、石器・石製品では独鈷石・石鏃・磨石・蔽石・石斧・石錘、旧石器の剥片などが出土している。

第2節 基本層序



第3図 基本土層図

- 第5層は、15～20cmの厚さで、褐色をしたハードローム層である。
- 第6層は、15～25cmの厚さで、褐色の粘性の強い層である。
- 第7層は、10～20cmの厚さで、褐色をした粘性の強い層で、第6層よりも固く締まっている。
- 第8層は、10～30cmの厚さで、にぶい褐色をした粘性の非常に強い層である。
- 第9層は、20～40cmの厚さで、灰白色の粘土層である。鉄分を多量に含む。ここから常総粘土層になると考えられる。

第10層は、30～50cmの厚さで、浅黄色の粘土層である。鉄分を多量に含む。

住居跡などの遺構は第2層の上面で確認した。

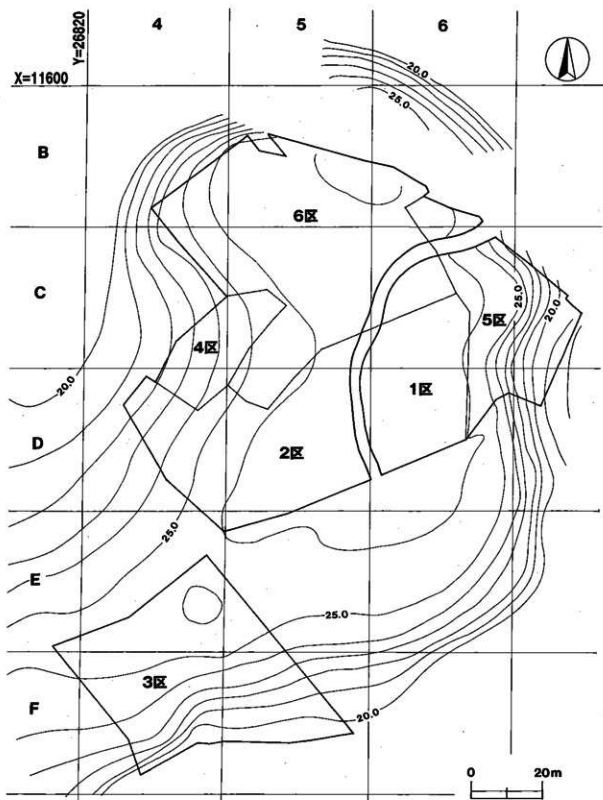
調査区内にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った（第3図）。

第1層は、5～15cmの厚さの耕作土層で、暗褐色をしている。

第2層は、5～15cmの厚さで、暗褐色をしたハードローム層で、第1黒色帯と考えられる。

第3層は、10～25cmの厚さで、褐色をしたハードロームである。ガラス質の粒子を含み、鎌で削るとシャリシャリした感触がする。AT層と考えられる。

第4層は、30～40cmの厚さで、褐色をしたハードローム層である。第3層よりも固く締まっている。



第4图 中谷遺跡調査区割図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡から、縄文時代の竪穴住居跡10軒を検出した。以下、検出した住居跡とそこから出土した遺物について記載する。

第1号住居跡 (第5・6図)

位置 調査3区中央部, E4j9区。

規模と平面形 長径4.46m, 短径4.23mの円形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は1~5cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦である。床面の西部に直径30~50cmの円形の焼土の広がり2か所確認されている。掘り込みは見られず、床が焼けているだけなので炉とは考えられない。

炉 2か所。炉1は、中央からやや南寄りに付設された地床炉である。平面形は長径90cm, 短径60cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめている。炉床面は火熱を受け、赤変硬化している。炉2は、炉1から南西約50cmに付設されている地床炉である。平面形は長径43cm, 短径37cmの楕円形で、床面を5cm掘りくぼめている。炉床面は火熱を受けているが、炉1ほどは赤変硬化していない。

炉1土層解説

- | | |
|--------|---------------|
| 1 暗褐色 | 焼土小ブロック・粒子極少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粒子中量 |

炉2土層解説

- | | |
|--------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・小ブロック・粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土中ブロック・小ブロック極少量 |

ピット 7か所 (P1~P7)。P1は径20~25cmの楕円形で、深さは20cmである。P4は径25cmの円形で、深さは20cmである。掘り込みの深いしかりとした柱穴はこの2か所だけであり、主柱穴と考えられる。P2は径20~25cmの楕円形で、深さは4cmである。P3は径20cmの円形で、深さは4cmである。P5は径25~30cmの楕円形で、深さは5cmである。P6は径30cmの円形で、深さは15cmである。P7は径20~40cmの楕円形で、深さは5cmのピットである。いずれも掘り込みは浅いが、位置から補助柱穴と考えられる。

覆土 3層からなる。上部は削平が著しく、自然堆積か人為堆積かの判断は困難だが、残された覆土の状況から自然堆積の可能性が高いと考えられる。

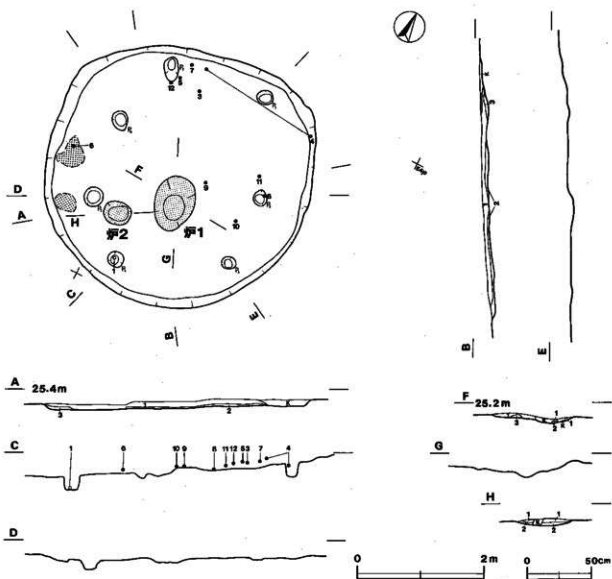
土層解説

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子極少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極少量 |

遺物 縄文土器片569点, 土製品1点(土玉), 石器2点(磨製石斧, 凹石)が出土している。1は磨製石斧で、P4の底面から出土している。3は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部が欠損している。LRの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。4は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。沈線と刺突文が施されている。5は深鉢形土器の口縁部片である。半截竹管による沈線文が施されている。6は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。LRの単節縄文が施されている。7は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。波頂部に刺突文を持ち、それを起点として沈線が施されている。8は深鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文を地文とし、対弧状文が施されている。9は深鉢形土器の胴部片である。平行沈線が施されてい

る。10は深鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文が施されている。11は深鉢形土器の胴部片である。半截竹管による沈線文が施されている。12は深鉢形土器の胴部片である。半截竹管による沈線文が施されている。

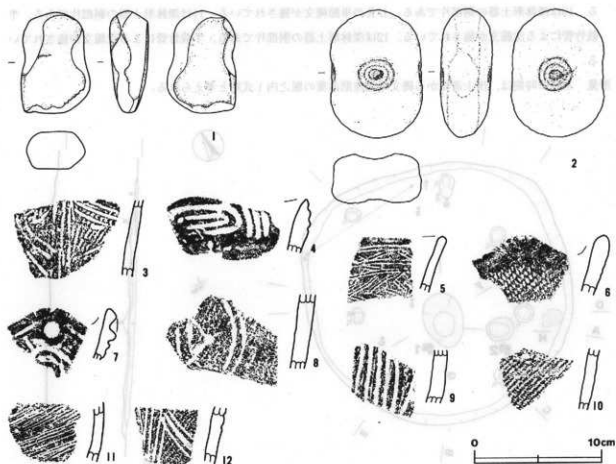
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。



第5図 第1号住居跡実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第6図1	磨製石斧	8.1	5.5	3.0	196.0	砂岩	Pi内庭面	Q1 PL12
2	門石	10.2	7.2	4.1	339.0	安山岩	覆土中	Q2 PL12



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡 (第7・8図)

位置 調査3区中央部, E46区。

規模と平面形 壁の立ち上がりは確認できなかったが, 長径 [6.76] m, 短径 [5.59] mの楕円形と推測できる。

主軸方向 [N-77°-W]

床 平坦である。全般的に床が軟らかく, 特に踏み固められた面は見られない。

炉 2か所。炉1は, 中央部に付設された地床炉である。平面形は直径65cmの円形で, 床面を10cm掘りくぼめている。炉2は東部に付設された地床炉である。平面形は長径50cm, 短径40cmの楕円形で, 床面を10cm掘りくぼめている。

炉1土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子極少量
- 3 赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子多量

炉2土層解説

- 1 暗褐色 焼土中ブロック中量, ローム粒子極少量
- 2 にがい暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム粒子極少量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量

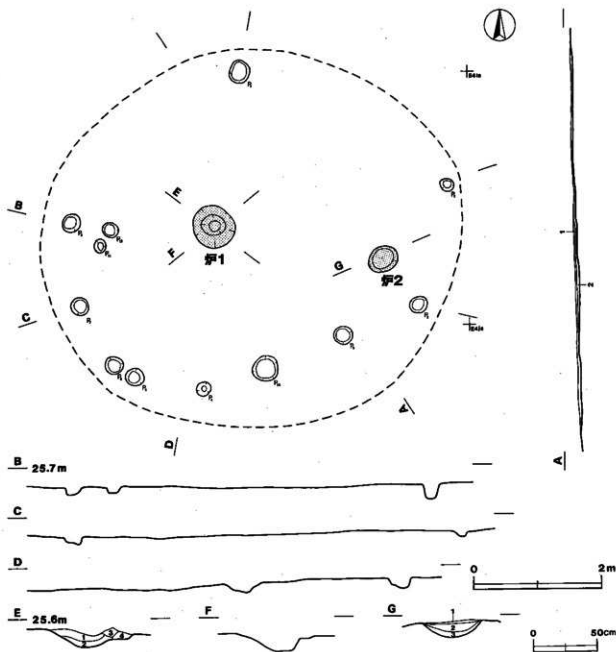
ピット 12か所 (P1~P12)。P1~P10は直径20~40cmの円形で, 深さは10~20cmである。形状や配列から支柱穴と考えられる。P11は径20cm, P12は径25cmの円形で, 深さはいずれも10cmである。位置から補助支柱の可能性も考えられるが, 性格は不明である。

覆土 2層からなる。上部は削平が著しく、自然堆積か人為堆積かの判断は困難だが、残された覆土の状況から自然堆積の可能性が高いと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

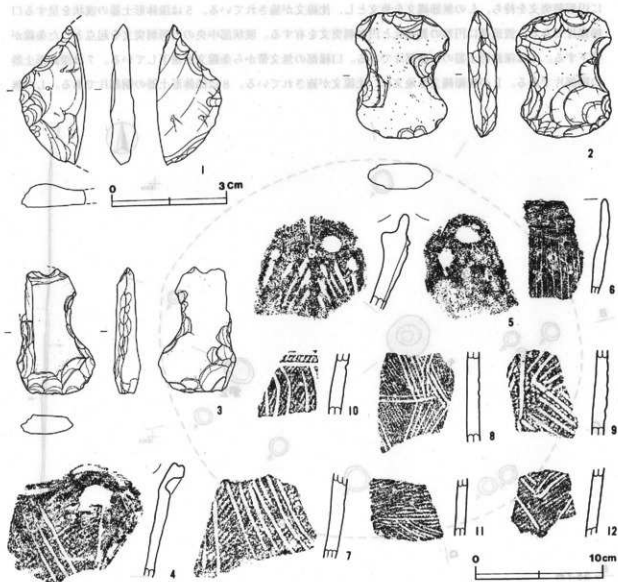
遺物 縄土器片298点、土師器片3点、瓦質土器片2点、石器4点（打製石斧2点、石核2点）が出土している。土師器片と瓦質土器片は混入と考えられる。4は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。波状部に円形刺突文を持ち、Lの無節縄文を地文とし、沈線文が施されている。5は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。波頂部に円形の貫通孔と円形刺突文を有する。波状部中央の円形刺突文を起点とした条線が垂下する。6は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部の無文帯から条線文が垂下している。7は深鉢形土器の胴部片である。Lの無節縄文を地文に、沈線文が施されている。8は深鉢形土器の胴部片である。Lの無



第7図 第2号住居跡実測図

節縄文を地文に、沈線文が施されている。9は深鉢形土器の胴部片である。単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。10は深鉢形土器の胴部片である。Lの無節縄文を地文とし、横位の沈線とそこから垂下する沈線文が施されている。11は深鉢形土器の胴部片である。12は深鉢形土器の胴部片である。無節の縄文を地文に、沈線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第8図1	網片	3.7	1.8	0.7	4.0	黒曜石	覆土中	Q8 二次加工有り
2	打製石斧	10.5	7.4	2.5	225.0	凝灰岩	覆土中	Q3 PL12
3	打製石斧	(6.1)	(10.0)	2.0	(123.0)	ホルンフェルス	覆土中	Q4 PL12

第3号住居跡 (第9・10・11図)

位置 調査5区南部, C6ca区。

重複関係 本跡の確認面は第5, 6号住居跡より1m近く低く, 重複部分が攪乱を受けているため, 第5, 6号住居跡との新旧関係は不明である。

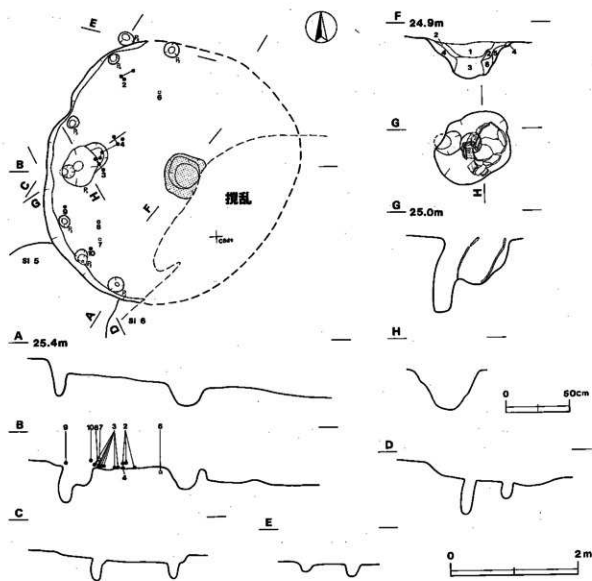
規模と平面形 東側と南側の壁が残存しないが, 長径 [4.24] m, 短径 [3.81] mの楕円形と推測される。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁は北側と西側が残存するのみで, 他は削平されている。壁高は30~60cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。南部の床は攪乱を受けて残存しない。

炉 中央やや南寄りに付設された地床炉である。平面形は, 南側の一部が攪乱を受けているが, 径65~70cmの円形で, 床面を30cm掘りくぼめている。断面形が2段の階段状になっており, 土器埋設炉であった可能性も考えられる。



第9図 第3号住居跡実測図

炉土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック少量、炭化物極少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量、骨片少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・灰白色粘土粒子・骨片少量
- 4 にぶい赤褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・小ブロック・粒子多量、焼土大ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子多量、ローム粒子中量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量

ピット 8か所 (P1~P8)。P4は長径80cm、短径50cmの不整楕円形で、深さは60cmである。P4内からは堀之内1式期の深鉢形土器が出土している。P1~P3, P5~P7は径15~20cmの楕円形で、深さは20~50cmである。位置からいづれも壁柱穴と考えられる。P8は直径20cmの円形で、深さは10cmである。壁外に位置し、性格は不明である。

覆土 本跡は遺物包含層のトレンチを入れて調査中に確認されており、覆土の様相は不明である。

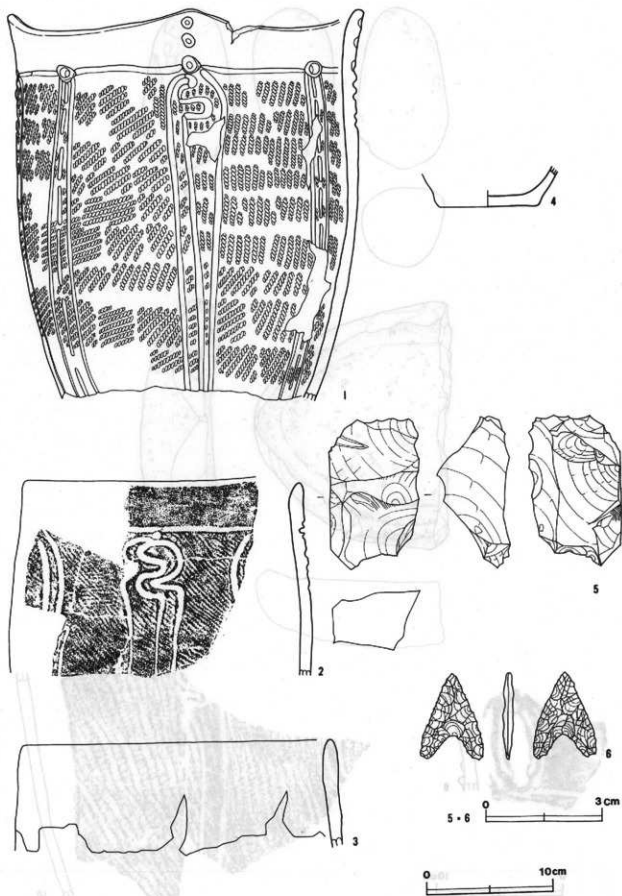
遺物 縄文土器及び縄文土器片217点、土師器片1点、石器4点(磨石、石皿、石鏃、剥片)、焼骨片が出土している。土器片は、床面や下層からの出土が多く、西部に集中している。1は底部が欠損した深鉢形土器で、P4から埋設された状態で出土しており、埋塞と考えられる。9は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。口縁部には沈線と円形刺突文を伴う隆帯が付く。10は深鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文を地文とし、沈線が垂下する。焼骨片は、炉内から少量出土しているが種類や部位は不明である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

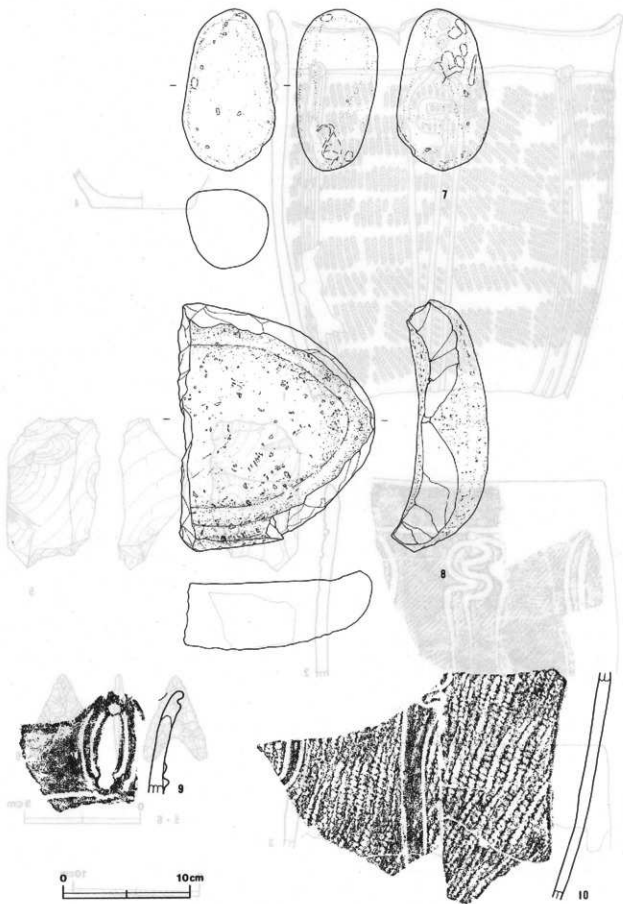
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備	考
第10図 1	深鉢形土器	A 28.0	底部欠損。胴部に鋭い陥らみを持ち、頸部は緩く括れ、わずかに外傾して口縁部に至る。口縁部は4単位の小波状を呈する。口縁部の無文帯を区画する沈線が横位に走る。頸部にはLの単節縄文を地文とし、3段の円形刺突文から垂下する対弧状文で覆われた裏手文4単位と、1段の円形刺突文から垂下する2本の沈線と、その間を充填する列点文が施されている。	小粒・長石・スコリア 褐色 普通	P4 床面 堀之内1式 埋塞 P.L13	80%
	縄文土器	B (32.6)				
2	深鉢形土器	A [21.6]	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部に鋭い陥らみを持ち、頸部は緩く括れ、わずかに外傾して口縁部に至る。口縁部には横位の沈線が走り、無文帯が区画されている。沈線下から、対弧状文で覆われた裏手文と対弧状文がRLの単節縄文の上に施されている。	小粒・長石・スコリア 暗褐色 普通	P5 床面、覆土下層 堀之内1式 P.L13	20%
	縄文土器	B [15.2]				
3	深鉢形土器	A [24.6]	口縁部破片。頸部は緩く括れ、口縁部に至る。無文。	小粒・長石・スコリア・砂粒 褐色 普通	P6 覆土下層 堀之内1式	10%
	縄文土器	B (8.5)				
4	深鉢形土器	B [31]	底部破片。平底。	小粒・長石・石英 スコリア 褐色 普通	P7 床面 堀之内1式	5%
	縄文土器	C 7.8				

図版番号	類別	計測値				石質	出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第10図5	石 柱	4.0	2.4	1.9	16.0	チャート	覆土中	Q10 測片素材	PL13
6	石 鏃	2.5	1.6	0.3	0.8	チャート	床面	Q9	PL13
第11図7	磨 石	12.8	7.3	6.4	853.0	凝灰岩	覆土中層	Q7	
8	石 皿 (15.6)		20.0	6.3	(2060.0)	凝灰岩	覆土中層	Q8	PL13



第10图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)

大塚南東部土坑墓群出土品 第10图



第11图 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

11图 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

第4号住居跡 (第12・13・15図)

位置 調査5区南部, C6d区。

重複関係 本跡は第5号住居跡に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 北壁と東壁が第5号住居跡に掘り込まれていて残存していないが, 長径 [5.83] m, 短径5.38mの円形と推定される。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は6~30cmで, 外傾気味に立ち上がる。

床 平坦である。床面の西部が踏み固められている。西部と南西部で焼土塊が確認されている。西部と南部の焼土塊を断ち割り, 堆積状況を確認したところ, 住居跡の覆土が掘り込まれるような状況で多量の焼土が堆積していた。住居焼絶直後, まだ完全に埋没する前に壁面を利用して穴を掘り, 火を熨いた跡と見られる。南西部の焼土塊は床面との間に黒色の間層を持っており, 住居埋没後に火を熨いた跡と思われる。

炉 2か所。炉1は中央部やや南寄りに付設された地床炉である。平面形は, 北部の立ち上がり不明であるが, 長径 [85] cm, 短径70cmの楕円形で, 床面を20cm掘りくぼめている。炉床面は西部が火熱を受け, 赤変硬化している。炉2は炉1のすぐ北, 住居跡の中央部に付設された地床炉である。平面形が長径 [70] cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を15cm掘りくぼめている。西部底面が火熱を受け, 赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・骨片少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粒子多量, ローム小ブロック・焼土中ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・骨片少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・焼土小ブロック中量, 炭化粒子・骨片少量
- 4 におい赤褐色 焼土小ブロック・粒子多量, ローム粒子・焼土中ブロック中量, 炭化粒子・骨片少量
- 5 におい赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粒子多量

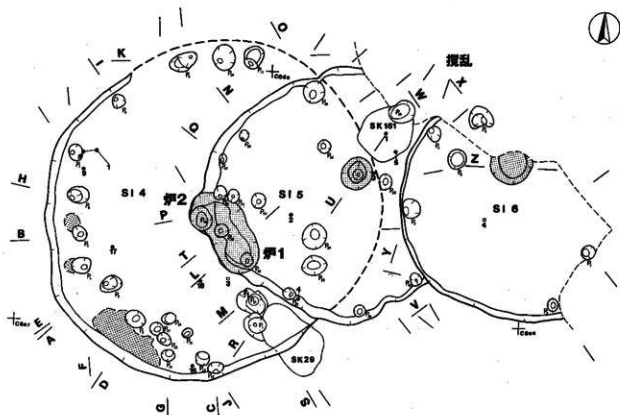
ピット 18か所 (P1~P18)。P1~P11は長径30~40cm, 短径20~35cmの楕円形で, 深さは24~60cmである。いずれもその形状や配列から支柱穴と考えられる。P12~P18は径15~20cmの円形で, 深さは14~49cmである。性格は不明である。

覆土 2層からなる。1層は斜面から流れ込んだ表土で, 2層が覆土と考えられる。自然堆積である。

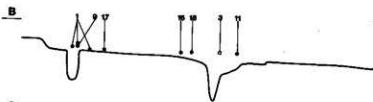
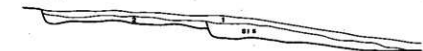
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子極少量

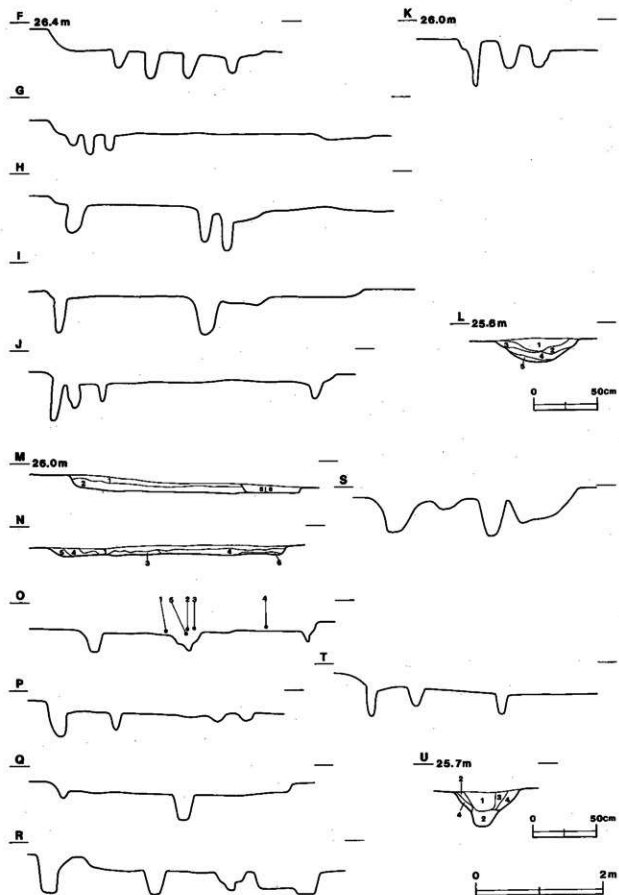
遺物 縄文土器片12,014点, 石器 (磨石, 剥片等) 24点, 獣骨, 魚骨, 鳥骨, 貝が出土している。縄文土器片は床面や下層を中心に全体的に出土しているが, 細片が多い。1は深鉢形土器の口縁部片で, 北西部の床面から出土している。8は深鉢形土器の口縁部片である。内面に沈線が廻り, 外面にはLの無節縄文を地文とし, 横位の沈線を起点に, 同心円上に重複する半円状の沈線が施されている。9は深鉢形土器の口縁部片である。内面に沈線が廻り, 外面には横位の沈線間をLの無節縄文が充填されている。10は深鉢形土器の口縁部片で, 胎土に繊維を含み, RとLの無節縄文で羽状縄文を施している。11は浅鉢の口縁部片である。Lの無節縄文を施し, 口縁部直下に補修孔が穿たれている。12は深鉢形土器の口縁部片で, 刻目の付く隆帯と沈線が横位に廻り, 補修孔が穿たれている。13は小形鉢または注口土器の頸部片と思われる。円形刺突文が充填された隆帯と, 沈線文が廻る。14は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部の無文帯を区画する横位の沈線と, そこから垂下する沈線文が施されている。15は浅鉢の口縁部片である。横位の沈線が廻り, 無節の縄文を地文として沈線が施されている。16は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部直下に半截竹管による横位の条線文が廻り, 胴部にかけて条線文が垂下する。17は深鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文を地文とし, 懸垂文が施されている。18は深鉢形土器の頸部片で, 「8」の字状の付文と連



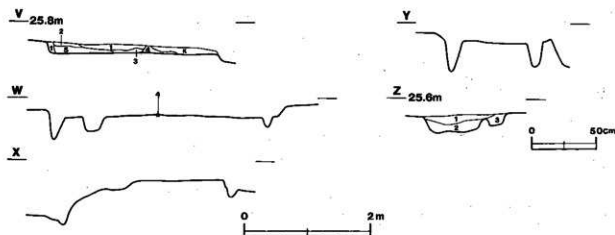
A 26.4m



第12图 第4・5・6号住居跡実測図(1)



第13圖 第4・5号住居跡実測圖(2)



第14図 第6号住居跡実測図(3)

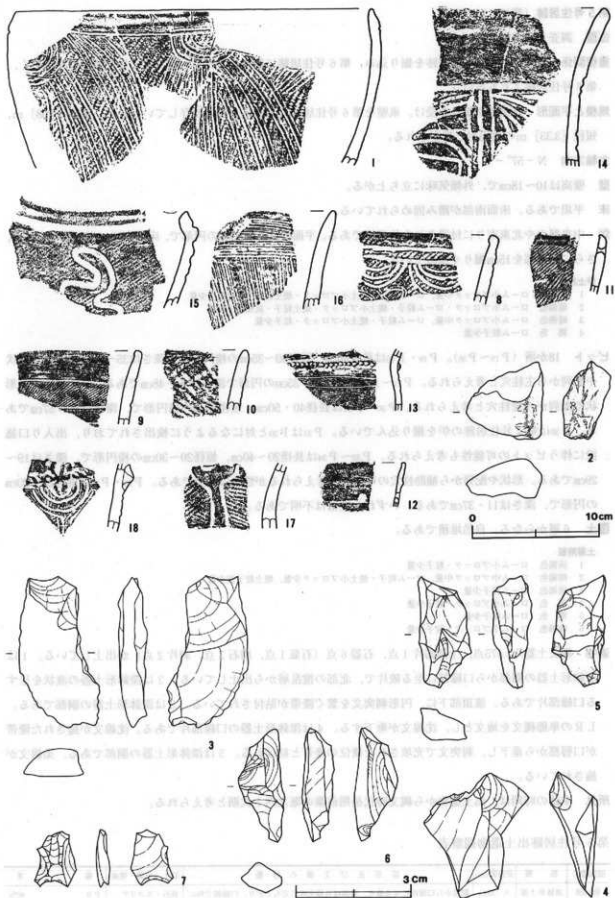
繫して円形刺突文が充填された隆帯が巡る。無節縄文を地文とし、「8」の字状の付文を起点とした同心円上に重複する半円状の沈線文が施されている。10は黒浜式、15は称名寺式、8・14~17は堀之内1式、18は堀之内2式、9・11~13は加曾利B式と考えられる。9~13・18は混入と考えられる。3は剥片で、中央部南寄りの床面から出土している。骨・貝類はいずれも炉内から出土しており、ヤマトシジミ15点、コイ科(コイまたはフナ)の椎骨2点、種不明魚類椎骨6点、鳥骨片1点、イノシシ臼歯片1個分、陸獣肋骨片1点、焼骨小片少量である。

所見 本跡の出土土器は、黒浜式、堀之内1式、堀之内2式、加曾利B式と多岐にわたるが、1が床面から出土していること、重複関係から堀之内1式期の第5号住居跡よりも古いことから、本跡の時期は、縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色面・地文	備考
第15図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (28.2) B (12.2)	胴部上半から口縁部にかけての破片。口縁部は緩やかに内傾し、二重の沈線が横位に走り、縦の狭い無文帯を区画している。胴部にはR.Lの単節縄文を地文とし、無文帯を区画する沈線を起点に、同心円上に重複する半円状のモチーフと、それから乗下する、半軌行管による対弧状文が施されている。	小礫・長石・スコリア 床面 赤褐色 普通	P 8 10% 堀之内1式 P L 14

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第15図2	磨石	(6.2)	6.1	3.7	(127.0)	安山岩	覆土中	Q11
3	剥片	4.0	2.1	0.7	6.4	珪瑯	床面	Q12
4	剥片	3.3	2.7	1.3	5.4	硬質頁岩	覆土中	Q14 旧石器 PL15
5	剥片	3.0	1.4	1.0	3.9	チャート	覆土中	Q15
6	剥片	3.0	1.2	0.8	2.1	チャート	覆土中	Q16
7	剥片	1.6	1.1	0.4	0.5	チャート	覆土中	Q17



第15図 第4号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡 (第12・13・16図)

位置 調査5区南部, C6da区。

重複関係 本跡は, 第4号住居跡を掘り込み, 第6号住居跡に掘り込まれている。第4号住居跡より新しく, 第6号住居跡よりも古い。

規模と平面形 北東壁が攪乱を受け, 東壁を第6号住居跡に掘り込まれて残存していないが, 長径 [4.08] m, 短径 [3.33] mの楕円形と推測される。

主軸方向 N-57°-E

壁 壁高は10~18cmで, 外傾気味に立ち上がる。

床 平坦である。床面南部が踏み固められている。

炉 中央部やや北東寄りに付設された地床である。平面形は直径50cmの円形で, 床面を15cmほど掘りくぼめ, さらに中央部を15cm掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

ピット 18か所 (P₁₉~P₃₆)。P₁₉・P₂₀は長径40cm, 短径30~35cmの楕円形で, 深さは35~40cmである。形状や配列から主柱穴と考えられる。P₂₁~P₂₆は直径10~35cmの円形で深さは8~48cmである。いずれもその形状や配列から壁柱穴と考えられる。P₃₀・P₃₁は長径40・50cm, 短径35cmの楕円形で, 深さは50・57cmである。P₃₀は第4号住居跡の炉を掘り込んでいる。P₃₁はP₃₀と対になるように検出されており, 出入り口施設に伴うピットの可能性も考えられる。P₃₂~P₃₄は長径20~40cm, 短径20~30cmの楕円形で, 深さは19~29cmである。形状や配列から補助柱穴の可能性も考えられるが性格は不明である。P₃₅・P₃₆は直径25・20cmの円形で, 深さは11・37cmである。いずれも性格は不明である。

覆土 6層からなる。自然堆積である。

土層解説

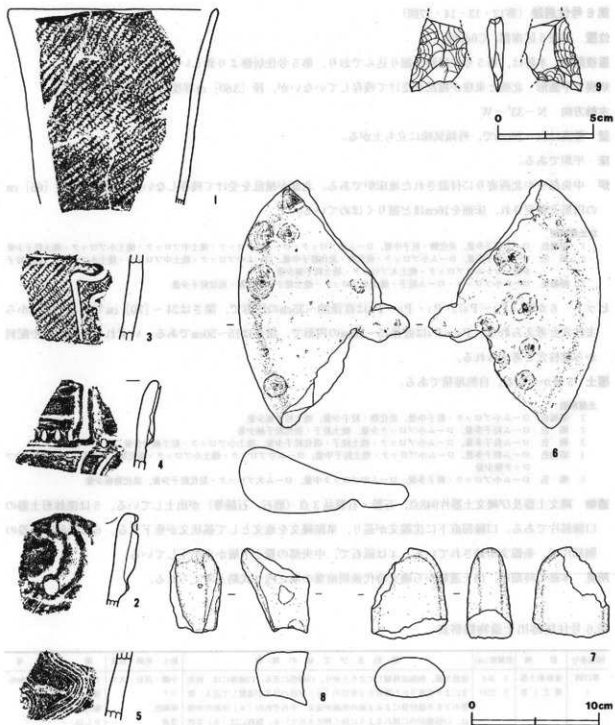
- 1 灰褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量, 焼土粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

遺物 縄文土器片1,475点, 土師器片1点, 石器6点 (石皿1点, 磨石3点, 剥片2点) が出土している。1は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 北部の攪乱層から出土している。2は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。波頂部下に, 円形刺突文を繋ぐ隆帯が貼付されている。3は深鉢形土器の胴部である。LRの単節縄文を地文とし, 沈線文が垂下する。4は深鉢形土器の口縁部片である。沈線文が施された隆帯が口唇部から垂下し, 刺突文で充填された横位の隆帯と結ばれる。5は深鉢形土器の胴部である。条線文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	貯深径 (cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第16図	深鉢形土器	A [162]	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾気味に立ち上がり, 口縁部で外に開く。口縁部から胴部にかけて, LRの単節縄文が施されている。	灰石・スクリア 暗赤褐色 普通	P 9 覆土下層 堀之内1式 P L14
1	縄文土器	B (154)			



第16図 第5号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第16図6	石皿	(17.8)	5.4	5.3	(1150.0)	凝灰岩	覆土中	Q18 PL14
7	磨石	(7.1)	(6.0)	3.8	(169.0)	凝灰岩	覆土中	Q19
8	磨石	(6.6)	(5.4)	4.0	(137.0)	凝灰岩	覆土中	Q20
9	石織	(2.0)	(1.5)	0.5	(1.0)	チャート	覆土中	Q22 PL14

第6号住居跡 (第12・13・14・17図)

位置 調査5区南部, C6ds区。

重複関係 本跡は, 第5号住居跡を掘り込んでおり, 第5号住居跡より新しい。

規模と平面形 北壁と東壁が攪乱を受けて残存していないが, 径 [3.80] m程度の円形と推定される。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は14~26cmで, 外傾気味に立ち上がる。

床 平坦である。

炉 中央部やや北西寄りに付設された地床炉である。北部が攪乱を受けて残存しないが, 平面形は径 [65] cmの円形と推定され, 床面を16cmほど掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1・P5・P6は直径30~35cmの円形で, 深さは24~[70] cmである。配列から主柱穴と考えられる。P2~P4は直径15~30cmの円形で, 深さは15~50cmである。いずれもその形状や配列から壁柱穴と考えられる。

覆土 5層からなる。自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化物・粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量, 焼土中ブロック極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・炭化粒子少量, 炭化物極少量

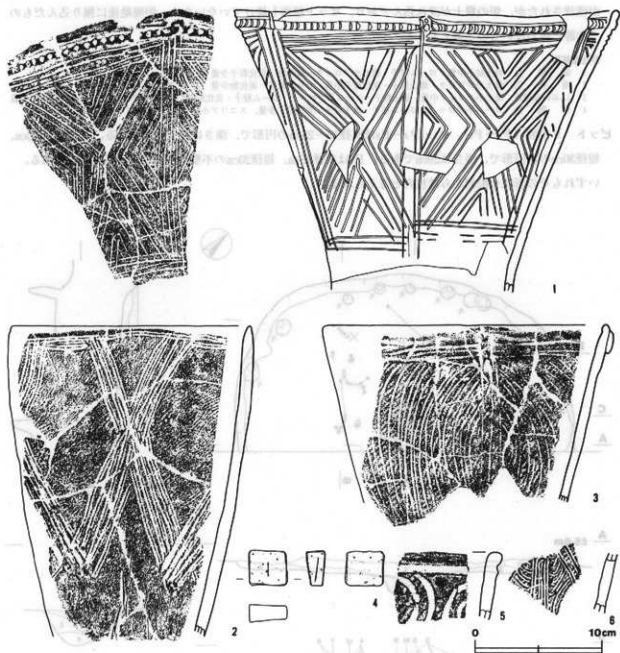
遺物 縄文土器及び縄文土器片948点, 石器・石製品3点 (磨石, 石錐等) が出土している。5は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部直下に沈線文が巡り, 単節縄文を地文として弧状文が垂下する。6は深鉢形土器の胴部片で, 条線文が施されている。4は砥石で, 中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内2式期と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	深鉢形土器	A 304	高部欠損。胴部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部には, 刺突文により充填された数帯と3単位の「8」字状の付文が連続して走る。数帯の下を半截竹管による2本の沈線が通る。それぞれの「8」字状の間には, 口唇部が内へ括れるように強く押圧されている。胴部には「8」字状の付文とそれらの中間を起点とし, 直線的に垂下する沈線文とその両面に構成される沈線文が施されている。	小礫・長石・スコリア 暗褐色 普通	P10 覆土中 堀之内2式 P.L15
	縄文土器	B (229)			
2	深鉢形土器	A (189)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾気味に立ち上がり, 口縁部近くで強く内傾する。上の無節縄文を地文として, 口唇部の下に二重の沈線が巡り, そこから半截竹管による沈線が斜位に垂下する。	小礫・長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P11 覆土中 堀之内2式 P.L14
	縄文土器	B (265)			
3	深鉢形土器	A [224]	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は小波状を呈し, 口唇部の下に三重の沈線が, 内面上位に沈線が高る。波状部の下の突起を起点として対弧状文が垂下する。	小礫・長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P12 覆土中 堀之内式 P.L14
	縄文土器	B (140)			

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第17図4	砥石	2.7	3.1	1.5	21.0	凝灰岩	床面	Q26 PL15



第17図 第6号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡 (第18・19・20・21図)

位置 調査6区西部, C4be区。

規模と平面形 南西壁が調査区域外のため規模は不明であるが、長径 [5.64] m、短径5.32mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-47°-E

壁 壁高は25~37cmで、外傾気味に立ち上がる。

床 平坦である。

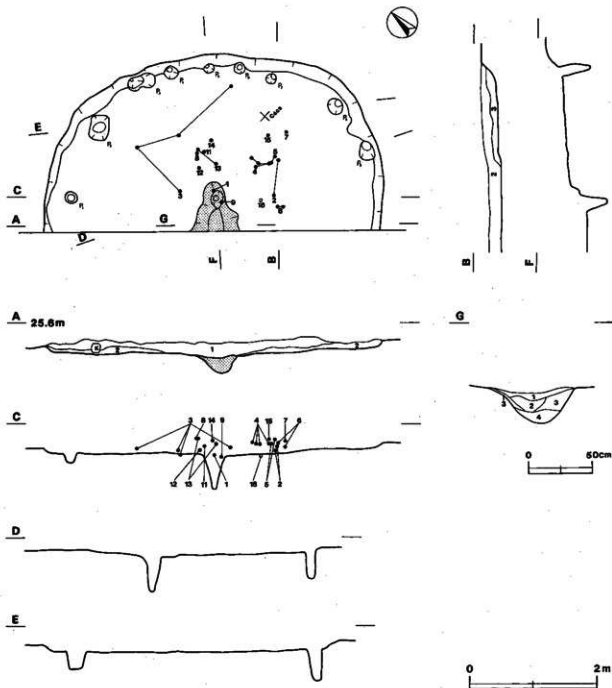
炉 中央部に付設された地床炉である。一部が調査区域外であるが、長径(80)cm、短径80cmの不整楕円形と推定され、床面を28cm掘りくぼめている。炉の北東側に、長径40cm、短径35cmの楕円形で深さ59cmのピット

が確認されたが、炉の覆土が流れ込んでおり、ピット壁面も焼けていないため、炉廃絶後に掘り込んだもので本跡に伴わないものと考えられる。

伊土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子・炭化物少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・スコリア小ブロック・スコリア粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、スコリア小ブロック・スコリア粒子少量

ピット 9か所 (P₁~P₉)。P₁・P₄~P₈は直径15~25cmの円形で、深さは17~48cmである。P₂は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さは29cmである。P₉は長径45cm、短径20cmの不整形円形で、深さは64cmである。いずれもその形状や配列から壁柱穴と考えられる。



第18図 第7号住居跡実測図

覆土 3層からなる。自然堆積である。

土層解説

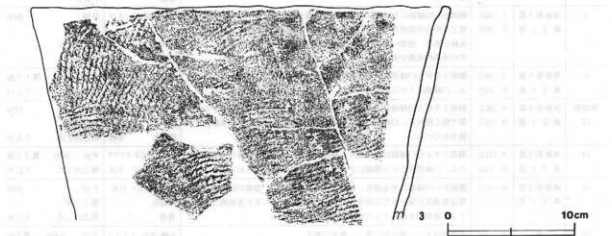
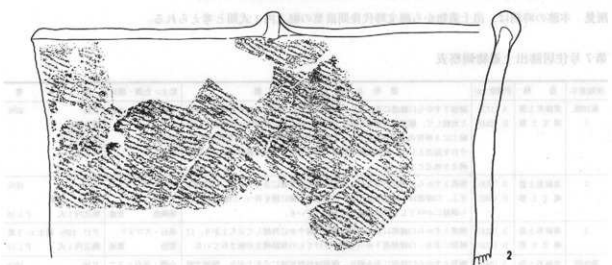
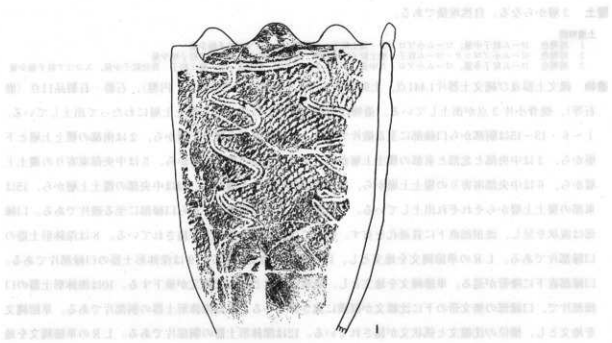
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・スコリア粒子極少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化粒子少量、スコリア粒子極少量
 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、スコリア粒子極少量

遺物 縄文土器及び縄文土器片1,441点、土師器片1点、土製品2点(垂飾り、円盤)、石器・石製品11点(磨石等)、焼骨小片3点が出土している。遺物は中央部を中心に床面から覆土上層にわたって出土している。1～6・13～15は胴部から口縁部に至る破片である。1は中央部の覆土下層から、2は南部の覆土上層と下層から、3は中央部と北部と東部の覆土上層から、4は中央部の覆土上層から、5は中央部東寄りの覆土上層から、6は中央部南寄りの覆土上層から、13は中央部の覆土上層から、14は中央部の覆土上層から、15は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。7は深鉢形土器の胴部上半から口縁部に至る破片である。口縁部は波状を呈し、波頂部直下に貫通孔を有す。胴部にはLRの単節縄文が施されている。8は深鉢形土器の口縁部片である。LRの単節縄文を地文とし、口唇部に刺突文が巡る。9は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部直下に隆帯が巡る。単節縄文を地文とし、隆帯を起点とした沈線文が垂下する。10は深鉢形土器の口縁部片で、口縁部の無文帯の下に沈線文が縦横に施されている。11は深鉢形土器の胴部片である。単節縄文を地文とし、横位の沈線文と弧状文が施されている。12は深鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文を地文とし、沈線文が垂下する。18は磨石で、中央部床面から出土している。

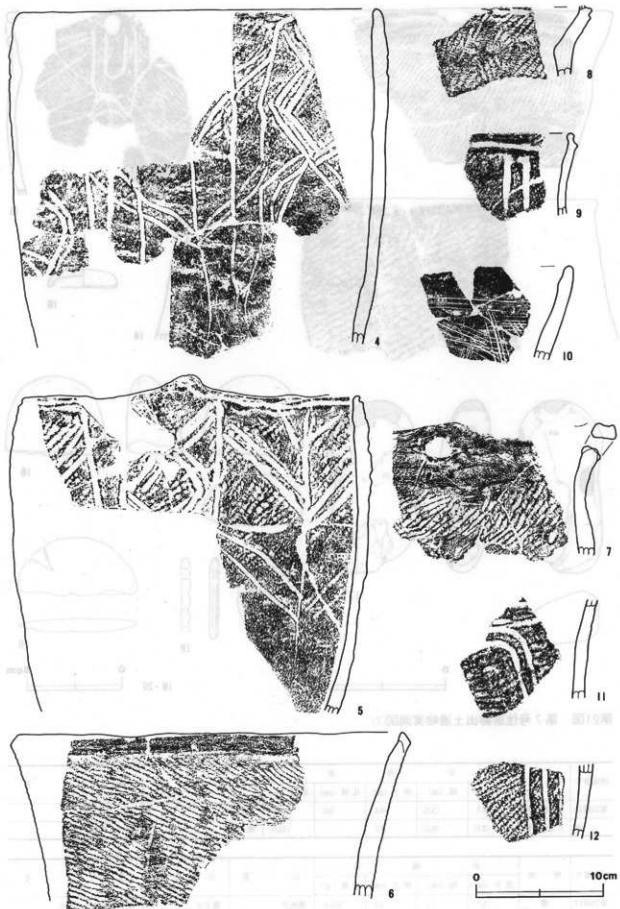
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

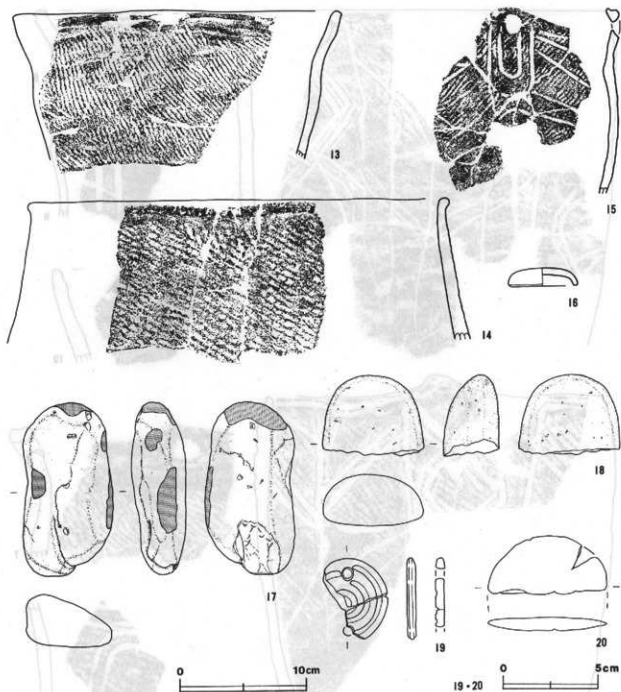
図版番号	器 種	新編図番 (cm)	器 形 及 ビ 文 様 の 特 徴	粘土・色調・硬度	備 考
第1図	深鉢形土器	A (17.7)	胴部下半から口縁部に至る破片。内傾状を呈して口縁部に至る胴部上半部と比較して、胴部下半部は小振りな底部に向かって直線的に収束する。口縁部に3単位の小波状を呈する。口縁部には半軟竹管による沈線が巡り、それを起点として、総行沈線が胴部下半まで垂下する。胴部はLRの単節縄文を地文とする。	小磯・長石・スコリア	P14 40% 覆土下層 堀之内1式 P.L16
	縄文土器	B (24.6)		暗褐色 普通	
2	深鉢形土器	A (36.8)	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部は外傾気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は小波状を呈する。口唇部は外側に稜を持つ。口縁部直下から胴部にかけてLRの単節縄文が施されている。	小磯・長石・スコリア	P15 15% 覆土上・下層 堀之内1式 P.L16
	縄文土器	B (30.2)		暗褐色 普通	
3	深鉢形土器	A (32.8)	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部は縦やかに外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部直下から胴部にかけてLの無節縄文が施されている。	長石・スコリア	P17 15% 覆土上・下層 堀之内1式 P.L17
	縄文土器	B (17.2)		暗褐色 普通	
第20図	深鉢形土器	A (28.0)	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部は外傾気味に立ち上がり、胴部で弱い折れを持ちながら口縁部に至る。口唇部内部に半軟竹管による沈線が巡る。LRの単節縄文を地文とし、口縁部直下から、X字状の多糸の沈線が垂下する。	小磯・長石・スコリア	P16 15% 覆土上層 堀之内1式 P.L17
	縄文土器	B (26.6)		暗褐色 普通	
5	深鉢形土器	A (26.6)	胴部から口縁部に至る破片。胴部下半は縦やかに外傾して立ち上がり、胴部上半から内傾状を呈して口縁部に至る。口縁部は小波状を呈し、直下に沈線が巡る。胴部にはLRの単節縄文を地文とし、口縁部直下から、X字状の多糸の沈線が垂下する。	小磯・長石・スコリア	P18 30% 覆土上層 堀之内1式 P.L17
	縄文土器	B (26.8)		暗褐色 普通	
6	深鉢形土器	A (30.3)	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部直下から胴部にかけて、LRの単節縄文が施されている。	小磯・長石・スコリア	P19 10% 覆土上層 堀之内1式 P.L17
	縄文土器	B (13.2)		暗褐色 普通	
第21図	深鉢形土器	A (26.2)	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部は縦やかに外傾して立ち上がり、胴部で弱い折れが施される。口縁部の無文帯の下から胴部にかけてRLの単節縄文が施されている。	小磯・長石・スコリア	P20 10% 覆土上層 堀之内1式 P.L17
	縄文土器	B (11.7)		暗褐色 普通	
14	深鉢形土器	A (33.4)	胴部上半から口縁部に至る破片。胴部上半から縦やかに内傾し、口縁部に至る。口縁部直下から胴部にかけてRLの単節縄文が施されている。	小磯・長石・スコリア	P21 10% 覆土上層 堀之内1式 P.L16
	縄文土器	B (11.7)		暗褐色 普通	
15	深鉢形土器	B (14.7)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は縦やかに内傾し、胴部が折れる。口縁部は貫通孔が施された小波状を呈する。胴部には、LRの単節縄文を地文とし、波頂部を起点とした沈線が施されている。	小磯・長石・石英	P22 20% 覆土上層 堀之内1式 P.L16
	縄文土器			暗褐色 普通	
16	磨 石	A 5.3	天弁部は丸く、縦やかに開く。無文である。	小磯・長石・スコリア	P23 100% 覆土中層
	縄文土器	B 1.5		暗褐色 普通	堀之内1式 P.L16



第19図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第20图 第7号住居跡出土遺物実測図(2)



第21図 第7号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)			
第21図19	土製糸織り	4.3	(3.3)	0.6	0.5	(6.0)	覆土中	DP1 PL30
20	土製円盤	(3.1)	(6.2)	0.7	—	(12.0)	覆土中	DP2 PL30

図版番号	種別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第21図17	織	13.7	7.1	4.3	561.0	凝灰岩	覆土中	Q27 朱付着 PL17
18	磨石	(6.4)	8.0	4.6	(396.0)	安山岩	床面	Q28 PL17

第10号住居跡 (第22・23・24図)

位置 調査6区北西部, B4is区。

規模と平面形 西側にピットを伴う細い溝2条が「ハ」の字状に確認されており, 柄鏡形の住居跡と考えられる。住居跡本体は長径5.53m, 短径4.72mの楕円形で, 出入り口部は長さ1.30m, 最大幅1.25mである。

主軸方向 N-97°-E

壁 壁高は14~28cmで, 外傾気味に立ち上がる。

床 平出である。東壁近くと南東壁近くの2か所で焼土が検出されている。ともに覆土上層に薄く堆積するのみであり, 投棄された焼土と考えられる。

炉 中央部やや東寄りに付設された地床炉である。平面形は長径1.28m, 短径52cmの不整楕円形で, 床面を12cm掘りこぼれている。

炉土層解説

1 暗褐色	焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量	5 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 褐色	ローム粒子少量
3 褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量		
4 褐色	ローム小ブロック・粒子少量		

ピット 33か所 (P1~P33)。P1・P7・P13・P21は径30~50cmの円形で, 深さは39~71cmである。形状や配列から主柱穴と考えられる。P2~P6・P8~P12・P14・P22・P27は, 径18~42cmの円形で, 深さは11~70cmである。主柱穴間に配置されており, 主柱穴よりも小さくて浅い柱穴が多いため, 補助柱穴と考えられる。P28~P33は長径20~50cm, 短径8~45cmの楕円形で, 深さは18~60cmである。配列から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P15~P20・P23~P26は径15~50cmの円形で, 深さは12~43cmである。いずれも性格は不明である。

P1土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・極少量
2 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
4 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

P2土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量
3 褐色	ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量

P3土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
2 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化物極少量
3 褐色	ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

P4土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
4 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量

P15土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化物中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量
3 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量, 炭化粒子極少量
4 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子極少量

P21土層解説

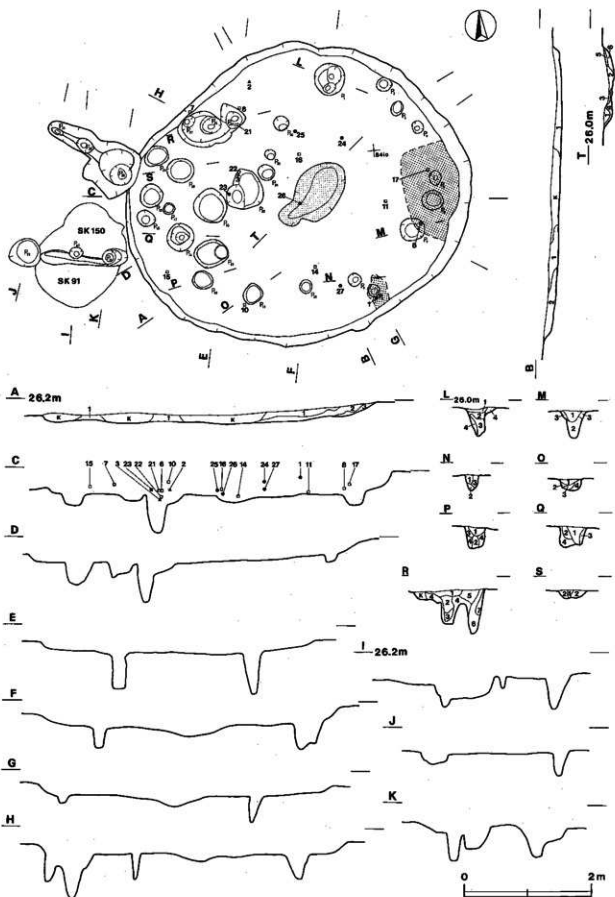
1 暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子極少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 炭化粒子極少量
4 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック少量

P23土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

P27・28土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量, 炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量, 炭化物極少量
5 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量
6 褐色	ローム粒子多量
7 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・焼土小ブロック少量, 炭化物・粒子極少量



第22图 第10号住居跡実測图

覆土 3層からなる。上部は削平と擾乱が著しく、自然堆積か人為堆積かの判断は困難であるが、残された覆土の状況から自然堆積の可能性が高いと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

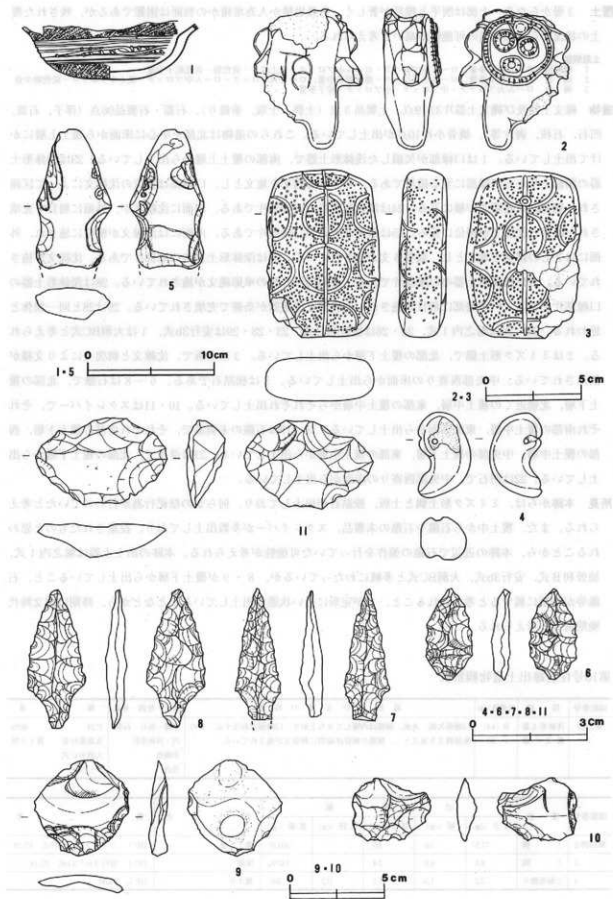
遺物 縄文土器及び縄文土器片3,619点、土製品3点(土偶、土版、垂飾り)、石器・石製品96点(浮子、石皿、凹石、石核、剥片等)、焼骨片10点が出土している。これらの遺物は北部を中心に床面から覆土上層にかけて出土している。1は口縁部が欠損した浅鉢形土器で、南部の覆土上層から出土している。23は深鉢形土器の胴部上半から口縁部に至る破片である。Lの無節縄文を地文とし、口縁部は横位の沈線文によって区画され、胴部には連弧文が横に廻る。24は深鉢形土器の口縁部片である。内面に沈線文が、外面に刻目で充填された隆帯と沈線文が横位に廻る。25は深鉢形土器の口縁部片である。内面には沈線文が横位に施され、外面にはRLの縄文を地文とし、渦巻き文が施されている。26は深鉢形土器の口縁部片である。沈線文が施されている。27は深鉢形土器の口縁部片である。沈線間にL Rの単節縄文が施されている。28は深鉢形土器の口縁部片である。口縁端部に刻目が施され、口唇部と沈線間が条線で充填されている。29は28と同一個体と思われる。25・26は堀之内1式、24・26は加曾利B式、23・28・29は安行3b式、1は大洞BC式と考えられる。2はミズク形土器で、北部の覆土下層から出土している。3は土版で、沈線文と刺突文により文様が描出されている。中央部西寄りの床面から出土している。5は独鈷石である。6～8は石鏃で、北部の覆土下層、北壁近くの覆土中層、東部の覆土中層からそれぞれ出土している。10・11はスクレイパーで、それぞれ南部の覆土中層、東部床面から出土している。14～17は石鏃の未製品で、それぞれ南部の覆土下層、西部の覆土中層、中央部の覆土下層、東部の覆土中層から出土している。21は浮子で、北部の覆土下層から出土している。22は凹石で、中央部西寄りの床面から出土している。

所見 本跡からは、ミズク形土器と土版、独鈷石が出土しており、何らかの祭祀行為が行われていたと考えられる。また、覆土中から石鏃や石鏃の未製品、スクレイパーが多数出土しており、投棄されたものと思われることから、本跡の近辺で石鏃の製作を行っていた可能性が考えられる。本跡の出土土器は堀之内1式、加曾利B式、安行3b式、大洞BC式と多岐にわたっているが、8・9が覆土下層から出土していること、石鏃等が晩期に属すると考えられること、1が完形に近い状態で出土していることなどから、時期は縄文時代晩期前葉と考えられる。

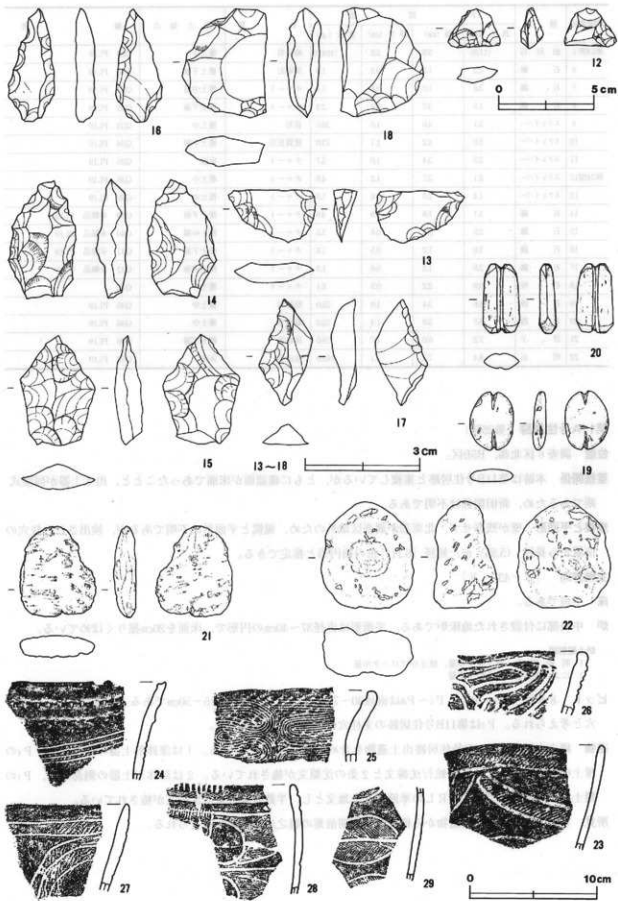
第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第23図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (44) C: 5.0	口縁部欠損。丸底。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。Rの無節縄文を地文とし、胴部の横位沈線間に刺突文が施されている。	小磯・灰石・石英 内・外面赤影 赤褐色 普通	P24 60% 底面煤片着 覆土上層 大洞BC式 P.L18

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 場 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第23図2	土 偶	(7.5)	5.9	3.0	—	(104.0)	覆土下層	DP2 ミズク形 安行式 PL18
3	土 版	8.9	6.0	2.4	—	147.0	床面	DP4 安行3b~3c式 PL18
4	土製垂飾り	2.2	1.3	1.1	0.2	3.0	覆土中	DP5 PL30



第23图 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第24图 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第23図5	旗 形 石	(11.0)	5.9	2.5	(194.0)	凝灰岩	覆土中	Q29 PL18
6	石 鏃	2.3	1.2	0.5	1.0	黒曜石	覆土下層	Q30 PL19
7	石 鏃	3.6	1.2	0.6	1.4	チャート	覆土中層	Q31 PL19
8	石 鏃	1.5	3.7	0.6	2.3	チャート	覆土下層	Q32 PL19
9	スタレイバー	5.1	4.9	1.9	20.0	頁岩	覆土中	Q33 PL19
10	スタレイバー	3.0	4.2	1.1	13.0	硬質頁岩	覆土中層	Q34 PL19
11	スタレイバー	2.3	3.4	1.0	5.7	チャート	床面	Q35 PL19
第24図12	スタレイバー	2.1	2.7	1.2	4.8	チャート	覆土中	Q36 PL19
13	スタレイバー	1.4	2.3	0.6	1.5	チャート	覆土中	Q38 PL19
14	石 鏃	3.1	1.8	0.9	4.9	チャート	覆土下層	Q39 未製品 PL19
15	石 鏃	2.9	2.0	0.6	3.5	チャート	覆土中層	Q40 未製品 PL19
16	石 鏃	3.0	1.2	0.6	1.8	チャート	覆土下層	Q41 未製品 PL19
17	石 鏃	2.8	1.3	0.6	1.5	チャート	覆土中層	Q42 未製品 PL19
18	石 鏃	2.9	2.2	0.9	6.1	チャート	覆土中	Q43
19	石 鏃	4.6	3.4	1.0	25.0	粘板岩	覆土中	Q45 PL19
20	石 鏃	5.5	3.0	1.4	32.0	凝灰岩	覆土中	Q46 PL19
21	浮 子	7.2	6.0	1.7	19.0	流紋岩	覆土下層	Q49 PL19
22	凹 石	8.4	7.3	5.1	162.0	安山岩	床面	Q52 PL19

第11A号住居跡 (第25図)

位置 調査6区北部, B5f2区。

重複関係 本跡は第11B号住居跡と重複しているが、ともに確認面が床面であったことと、出土土器が同型式期であるため、新旧関係は不明である。

規模と平面形 壁が残存せず、北東部が調査区域外のため、規模と平面形は不明であるが、検出された柱穴の位置から長径 (5.55) m, 短径 [6.11] mの楕円形と推定できる。

主軸方向 [N-43°-E]

床 平坦である。

炉 中央部に付設された地床炉である。平面形は直径37~40cmの円形で、床面を20cm掘りくぼめている。

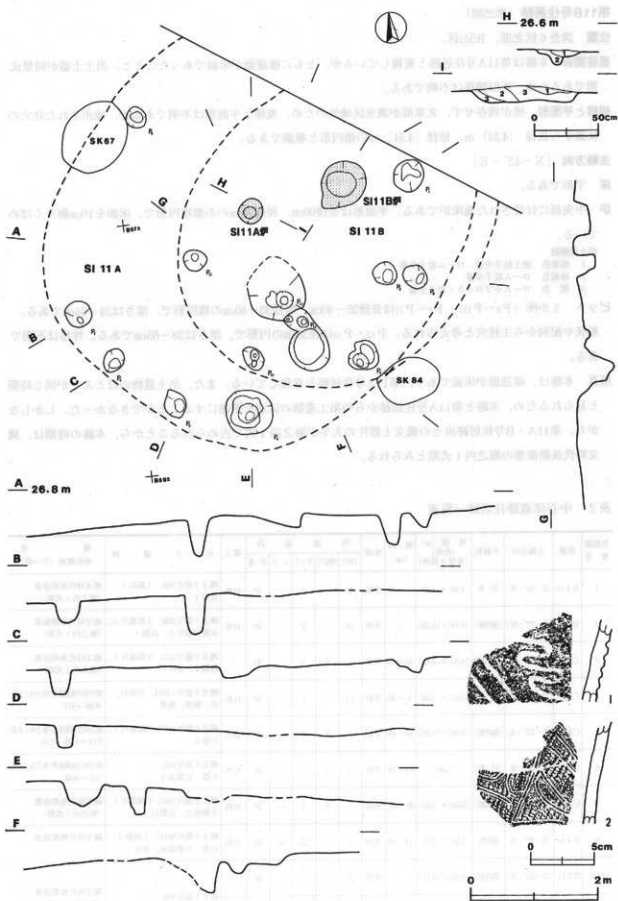
炉土層解説

- 1 明赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量
- 2 におい赤褐色 焼土粒子中量

ピット 8か所 (P1~P8)。P1~P8は直径30~75cmの円形で、深さは15~50cmである。形状や配列から主柱穴と考えられる。P3は第11B号住居跡の主柱穴の可能性も考えられる。

遺物 縄文土器片が第11B号住居跡出土遺物を含めて309点出土している。1は深鉢形土器の胴部片で、P4の覆土中から出土している。蛇行沈線文と2条の沈線文が施されている。2は深鉢形土器の胴部片で、P1の覆土中から出土している。RLの単節縄文を地文とし、半截竹管による沈線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。



第25図 第11A・B号住居跡実測図・出土遺物実測図

第11B号住居跡 (第25図)

位置 調査6区北部, B5f2区。

重複関係 本跡は第11A号住居跡と重複しているが, ともに確認面が床面であったことと, 出土土器が同型式期であるため, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 壁が残存せず, 北東部が調査区域外のため, 規模と平面形は不明であるが, 検出された柱穴の位置から長径 [4.24] m, 短径 [4.51] mの楕円形と推測できる。

主軸方向 [N-42°-E]

床 平坦である。

炉 中央部に付設された地床炉である。平面形は長径90cm, 短径70cmの不整楕円形で, 床面を10cm掘りくぼめている。

炉土層構成

- 1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

ピット 5か所 (P9~P13)。P9~P11は長径35~40cm, 短径30~40cmの楕円形で, 深さは24~64cmである。

形状や配列から主柱穴と考えられる。P12・P13は径35cmの円形で, 深さは38~65cmである。性格は不明である。

所見 本跡は, 確認面が床面であり, 第11A号住居跡と重複している。また, 出土遺物のほとんどが同じ時期と見られるため, 本跡と第11A号住居跡からの出土遺物の区別を明確にすることができなかった。しかしながら, 第11A・B号住居跡出土の縄文土器片の大半が堀之内1式で占められることから, 本跡の時期は, 縄文時代後期前葉の堀之内1式期とみられる。

表2 中谷津遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (古一新)	
							主柱穴	副柱穴	ピット	入口扉・竈				
1	E4j	N-77°-W	円形	4.46×4.23	1~5	平坦	2	—	5	—	伊	自然	縄文土器片569, 土製品1, 石器2	縄文時代後期前葉 (堀之内1式期)
2	E4j	[N-77°-W]	[楕円形]	[6.76]×[5.59]	—	平坦	10	—	2	—	伊	自然	縄文土器片298, 土器器片3, 瓦質土器片2, 石器4	縄文時代後期前葉 (堀之内1式期)
3	C6es	N-59°-E	[楕円形]	[4.24]×[3.81]	30~60	平坦	—	6	2	—	伊	—	縄文土器片217, 土器器片1, 石器4, 骨片	縄文時代後期前葉 (堀之内1式期)
4	C6dr	N-38°-W	[円形]	[5.83]×[5.38]	6~30	平坦	11	—	7	—	伊	自然	縄文土器片12014, 石器24, 貝, 獣骨, 魚骨	縄文時代後期前葉(堀之内1式期) 本跡→S15
5	C6ds	N-57°-E	[楕円形]	[4.08]×[3.33]	10~16	平坦	2	9	7	—	伊	自然	縄文土器片1475, 土器器片1, 石器6	縄文時代後期前葉(堀之内1式期) S14→本跡→S16
6	C6de	N-33°-W	[円形]	[3.80]	14~26	平坦	3	3	—	—	伊	自然	縄文土器片948, 石器・土製品3	縄文時代後期前葉(堀之内1式期) S15→本跡
7	C4bs	N-47°-E	[楕円形]	[5.64]×[5.32]	25~37	平坦	—	9	2	—	伊	自然	縄文土器片1441, 土器器片1, 土製品2, 石器11	縄文時代後期前葉 (堀之内1式期)
10	E4is	N-97°-E	楕円形	5.53×4.72	14~28	平坦	4	—	22	6	伊	自然	縄文土器片3619A, 土製品3, 石器・土製品96, 骨片	縄文時代後期前葉
11A	B5fs	[N-43°-E]	[楕円形]	[5.55]×[6.11]	—	平坦	8	—	—	—	伊	—	縄文土器片309	縄文時代後期前葉 (堀之内1式期)
11B	B5fs	[N-42°-E]	[楕円形]	[4.24]×[4.51]	—	平坦	3	—	2	—	伊	—		

2 古墳

当遺跡から、古墳時代後期の方墳を1基検出した。以下、検出した方墳とそこから出土した遺物について記載する。

第1号古墳 (第26・27・28・29図)

現況と確認状況 墳丘封土は削平されて残存せず、表土除去により周溝と石室の一部が検出された。

位置 調査6区北部のB5区及びC5区に位置している。台地上の平坦な場所に立地している。

重複関係 第10・11号溝、第129号土坑に掘り込まれており、本跡の方が古い。

墳形及び規模 周溝の規模と平面形から東西約14m、南北約13mの方墳である。

墳丘 後世の削平により残存しない。

主軸方向 N-7°-E

周溝 方形に全周している。本跡の周溝外側での規模は、東西約162m、南北約15.8mとなる。上幅0.6~1.6m、下幅0.3~1m、深さ10~40cmで、断面U字形に掘り込まれている。南辺中央の羨道に接する外側部分は、下方を掘り残しているため幅が狭くなっている。覆土は基本的にレンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

周溝土層解説 A-A'

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

周溝土層解説 B-B'

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

周溝土層解説 C-C'

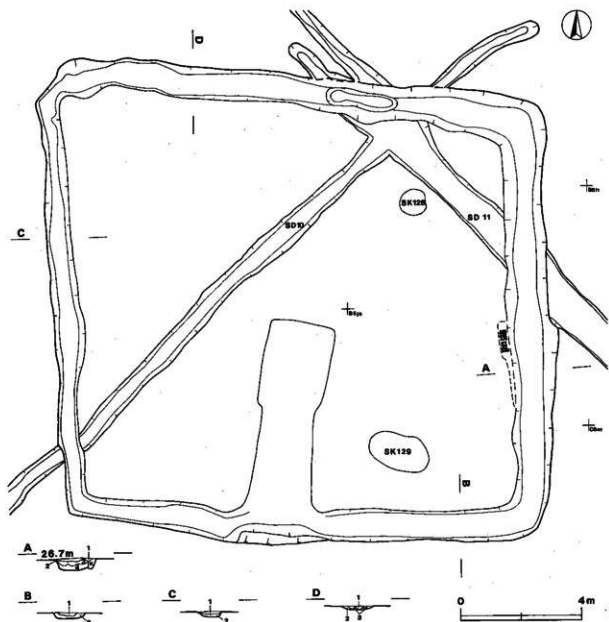
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

周溝土層解説 D-D'

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

埋葬施設 埋葬施設はロームを掘り込んだ半地下式の横穴式石室で、墳丘中央部やや南寄りで確認されている。

玄室部分と羨道部分に分かれ、羨道は南端で周溝に開いている。主軸方向は墳丘主軸よりもやや東に振れ、N-12°-Eである。玄室部分の掘り方の規模は、確認面で、長さ約3m、幅約2.2m、深さ約0.7mで、底面で長さ約1.8m、幅約1.5mである。北壁は外傾して、東壁と西壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面東部と西部北寄りに側壁の石材を立てた痕と思われる掘り込みが残る。覆土は、ローム小ブロック・粒子中心の土層で自然堆積である。北壁・東壁・西壁側は粘土ブロックが多量に混じっており、壁の補強や裏込めに粘土を使用したと思われる。羨道部分の掘り方の規模は長さ約4m、幅約1.8m、深さ約0.5mで、底面で長さ約3m、幅約0.8mである。玄室部分より幅が狭く、東西両袖の立ち上がりが緩やかである。羨道のほぼ中央部が長径80cm、短径40cmの楕円形に掘り込まれており、南端部分が周溝に向かって緩やかに落ち込んでいる。これらの凹凸を埋め戻して、羨道の床面としている。石室は、玄室のみが雲母片岩の板石で構築されていたと思われるが、天井石、奥壁、両側壁とも石材は抜かれていた。玄室は、石材の抜き取り痕や敷石から復元すると、長さ約1.7m、幅約1.0mの長方形である。玄室の床面には雲母片岩の小形の板石がほぼ一面に敷かれている。また、玄室と羨道の境に雲母片岩の板石が1枚、長軸方向を横にして立てた直立の状態を確認されており、欄石と考えられる。

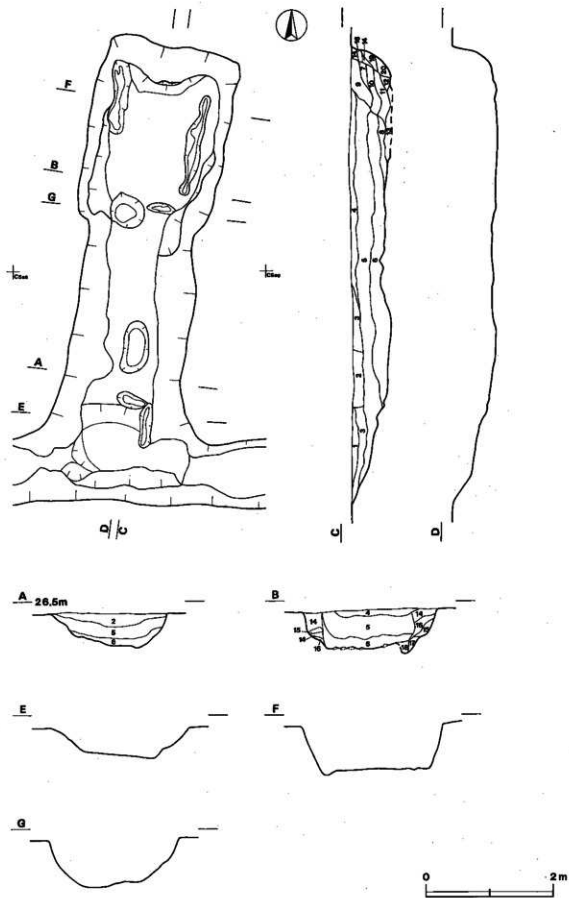


第26図 第1号古墳実測図(1)

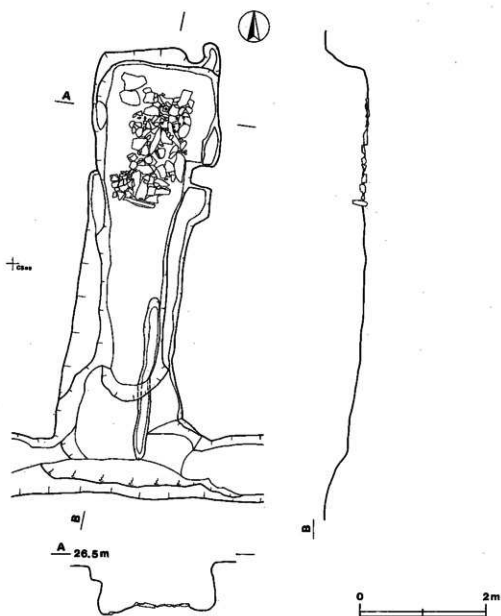
覆土

埋葬施設土層解説

- | | | |
|----|-------|--|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・スコリア粒子極少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量 |
| 4 | 灰褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 | 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化物極少量 |
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子・礫多量, 炭化物極少量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・小ブロック少量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 黄褐色粘土小ブロック極少量 |
| 12 | 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, 黄褐色粘土小ブロック少量, 炭化物極少量 |
| 13 | 灰褐色 | 骨片多量, ローム粒子中量 |
| 14 | 褐色 | ローム小ブロック・粒子多量, 炭化物少量 |
| 15 | にぶい褐色 | ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック多量, ローム小ブロック少量 |
| 16 | 褐色 | ローム粒子多量, 粘土小ブロック・粒子多量 |
| 17 | 暗褐色 | 雲母片岩小礫多量 |
| 18 | 暗褐色 | 粘土粒子中量 |
| 19 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量 |
| 20 | にぶい褐色 | ローム小ブロック・粒子中量 |



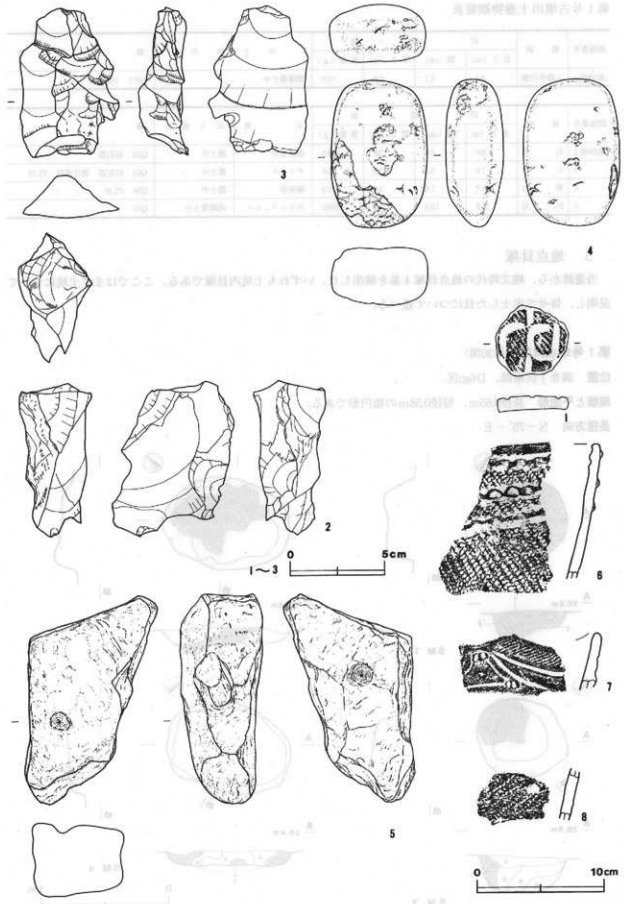
第27图 第1号古墳実測図(2)



第28図 第1号古墳実測図(3)

遺物 骨片が玄室の床面中央部で確認されている。ヒト1～2体分の歯と四肢骨の一部分で、性別は不明であるが成人と思われる。本跡に埋葬された人骨と考えられる。そのほか、縄文土器片1,726点、土師器片10点、土製品1点(土器片円盤)、石器5点(剥片1点、石核1点、磨石2点、凹石1点)が出土している。土師器片以外はすべて混入で、本跡に伴うものではない。土師器片はいずれも細片で実測が不可能である。6は深鉢形土器の口縁部片で、口縁部内面に二重の沈線が施されている。外面にはRLの単節縄文を地文とし、押圧された隆帯が三重に巡る。加曾利B式と考えられる。7は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片で、RLの単節縄文の縄文帯に沿って沈線が施され、豚鼻状の付文が施されている。安行3b式と考えられる。8は胴部片で胎土に繊維を含む。黒浜式と考えられる。

所見 本跡に伴う出土遺物がほとんどないが、形状から古墳時代後期後半の7世紀の方墳と考えられる。



第29図 第1号古墳出土遺物実測図

第1号古墳出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第29図1	土器片断	3.8	3.7	0.9	120	周溝覆土中	DP3 PL30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第29図2	石核	8.0	6.4	3.8	140.0	硬質頁岩	覆土中	Q63 旧石器
3	石核	7.9	5.2	2.6	75.0	チャート	覆土中	Q64 旧石器 剥片素材 PL19
4	磨石	11.7	7.6	4.6	674.0	凝灰岩	覆土中	Q56 PL19
5	凹石	16.6	10.5	7.1	1250.0	ホルンフェルス	周溝覆土中	Q57

3 地点貝塚

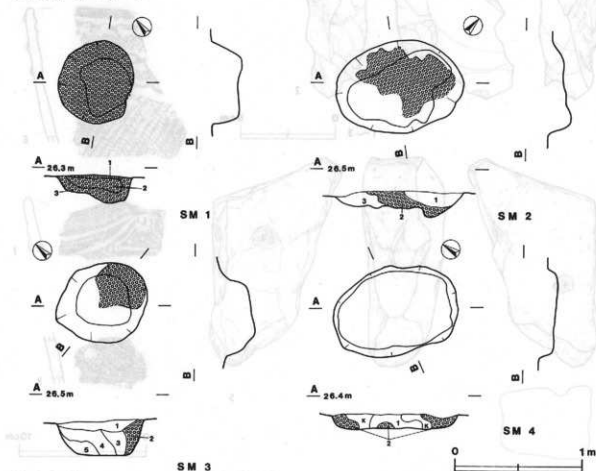
当遺跡から、縄文時代の地点貝塚4基を検出した。いずれも土坑内貝塚である。ここではまず土坑について説明し、併せて出土した貝について述べる。

第1号地点貝塚 (第30図)

位置 調査1区南部, D6g区。

規模と平面形 長径0.65m, 短径0.58mの楕円形である。

長径方向 N-75°-E



第30図 第1・2・3・4号地点貝塚実測図

国史実跡出土調査1編 図版58

壁 壁高は20~24cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなる。いずれの層にも貝が含まれており、3層とも人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 混貝土層 ローム粒子中量、貝少量
- 2 混貝土層 貝多量、ローム粒子少量
- 3 混貝土層 貝・ローム粒子少量

遺物 ヤマトシジミ7,939点、マツカサガイ3点、イボニシ1点、ハマグリ7点(L4・R3)、オキシジミ1点(R)、オオノガイ1点(L)が出土している。ヤマトシジミは殻長24~26mmのものが大半を占めている。ハマグリは殻長は48.9~66.1mmである。その他、縄文土器片20点が出土している。いずれも細片であるが、その大半が称名寺式から堀之内1式期と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

第2号地点貝塚(第78号土坑)(第30図)

位置 調査6区北部、B5g1区。

規模と平面形 長径1.02m、短径0.73mの楕円形である。

長径方向 N-35°-E

壁 壁高は10~17cmで、外傾ぎみに立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなる。第1・3層はロームブロック・粒子中心の土層で、貝はその間の第2層に含まれている。いずれも含有物から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子多量、ローム大ブロック・中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 2 混貝土層 ローム粒子多量、貝・ローム小ブロック中量、炭化物・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

遺物 ヤマトシジミ636点が出土している。殻長24~26mmのものが多く、その他、縄文土器片44点が出土している。いずれも細片であるが、その大半が後期と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第3号地点貝塚(第77号土坑)(第30・31図)

位置 調査6区北部、B5g1区。

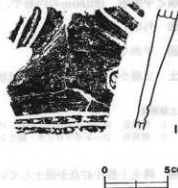
規模と平面形 長径0.75m、短径0.65mの楕円形である。

長径方向 N-58°-W

壁 壁高は20~25cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 5層からなる。第2層に貝が含まれており、第3~5層はロームブロック中心の土層である。含有物等から、第1層は自然堆積、第2~5層は人為堆積と考えられる。



第31図 第3号地点貝塚出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 泥貝土層 貝中量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・小ブロック少量

遺物 ヤマトシジミ20点、縄文土器片24点が出土している。1は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。

波頂が欠損している。口縁端部に沈線が施され、頸部に沈線と刺突文が横位に施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

第4号地点貝塚(第145号土坑)(第30図)

位置 調査6区南東部、C6区。

規模と平面形 長径1.00m、短径0.70mの楕円形である。

長径方向 N-49°-W

壁 壁高は10cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。第2層に貝が含まれている。含有物等から、2層とも人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量
- 2 泥貝土層 ローム粒子中量、貝・ローム小ブロック少量

遺物 ヤマトシジミ20点が出土している。その他、縄文土器片9点が出土している。いずれも細片であるが、その大半が後期と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

4 土坑

調査区のはほぼ全域から、131基の土坑を検出した。出土遺物から、そのほとんどが縄文時代後期のものと考えられるが、性格は不明のものが多。ここでは、形状や出土遺物が特徴的な土坑について記述し、その他の土坑については一覧表で記載した。

第11号土坑(第32・34図)

位置 調査3区北部、E4区。

規模と平面形 径0.86mの円形で、深さ10cmである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。含有物や堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量

遺物 縄文土器片47点が出土している。3は、深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で、南西部の底面から出土している。Lの無節縄文を地文とし、沈線が斜位に施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。性格は不明である。

第14号土坑 (第32・34図)

位置 調査1区北部, C6is区。

規模と平面形 長径1.83m, 短径1.68mの楕円形で, 深さ18cmである。

長径方向 N-42°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸が著しい。

覆土 2層からなる。ロームブロック・粒子中心の土層であり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量
- 2 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量

遺物 縄文土器片105点が出土している。4は, 深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 中央部の覆土中層から出土している。口縁部内面に二重の沈線が廻り, 外面には押圧のある隆帯が巡る。胴部は単節縄文を地文とし, 斜格子目文が施されている。5は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 北部の覆土中層から出土している。口縁部内面に二重の沈線が廻り, 外面には押圧のある隆帯が巡る。胴部にはR Lの単節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期中葉の加曾利B 1~2式期と考えられる。性格は不明である。

第15号土坑 (第32・34図)

位置 調査1区北部, C6is区。

規模と平面形 長径2.03m, 短径1.42mの楕円形で, 深さ17cmである。

長径方向 N-47°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。中央部やや北寄りから, 長径30cm, 短径20cmの楕円形で, 深さ30cmのビットが検出されている。

覆土 単一層である。覆土が浅く, 自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子極少量

遺物 縄文土器及び縄文土器片9点が出土している。1は浅鉢形土器, 2は深鉢形土器の口縁部から胴部上半に至る破片で, ともに南部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。

第17号土坑 (第32・35・36図)

位置 調査1区東部, C6js区。

規模と平面形 長径1.55m, 短径1.29mの楕円形で, 深さ51cmである。

長径方向 N-48°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 単一層である。50cm以上の深さがあるにも関わらず, 均一な土層が堆積しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物 縄文土器及び縄文土器片134点、石器1点(凹石)が出土している。6は浅鉢形土器で、中央部の覆土上層から下層にかけて、7は深鉢形土器の口縁部から胴部上半に至る破片で、中央部の覆土上層から、8は凹石で、北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。性格は不明である。

第18号土坑 (第32・36図)

位置 調査1区東部、C6is区。

規模と平面形 長径1.76m、短径1.34mの楕円形で、深さ35cmである。

長径方向 N-48°-E

壁面 ほほ垂直に立ち上がる。

底面 凹凸が著しい。北東壁際から長径50cm、短径35cmの楕円形で、深さ22cmのピットが、南壁際西寄りから長径30cm、短径15cm、深さ32cmの楕円形のピットが検出されている。

覆土 単一層である。土層が均質の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

I 灰褐色 ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物 縄文土器片115点が出土している。9は深鉢形土器の胴部片で、西部の覆土中層から出土している。沈線文間にLの無節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の称名寺式期と考えられる。性格は不明である。

第19号土坑 (第32・36図)

位置 調査1区東部、C6is区。

規模と平面形 長径1.80m、短径0.80mの長楕円形で、深さ55cmである。

長径方向 N-36°-E

壁面 ほほ垂直に立ち上がる。

底面 南西部が15cmほど下がりが、段差をなしている。

覆土 単一層である。均一な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

I 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子極少量

遺物 縄文土器片180点が出土している。10は浅鉢形土器の口縁部片で、中央部の覆土下層から出土している。口縁部内面に沈線が巡り、外面にはLRの単節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。

第28号土坑 (第32・36図)

位置 調査5区北部、C6es区。

規模と平面形 長径0.78m、短径0.70mの楕円形である。深さは、2m近くまで掘り込んだが掘り切れなかったため、不明である。

長径方向 N-45°-W

壁面 内傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 縄文土器・縄文土器片609点が出土している。12は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片, 16は深鉢形土器の底部から胴部に至る破片である。13は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。波頂部には円形刺突文を結ぶ沈線文が施され, 口縁部直下から下位には無節縄文を地文として沈線文が施されている。波頂部の一部に赤彩が残る。14は口縁部片で, R Lの単節縄文が施されている。15は深鉢形土器の口縁部片で, 口縁部に沈線が廻り, その下に沈線文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。

第52号土坑 (第32・36・37図)

位置 調査6区北部, B4g区。

規模と平面形 長径1.31m, 短径1.27mのほぼ円形で, 深さ28cmである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなる。第1・2・5層はブロック状に堆積している。第3・4層が自然堆積によって形成された後, 第1・2・5層が人為的に埋められたと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物 縄文土器及び土器片133点が出土している。17・18は深鉢形土器である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の称名寺式と考えられる。性格は不明である。

第56号土坑 (第32・37図)

位置 調査6区北部, B5h区。

規模と平面形 長径2.03m, 短径1.83mの楕円形で, 深さ51cmである。

長径方向 N-15°-W

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなる。第1～5層はローム層が比較的多量に含まれ, 土質も近似していることから, 人為堆積と考えられる。第6層は比較的固く締まっており, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物少量, 焼土粒子極少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化物・粒子少量, 焼土粒子・赤色スコリア極少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, 炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物少量, 炭化物・焼土粒子極少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, ローム大ブロック・炭化物少量 |
| 6 暗褐色 | ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量, スコリア粒子極少量 |

遺物 縄文土器片184点, 石器1点(剥片)が出土している。19は深鉢形土器の胴部片で, 単節縄文を地文とし, 半箆竹管による肋骨文が施されている。20は深鉢形土器の胴部片で, R Lの単節縄文が施されている。21は深鉢形土器の胴部片で, L Rの単節縄文を地文とし, 半箆竹管による沈線文が施されている。

所見 本跡は, 覆土の状況や遺構の形状から, 貯蔵穴の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

第93号土坑 (第32・37図)

位置 調査6区北部, B5f区。

規模と平面形 長径1.37m, 短径1.28mのほぼ円形で, 深さ44cmである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。ロームブロック・粒子中心の土層であり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化物・粒子極少量
- 2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

遺物 縄文土器及び土器片39点, 土製品1点(垂飾り), 石器1点(磨石)が出土している。22は注口土器の注口部で, 南部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内式期と考えられる。性格は不明である。

第94号土坑 (第32・37図)

位置 調査6区北部, B5h3区。

規模と平面形 長径0.88m, 短径0.83mのほぼ円形で, 深さ28cmである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる。含有物等から, いずれも自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 縄文土器片27点が出土している。24は深鉢形土器の口縁部から胴部片で, 東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内式期と考えられる。性格は不明である。

第98号土坑 (第33・37図)

位置 調査6区北部, B5g6区。

規模と平面形 長径1.35m, 短径1.23mの不整形円で, 深さ36cmである。

長径方向 N-78°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 中央部にほぼ東西に走る, 幅25~30cm, 深さ15cmほどの溝状の掘り込みが認められる。

覆土 2層からなる。覆土にロームブロックが多量含まれることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 焼土粒子・炭化物粒子極少量

遺物 縄文土器片58点が出土している。26は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。性格は不明である。

第131号土坑 (第33・37図)

位置 調査6区東部, B6ja区。

重複関係 本跡は第130号土坑に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 長径0.99m, 短径0.97mのほぼ円形で, 深さ28cmである。

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦である。

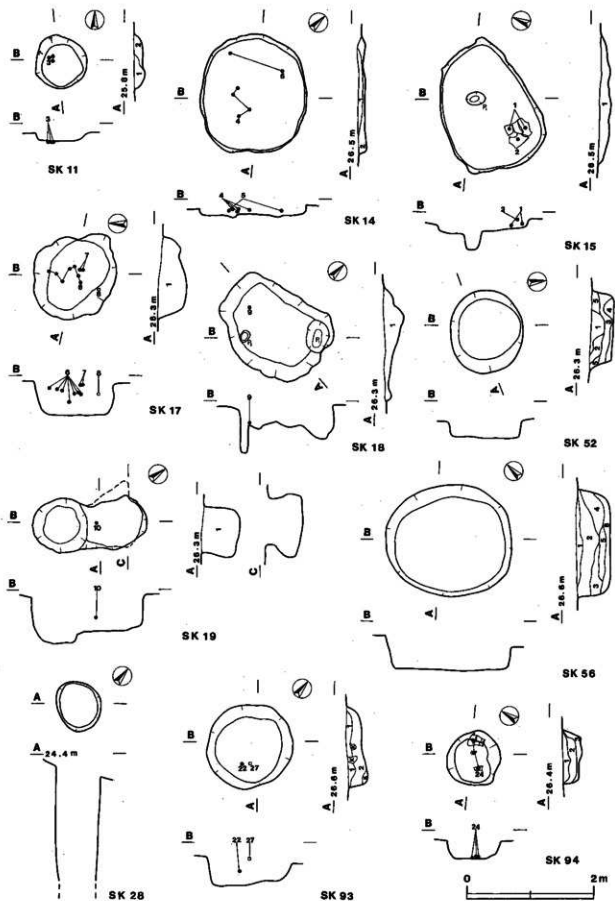
覆土 4層からなる。土層の含有物や堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

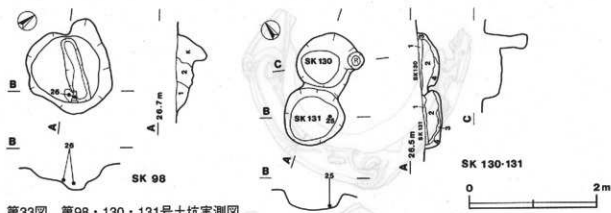
- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物 縄文土器片18点が出土している。25は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 南東部の覆土下層から出土している。口縁部内面に沈線が廻り, 外面には押圧のある隆帯が二重に廻る。胴部にはLRの単節縄文を地文とし, 半截竹管による条線が斜位に施されている。

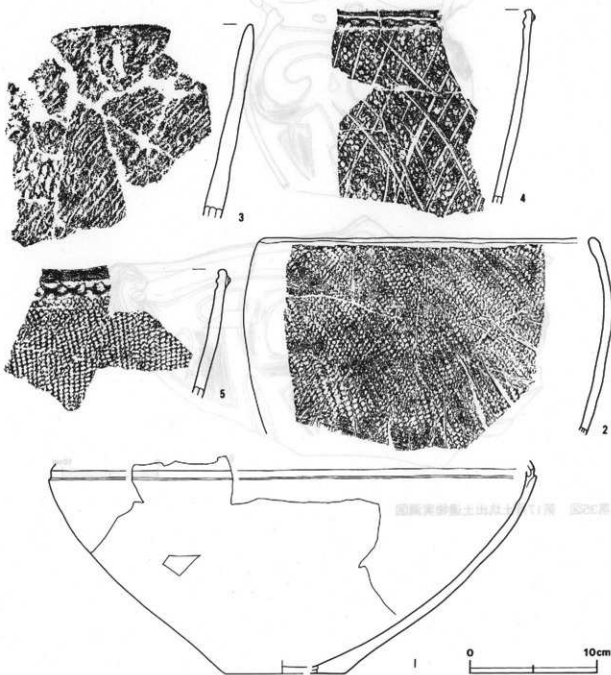
所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期中葉の加曾利B式期と考えられる。性格は不明である。



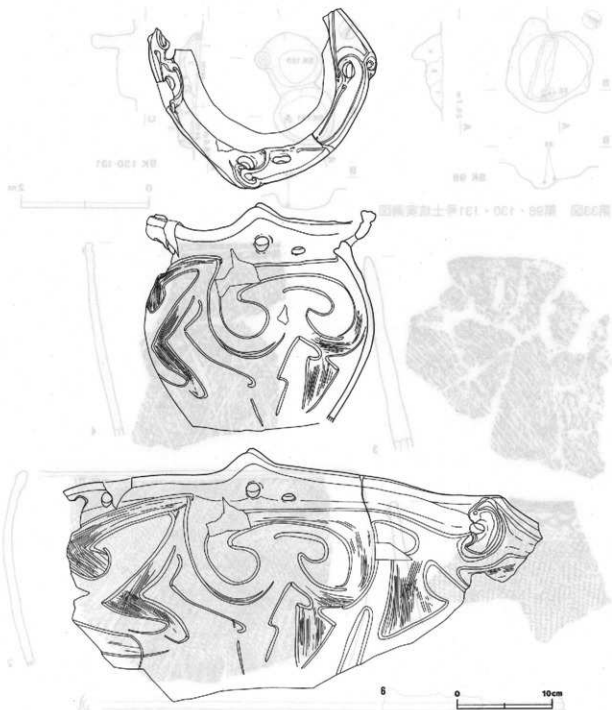
第32图 第11·14·15·17·18·19·28·52·56·93·94号土坑实测图



第33图 第98·130·131号土坑实测图

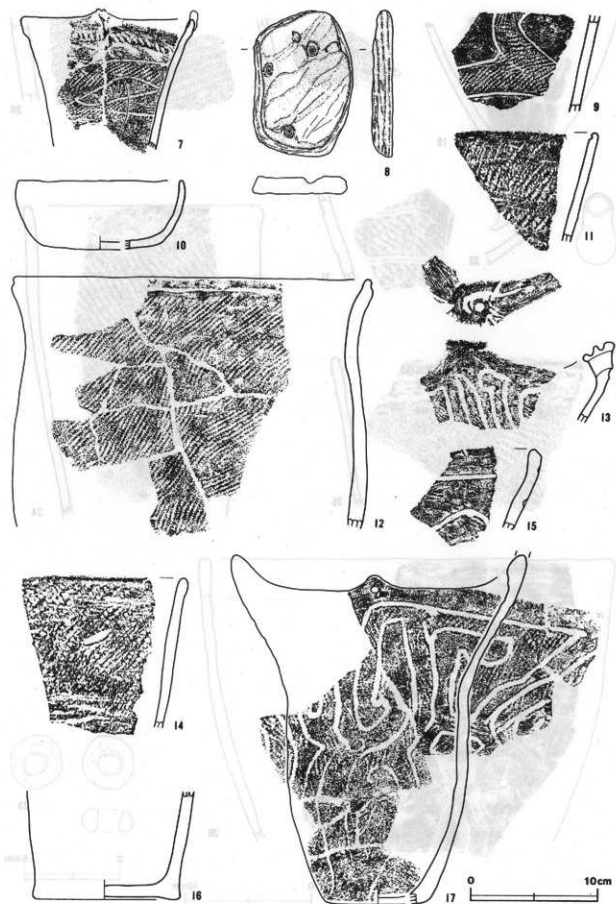


第34图 第11·14·15号土坑出土遗物实测图

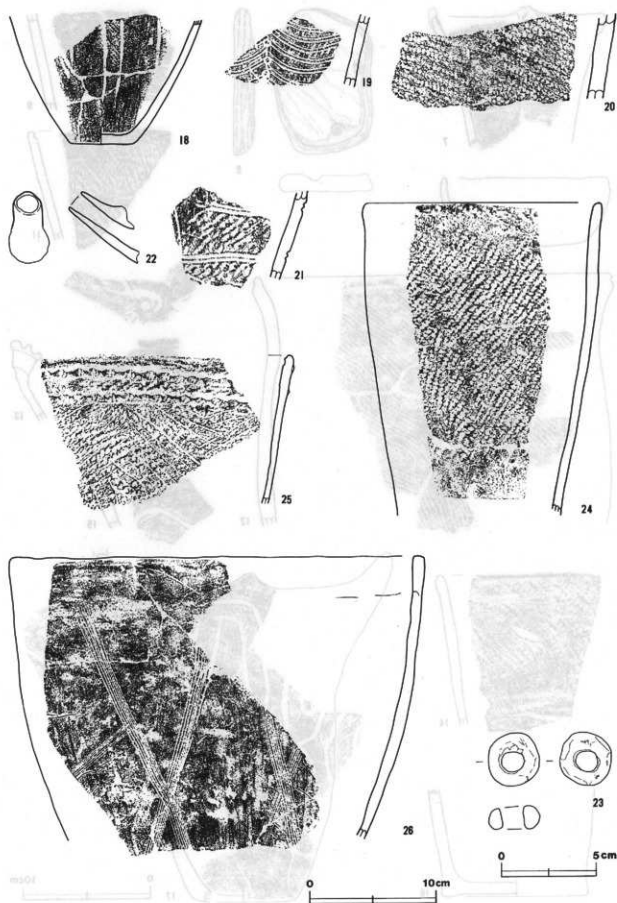


第35图 第17号土坑出土遗物实测图

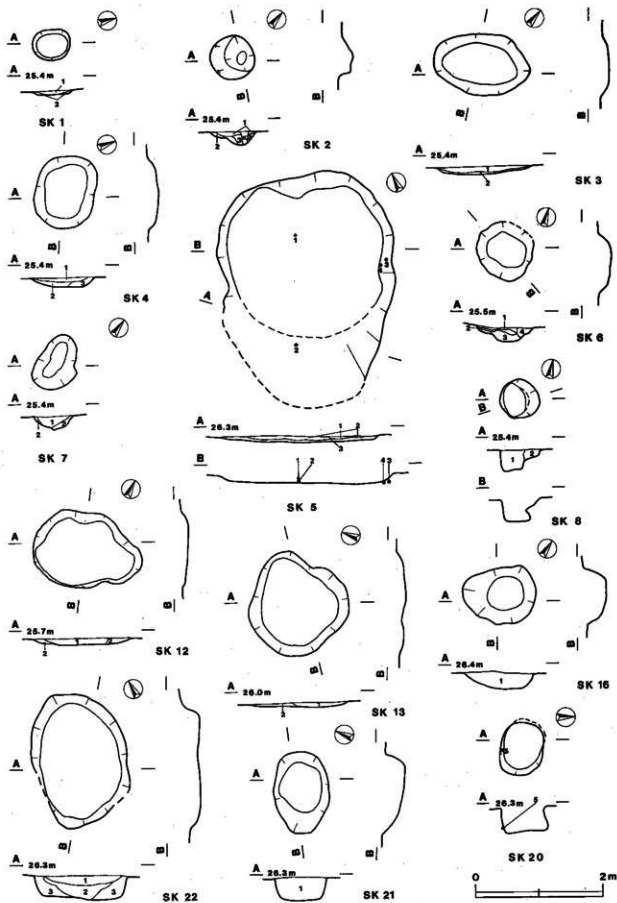
图例 761-001 X0 761-001 X0 761-001 X0 761-001 X0



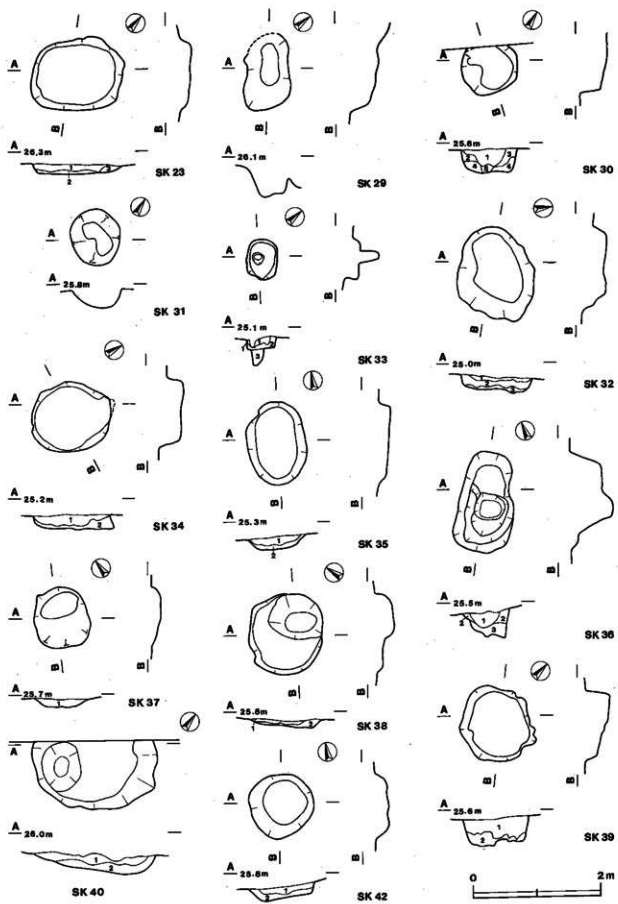
第36图 第17·18·19·28·52号土坑出土遗物实测图



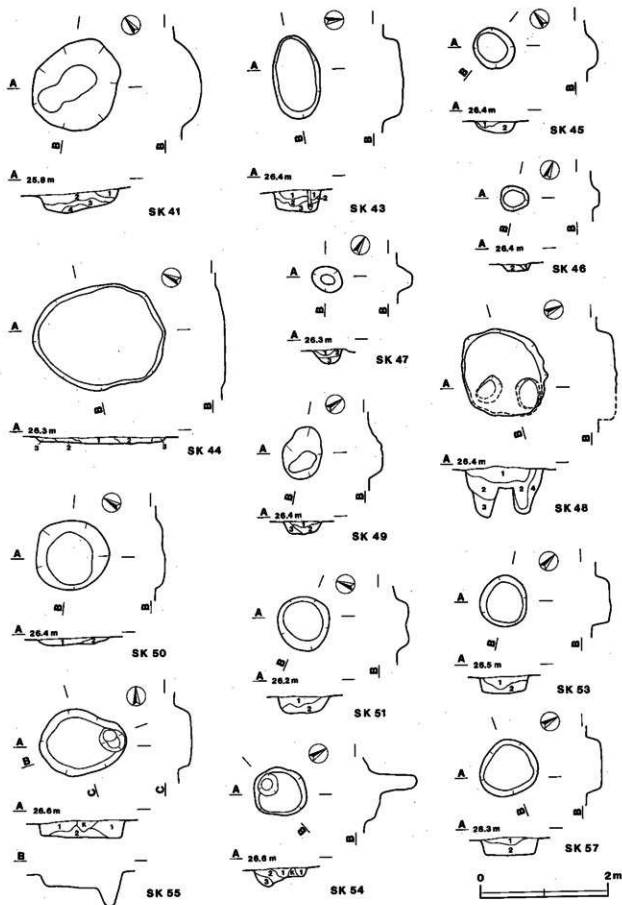
第37图 第52·56·93·94·98·131号土坑出土文物实测图



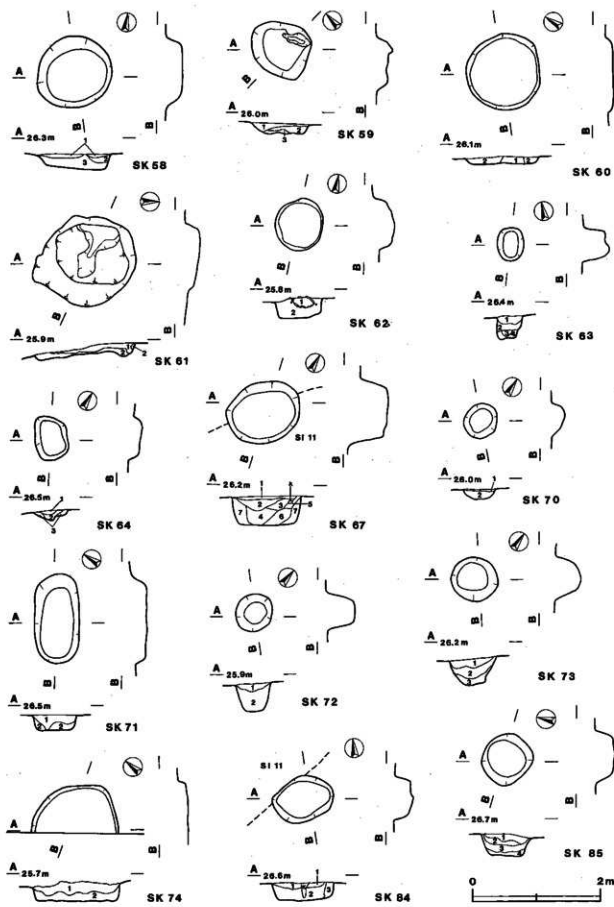
第38図 その他の土坑実測図(1)



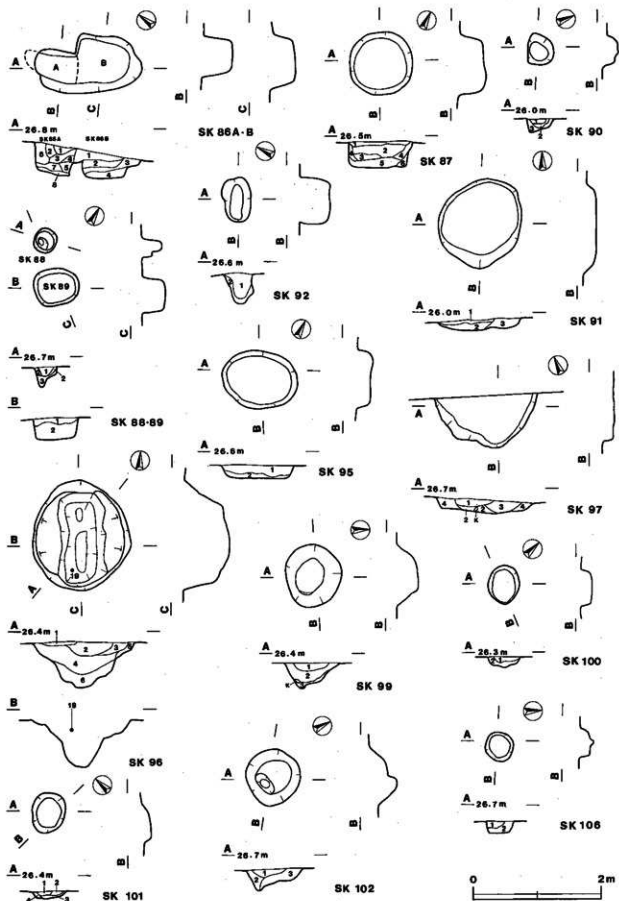
第39図 その他の土坑実測図(2)



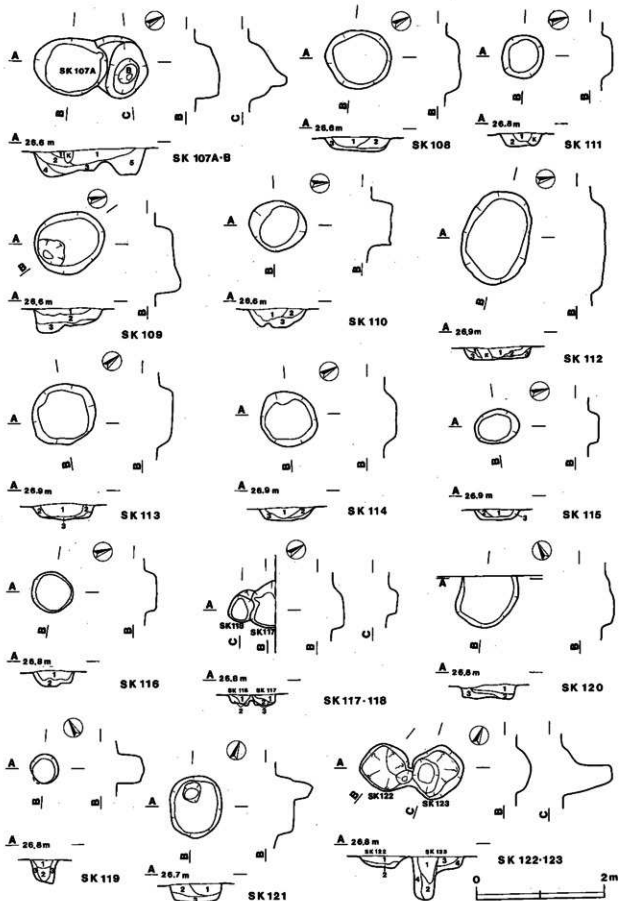
第40図 その他の土坑実測図(3)



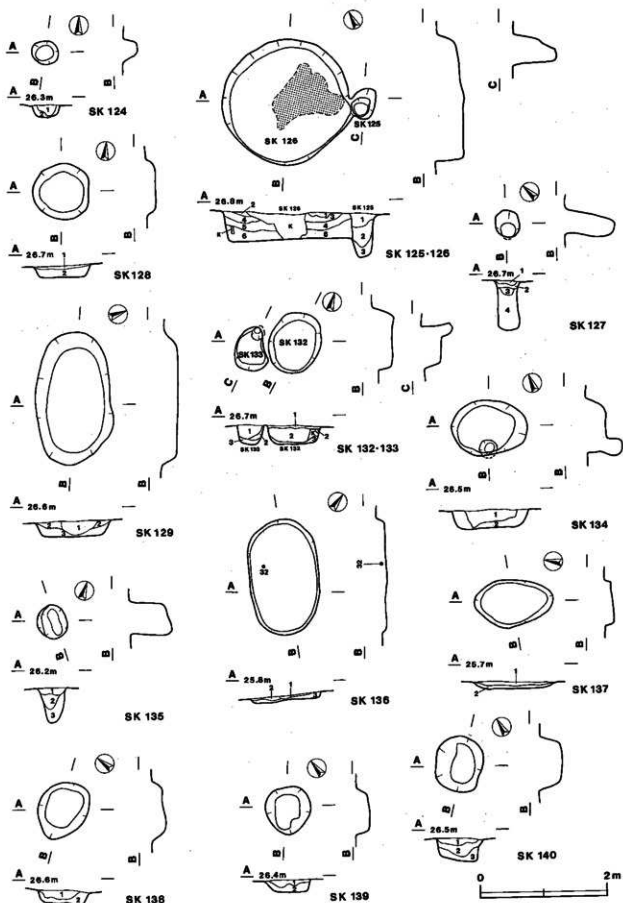
第41図 その他の土坑実測図(4)



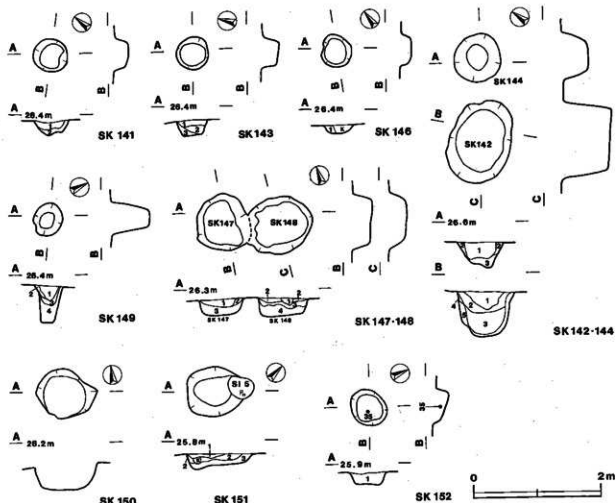
第42図 その他の土坑実測図(5)



第43図 その他の土坑実測図(6)



第44図 その他の土坑実測図(7)



第45図 その他の土坑実測図 (B)

その他の土坑

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック極少量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム量子少量、焼土粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム量子少量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極少量

第21号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・小ブロック中量、焼土粒子極少量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 3 褐色 ローム中ブロック・小ブロック中量

第32号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第33号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第35号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第40号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム小ブロック・粒子中量、スコリア粒子・黄褐色粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物極少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子・炭化粒子・スコリア粒子・黄褐色粘土大ブロック少量

第42号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、締まり有り
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第46号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子極少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・白色細粒子極少量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、締まり有り
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子極少量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、粘土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土小ブロック・粒子少量、ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子極少量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第30号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子・スコリア粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子・小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子・大ブロック・中ブロック・小ブロック多量

第34号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第36号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黄褐色粘土大ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・黄褐色粘土中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・黄褐色粘土大ブロック中量

第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 白色粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・粒子少量
- 2 灰白色 鉄分混じり、暗褐色土少量

第41号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・灰白色粘土少量
- 2 灰白色 灰白色粘土少量
- 3 暗褐色 灰白色粘土少量
- 4 暗褐色 灰白色粘土中量

第43号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第45号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子極少量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 黒褐色土少量
- 2 暗褐色 褐色土少量
- 3 暗褐色 褐色土少量、締まり有り

第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、締まり有り
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量、締まり強

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量

第53号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第55号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 締まり有り

第57号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 締まり有り

第58号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 締まり有り
- 3 褐色 ローム小ブロック少量

第60号土坑土層解説

- 1 赤褐色 焼土中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色
粒子中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

第62号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・
粒子多量

第64号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム
大ブロック・中ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・
粒子多量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・
粒子多量, スコリア粒子少量

第70号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第72号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 炭化物・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロッ
ク中量, ローム大ブロック少量

第74号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土
粒子・炭化物・炭化粒子極少量

第95号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量

第96B号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量

第97号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 締まり有り

第99号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第91号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第51号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第54号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第59号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロッ
ク中量
- 2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・
粒子多量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・
粒子多量, 炭化物極少量

第61号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第63号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第67号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子少量

第71号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第73号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中
量, 焼土中ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム
中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭
化物・粒子極少量

第84号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 締まり有り
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第86A号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子少量

第88号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 締まり有り
- 3 褐色 ローム粒子少量

第90号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土
小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロッ
ク・中ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒
子・炭化物・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・
粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量

第92号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム
中ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・炭化
粒子極少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭
化物極少量

第95号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・小ブロック中量、炭化物・粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

第97号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物中量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

第100号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第102号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量、炭化粒子少量

第107A号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第107B号土坑土層解説

- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第111号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第113号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量

第115号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第117号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・小ブロック中量、炭化物・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量

第119号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量、炭化粒子極少量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック極少量

第123号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・小ブロック中量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

第98号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、スロリア粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第99号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・炭化物少量、焼土粒子極少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

第101号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量

第106号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第108号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、餅まり有り

第109号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

第110号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

第114号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量、炭化物極少量

第116号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第118号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量

第120号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量、炭化物極少量

第122号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量、ローム大ブロック・中ブロック少量

第124号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第125号土坑土層解説

- 1 深い赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土中ブロック少量

第127号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第128号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・小ブロック中量

第130号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

第133号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物極少量

第136号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第138号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第140号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

第142号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック中量
- 5 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

第146号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量

第148号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第152号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第126号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒子・炭化物極少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 6 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量

第129号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第132号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量, 焼土粒子・炭化物極少量

第134号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第135号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 小ブロック中量, 炭化物・粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 炭化物・粒子極少量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子極少量

第139号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第141号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第143号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 雑まり有り

第144号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第147号土坑土層解説

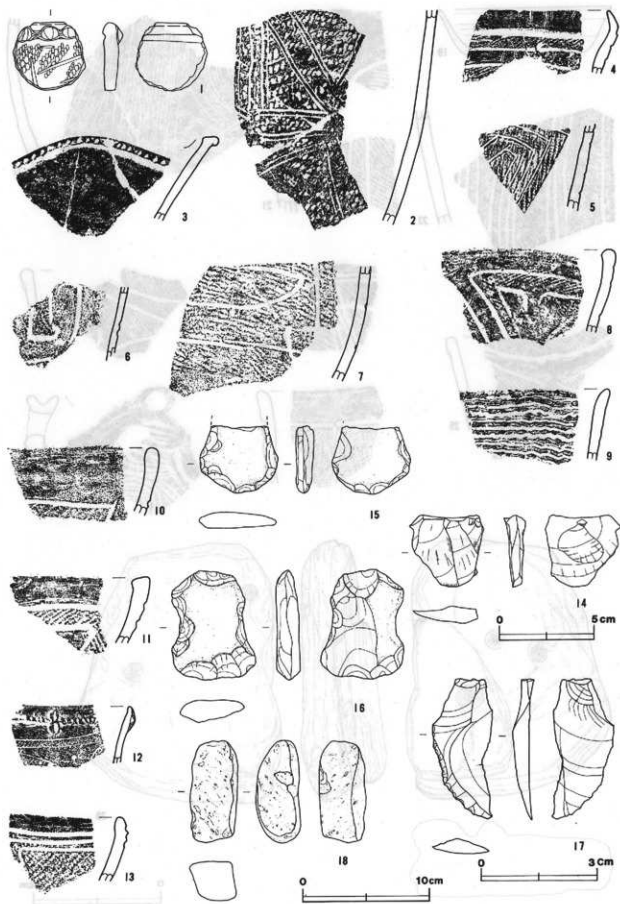
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第149号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

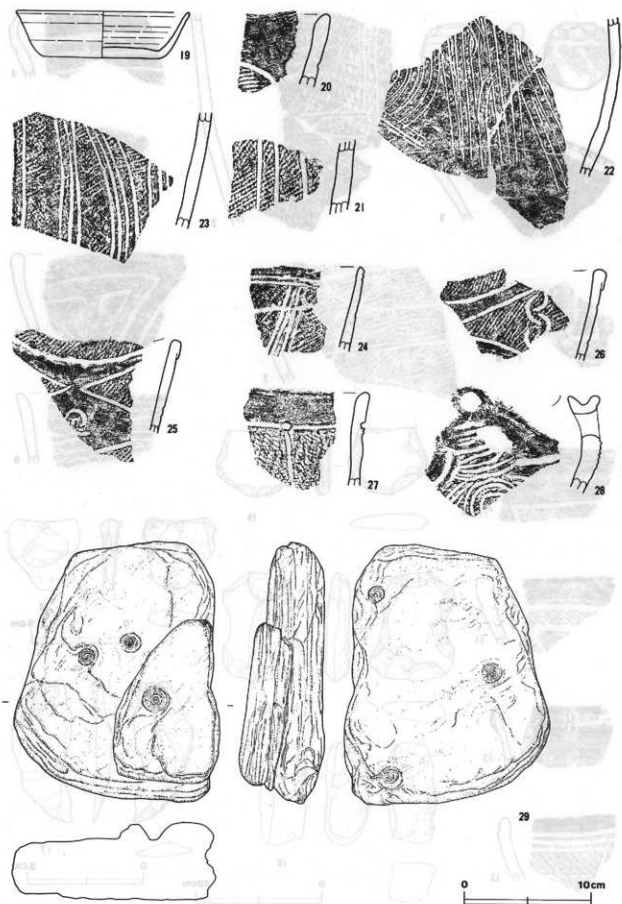
第151号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量



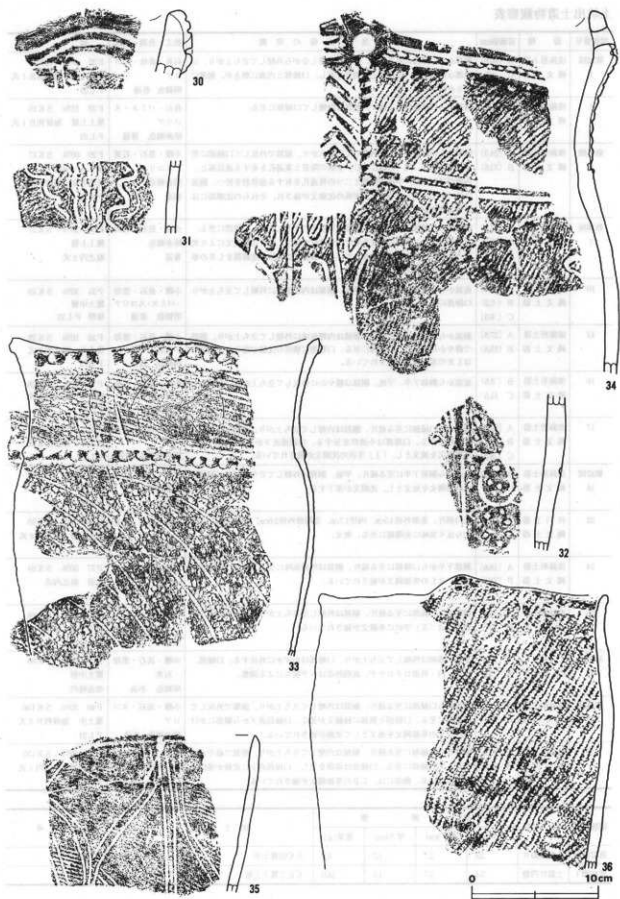
第46図 その他の土坑出土遺物実測図(1)

京都府京都市土坑出土の土器の図 図46



第47図 その他の土坑出土遺物実測図(2)

(1) 須賀川市土坑出土の土器の遺物 (2) 須賀川市



第48図 その他の土坑出土遺物実測図(3)

土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 ビ 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成		備 考	
第34図 1	深鉢形土器 縄文土器	B [16.8] C 9.9	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部に刻目を有し、口縁部と内面に磨き、胴部に磨りかたが施されている。	石灰・雲母・スコリア 明褐色 普通	P27 5% SK15 覆土中層 加曾利B 1式 P.L.21		
	2	深鉢形土器 縄文土器	A [26.2] B (15.5)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎して口縁部に至る。	長石・バミス・スコリア 暗赤褐色 普通	P28 15% SK15 覆土中層 加曾利B 1式 P.L.21	
第35図 5	深鉢形土器 縄文土器	A [24.3] B (23.6)	胴部から口縁部。胴部は内彎して立ち上がり、胴部で外反して口縁部に至る。口縁部は、内・外面に「C」字状の隆帯と貫通孔を有する波状部と、内面だけに「C」字状の隆帯と二つの貫通孔を有する波状部を持つ。胴部には「スベード」状や「7」字状の沈線文が施され、それらの沈線間には多条沈線文が充填されている。	小礫・長石・石灰 ・スコリア 明赤褐色 普通	P29 60% SK17 覆土上・中層 称名寺Ⅱ・横取1式 P.L.20		
	第36図 7	深鉢形土器 縄文土器	A [13.8] B (10.9)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は「8」字状の付文を有する小波状を呈し、直下に刺突文により充填された隆起帯が横位に施されている。胴部には横位の沈線間をL Rの単筋縄文が施されている。	小礫・長石・石灰 暗赤褐色 普通	P30 20% SK17 覆土上層 堀之内2式	
10	深鉢形土器 縄文土器	A [12.8] B (5.2) C [8.0]	底部から口縁部に至る破片。平底。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。無文。	小礫・長石・雲母 ・バミス・スコリア 黒褐色 普通	P31 30% SK19 覆土中層 後期 P.L.21		
	12	深鉢形土器 縄文土器	A [27.8] B (19.8)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がり、胴部で緩やかに外反し、口縁部に至る。口唇部に横位の沈線が施され、胴部にはL Rの単筋縄文が施されている。	小礫・長石・雲母 ・石灰 暗褐色 良好	P32 10% SK28 覆土中層 堀之内2式 P.L.21	
16	深鉢形土器 縄文土器	B (8.6) C 11.5	底部から胴部下平。平底。胴部は緩やかに外反して立ち上がる。無文。	小礫・長石・石灰 ・スコリア 灰色 良好	P33 15% SK28 覆土中層 堀之内2式 P.L.19		
	17	深鉢形土器 縄文土器	A [22.7] B (27.6) C [8.2]	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎して立ち上がり、胴部で外反して口縁部に至る。口縁部は小波状を呈する。口縁部直下から胴部にかけて、単筋縄文を施文とし、「J」字状の沈線文が施されている。	長石・石灰・スコリア 鮮明赤褐色 普通	P34 30% SK52 覆土中層 称名寺Ⅱ式 P.L.19	
第37図 18	深鉢形土器 縄文土器	B (10.0) C 4.8	底部から胴部下平に至る破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には単筋縄文を施文とし、沈線文が垂下する。	小礫・石灰 暗赤褐色 普通	P35 10% SK52 覆土中層 称名寺Ⅱ式		
	22	注口土器 縄文土器	B (7.1)	注口部片。基部外径4.5cm、内径1.7cm、先端部外径2.0cm、内径1.5cm。基部から反り気味に先端部に至る。無文。	小礫・長石・石灰 ・スコリア 暗赤褐色 普通	P36 5% SK93 覆土中層 堀之内2式 P.L.21	
24	深鉢形土器 縄文土器	A [18.6] B (24.8)	胴部下平から口縁部に至る破片。胴部は外傾気味に立ち上がり、口縁部に至る。R Lの単筋縄文が施されている。	小礫・長石・石灰 ・雲母 赤褐色	P37 50% SK94 底面 堀之内式 P.L.21		
	26	深鉢形土器 縄文土器	A [32.8] B (22.5)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。胴部には「X」字状に赤線文が施されている。	小礫・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P38 10% SK98 覆土下層 堀之内1式 P.L.21	
第47図 19	坏 須恵器	A 13.7 B 3.8 C 9.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部、体部、内・外面ロクロナデ。底部外面はへら磨りによる調整。	小礫・長石・炭粉 ・石灰 灰褐色 不良	P38 50% SK96 覆土中層 奈良時代		
	第48図 33	深鉢形土器 縄文土器	A [24.2] B (25.1)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎して立ち上がり、胴部で外反して口縁部に至る。口唇部と胴部に縦線文が施される。口縁部直下から胴部にかけて、L Rの単筋縄文を施文として沈線が施されている。	小礫・長石・スコリア 明褐色 普通 暗赤褐色 普通	P40 20% SK136 覆土中層 加曾利B 3式 P.L.21	
36	深鉢形土器 縄文土器	A [22.5] B (22.8)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎して立ち上がり、胴部で緩やかに外反して口縁部に至る。口縁部は波状を呈し、口縁部直下に沈線が横位に施されている。胴部には、L Rの単筋縄文が施されている。	小礫・長石・スコリア 明褐色 普通 口縁部の一部赤影	P75 20% SK182 覆土中層 堀之内1式 P.L.21		
図版番号	種 別	計 部 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第37図23	土器片断	2.8	2.7	1.2	8.0	SK93覆土中	DF7 P.L.30
第46図1	土器片断	5.4	5.7	1.5	38.0	SK5覆土上層	DP10 P.L.30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第36図8	凹石	11.6	7.7	1.6	227.0	ホルンフェルス	S K17覆土中層	Q58 P L19
第46図14	削片	3.8	3.9	1.1	14.0	頁岩	S K20覆土中	Q59
15	打製石斧	(5.3)	6.2	1.4	(65.0)	安山岩	S K30覆土中	Q60
16	打製石斧	8.7	6.7	1.9	121.0	硬質頁岩	S K32覆土中	Q61 P L19
17	削片	3.7	1.6	0.6	1.7	硬質頁岩	S K67覆土中	Q62 磁石器 P L19
18	浮子	8.1	3.8	3.5	19.0	流紋岩	S K71覆土中	Q63
第47図29	凹石	20.6	16.3	6.7	3090.0	雲母片岩	S K109覆土中	Q65 P L19

その他の土坑の出土遺物 (第46・47・48図)

ここでは、その他の土坑の出土遺物について解説する。

2～4は第5号土坑からの出土遺物である。2は深鉢形土器の胴部片である。L Rの単節縄文を地文とし、半截竹管による条線文が施されている。3は波状を持つ口縁部片である。棒状工具により刺突された隆帯が口唇部を巡る。4は浅鉢形土器の口縁部片である。L Rの単節縄文が充填された縄文帯と、縦位の区切り文が施されている。

5は第20号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の胴部片である。L Rの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。

6・7は第22号土坑からの出土遺物である。6は深鉢形土器の胴部片で、沈線文間に縄文が充填されている。

7は深鉢形土器の胴部片である。Lの無節縄文を地文とし、沈線文が施されている。

8は第34号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の口縁部片で、沈線文間にL Rの単節縄文が充填されている。

9は第35号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の口縁部片で、波状文が施され、胎土には繊維が含まれている。

10は第67号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の口縁部片で、口縁部下に沈線文が施されている。

11は第73号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の口縁部片で、沈線文間にLの無節縄文が施されている。

12・13は第85号土坑からの出土遺物である。12は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部には「8」字状の付文と連繫した縦線が巡り、その直下に無節縄文で充填された条線文が巡る。13は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部に二重の沈線が巡り、その直下にはL Rの単節縄文を地文として、沈線文が施されている。

20・21は第86号土坑からの出土遺物である。20は深鉢形土器の口縁部片で、口縁部の無文帯の下にはLの無節縄文を地文とした沈線文が充填されている。21は深鉢形土器の胴部片で、L Rの単節縄文を地文とし、沈線文が垂下する。

22・23は第91号土坑からの出土遺物である。22は深鉢形土器の胴部片で、沈線文上に弧状文が重複して施されている。23は深鉢形土器の胴部片である。L Rの単節縄文を地文とし、沈線文が垂下する。

24～26は第126号土坑からの出土遺物である。24は深鉢形土器の口縁部片で、L Rの単節縄文を地文とし、口唇部に半截竹管による沈線が巡り、その直下から、沈線文が斜位に施されている。25は波状を呈する口縁部の波底部片である。口唇部にはL Rの単節縄文で充填された縄文帯が巡り、その下にはL Rの単節縄文を地文とし、沈線文と磨消縄文が施されている。26は波状を呈する口縁部片で、25と同一個体と思われる。

27・28・30・31は第129号土坑からの出土遺物である。27は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部は無文帯を持ち、円形刺突文と連繫した沈線によって区画される。その下にはL Rの単節縄文を地文とし、円形刺突文

を起点とする沈線文が施されている。28は深鉢形土器の、橋状把手を持つ口縁部片である。波頂部には盲孔が施され、口唇部には棒状工具による沈線が円形刺突文と結ばれている。口唇部から下には沈線文が施されている。30は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。口唇部に沈線が廻り、その下にはLRの単節縄文を地文とし、沈線文や円形刺突文を持つ付文が施されている。31は深鉢形土器の胴部片で、蛇行沈線文が施されている。

32は第132号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の胴部片で、沈線文と列点文が施されている。

33は第136号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で、口縁部と胴部に押圧された隆帯が廻り、LRの単節縄文を地文とし、条線文が斜位に施されている。

34は第142号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の胴部から小波状を呈する口縁部に至る破片で、波状部には貫通孔が施されている。口唇部に二重の沈線が廻り、その間に刺突文が充填されている。頸部に二重の沈線が廻る。口唇部と頸部の沈線は、それぞれの円形刺突文を結ぶ刻みを持つ隆帯によって連繋する。胴部には「H」字状の沈線文が施されている。LRの単節縄文を地文としている。

35は第148号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の口縁部片で、口唇部に沈線が廻る。Rの無節縄文を地文とし、口唇部に施された円形刺突文を起点とした沈線文が垂下する。

36は第152号土坑からの出土遺物である。深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で、口縁部は小波状を呈する。LRの単節縄文が施されている。

表 中谷津遺跡土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	縦 横		壁傾	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長さ(m)	幅(m)					
1	E4a	N-12°-E	楕円形	0.59 × 0.48	4	外傾	平坦	自然		
2	F4b	—	円形	0.71 × 0.70	30	傾斜	凹凸	自然	縄文土器片10	縄文時代後期
3	F4a	N-57°-E	楕円形	1.54 × 0.96	11	傾斜	平坦	自然	縄文土器片27	縄文時代後期
4	F4b	N-53°-W	楕円形	1.18 × 0.94	15	傾斜	平坦	自然	縄文土器片10	縄文時代後期
5	D6f	N-17°-E	不整形	3.65 × 2.83	16	傾斜	平坦	自然	縄文土器片376、土器片(有孔円形)	縄文時代後期(加曾利B式期)
6	F4a	—	(円形)	0.86 × (0.86)	20	傾斜	平坦	自然	縄文土器片3	
7	E4a	N-20°-W	楕円形	0.92 × 0.66	20	傾斜	平坦	自然	縄文土器片5	
8	E4j	—	円形	0.82 × 0.60	34	外傾	平坦	不明	縄文土器片53	縄文時代後期(堀之内1式期)
11	E4g	—	円形	0.86 × 0.83	10	外傾	平坦	自然	縄文土器片47	縄文時代後期(堀之内1式期)
12	E4a	N-78°-E	楕円形	1.74 × 1.22	11	傾斜	平坦	自然	縄文土器片85	縄文時代後期(堀之内1式期)
13	D6g	N-30°-E	楕円形	1.66 × 1.60	12	傾斜	平坦	自然	縄文土器片45	縄文時代後期(堀之内1式期)
14	C6a	N-42°-W	楕円形	1.83 × 1.68	18	外傾	平坦	不明	縄文土器片103	縄文時代後期(堀之内1式期)
15	D5j	N-47°-E	楕円形	2.03 × 1.42	17	外傾	凹凸	不明	縄文土器片9	縄文時代後期(加曾利B式期)
16	D6j	N-51°-E	楕円形	1.16 × 0.80	36	外傾	平坦	人為	縄文土器片39	縄文時代後期(堀之内1式期)
17	C6b	N-48°-W	楕円形	1.55 × 1.29	51	外傾	平坦	人為	縄文土器・土器片135、凹石	縄文時代後期前期
18	C6a	N-80°-E	楕円形	1.76 × 1.34	35	垂直	凹凸	人為	縄文土器片114	縄文時代後期(匿名寺式期)
19	C6a	N-36°-E	(長楕円形)	1.80 × (0.80)	55	垂直	平坦	人為	縄文土器片180	縄文時代後期
20	C6g	N-64°-W	楕円形	0.90 × 0.71	38	外傾	平坦	—	縄文土器片114、石器(割片)	縄文時代後期(堀之内1式期)
21	C6g	N-65°-E	楕円形	1.30 × 0.87	34	傾斜	平坦	人為	縄文土器片26	縄文時代後期
22	D6c	N-16°-E	楕円形	2.12 × 1.51	36	外傾	平坦	自然	縄文土器片151	縄文時代後期
23	D6a	N-35°-W	楕円形	1.44 × 1.13	21	外傾	平坦	自然	縄文土器片35	縄文時代後期(堀之内1式期)
26	C6c	N-45°-W	楕円形	0.78 × 0.70	(176)	内傾	平坦	不明	縄文土器片605、土器片2、炭化物	縄文時代後期
29	C6a	N-50°-W	[不整形]	[1.18] × 0.73	40	外傾	平坦	—		
30	B4g	N-30°-E	不整形	0.97 × (0.76)	42	外傾	平坦	自然	縄文土器片33、打製石斧1	縄文時代後期(堀之内1式期)
31	B4g	—	円形	0.86 × 0.80	32	外傾	平坦	—	縄文土器片7、石器(割片1)	縄文時代後期

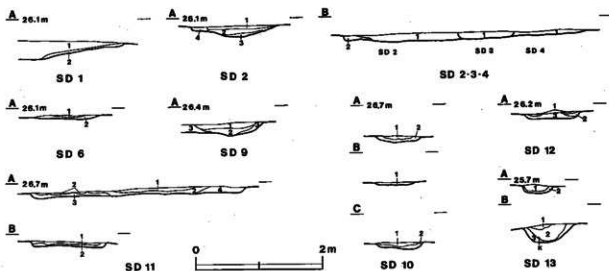
土坑 番号	位置	展張方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	羅土	出 土 遺 物	備 考
				長(圍)×短(圍)(m)	深さ(m)					
32	D6a	N-74°-E	楕 円 形	1.53 × 1.27	34	緩斜	平坦	自然	縄文土器片219、打製石斧1	縄文時代後期(堀之内1式期)
33	D5a	N-46°-W	楕 円 形	0.65 × 0.46	30	外傾	平坦	自然	縄文土器片7	
34	D6a	N-3°-E	楕 円 形	1.32 × 1.08	30	外傾	平坦	自然	縄文土器片106	縄文時代後期(称名寺式期)
35	D6a	N-7°-E	楕 円 形	1.31 × 0.90	16	外傾	平坦	自然	縄文土器片52	縄文時代
36	C5j	N-27°-E	楕 丸 長 方 形	1.58 × 0.86	68	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片18、石磨(割片1)	縄文時代後期
37	C5p	N-39°-E	楕 円 形	0.97 × 0.86	38	外傾	直立	自然		
38	C6a	N-54°-E	楕 円 形	1.30 × 1.16	30	外傾	凹凸	自然	縄文土器片18	縄文時代後期
39	D6a	N-72°-W	不 整 形	1.27 × 1.12	14	緩斜	平坦	自然		
40	C5j	—	(不 定 形)	1.98 × (1.08)	30	緩斜	平坦	自然		
41	C5p	N-71°-E	楕 円 形	1.54 × 1.28	35	緩斜	平坦	自然	縄文土器片2	
42	B4f	—	円 形	1.02 × 1.01	22	外傾	凹凸	自然	縄文土器片22	縄文時代後期
43	C6a	N-86°-E	楕 円 形	1.33 × 0.72	32	外傾	平坦	自然		
44	C6a	N-43°-W	楕 円 形	2.10 × 1.65	8	外傾	平坦	不明	縄文土器片2	
45	C6a	N-81°-E	楕 円 形	0.69 × 0.58	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器片5	
46	C6a	N-66°-E	楕 円 形	0.44 × 0.38	10	外傾	平坦	自然		
47	C6a	N-67°-E	楕 円 形	0.48 × 0.40	25	外傾	平坦	自然		
48	C6a	N-72°-E	楕 円 形	1.55 × 1.35	30	外傾	平坦	自然	縄文土器片24	縄文時代後期
49	C5a	N-53°-E	楕 円 形	0.86 × 0.60	20	外傾	凹凸	自然	縄文土器片21	縄文時代後期
50	C5a	—	円 形	0.64 × 0.60	14	緩斜	平坦	人為	縄文土器片40	縄文時代後期(堀之内1式期)
51	B4g	—	円 形	0.86 × 0.84	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片14	縄文時代後期
52	B4g	—	円 形	1.31 × 1.27	28	緩斜	平坦	人為	縄文土器、縄文土器片133	縄文時代後期(称名寺式期)
53	B5g	—	円 形	0.78 × 0.75	27	垂直	平坦	自然	縄文土器片57	縄文時代後期
54	B5g	—	円 形	0.83 × 0.81	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片47	縄文時代後期(堀之内1式期)
55	B5g	—	不 整 楕 円 形	1.37 × 1.06	23	外傾	平坦	自然		
56	B5h	N-15°-W	楕 円 形	2.03 × 1.83	51	垂直	平坦	人為	縄文土器片184、石磨(割片1)	縄文時代後期(堀之内1式期)
57	B5h	—	円 形	0.93 × 0.87	25	外傾	平坦	自然	縄文土器片1	
58	B5h	N-60°-E	楕 円 形	1.34 × 1.12	25	外傾	平坦	自然	縄文土器片6	
59	C4a	N-9°-E	不 整 楕 円 形	1.03 × 0.90	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器片1	
60	C5f	—	円 形	1.22 × 1.17	10	外傾	平坦	人為		
61	C4a	N-12°-W	不 整 楕 円 形	1.65 × 1.46	23	緩斜	平坦	自然	縄文土器片81、石磨(割片3)	縄文時代後期(堀之内1式期)
62	C4b	—	楕 円 形	0.83 × 0.74	27	外傾	平坦	人為	縄文土器片14	縄文時代後期
63	B5g	N-24°-E	楕 円 形	0.52 × 0.43	35	外傾	平坦	自然	縄文土器8	縄文時代後期
64	B5g	N-44°-W	台 形	0.71 × 0.52	15	外傾	平坦	自然		
67	B5e	N-35°-E	楕 円 形	1.19 × 0.97	47	垂直	平坦	人為	縄文土器片23、石磨(割片1)	縄文時代後期(堀之内1式期)
70	C4c	N-16°-E	楕 円 形	0.57 × 0.51	30	緩斜	直立	自然	縄文土器片12	縄文時代後期
71	B5g	N-60°-E	楕 丸 長 方 形	1.41 × 0.69	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片82、石磨片(淨子1)	縄文時代後期(堀之内1式期)
72	C4b	—	楕 円 形	0.64 × 0.57	44	外傾	平坦	自然	縄文土器片1	
73	C5c	N-60°-E	楕 円 形	0.75 × 0.68	40	外傾	直立	自然	縄文土器片4	縄文時代後期(称名寺式期)
74	C4d	N-41°-W	[楕 円 形]	1.37 × [0.76]	34	外傾	平坦	自然	縄文土器片53	縄文時代後期(堀之内1式期)
84	B6f	N-68°-E	楕 円 形	0.92 × 0.69	25	外傾	平坦	自然	縄文土器片25	縄文時代後期
85	B6f	—	円 形	0.79 × 0.74	30	外傾	平坦	自然	縄文土器片170	縄文時代後期(堀之内式期)
86A	B6f	N-32°-W	[方 形]	[0.67] × 0.65	45	外傾	平坦	人為	縄文土器片121	縄文時代後期、SK-86B一本磨
86B	B6f	N-32°-W	[不 整 長 方 形]	[1.02] × 0.95	38	外傾	平坦	自然		縄文時代後期、本磨-SK-86A
87	B5g	—	円 形	1.04 × 1.02	41	外傾	平坦	自然	縄文土器片87	縄文時代後期(堀之内1式期)
88	B5g	—	円 形	0.36 × 0.35	31	垂直	凹凸	自然	縄文土器片2	
89	B5g	N-45°-E	不 整 円 形	0.73 × 0.68	36	垂直	平坦	自然	縄文土器片3	
90	B4f	N-62°-W	不 整 楕 円 形	0.50 × 0.42	21	外傾	平坦	自然	縄文土器片18	縄文時代後期

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	敷土	出 土 遺 物	備 考
				長径(m)	短径(m)					
91	B4h	N-45°-E	楕 円 形	1.44 × 1.26	17	外傾	平坦	自然	縄文土器片131	縄文時代後期(堀之内1式期)
92	B5f	N-67°-E	楕 円 形	0.70 × 0.47	48	垂直	平坦	自然	縄文土器片40	縄文時代後期(堀之内1式期)
93	B5f	—	円 形	1.37 × 1.28	44	外傾	平坦	不明	縄文土器片55(土器片50、51、52)	縄文時代後期(堀之内1式期)
94	B2hs	—	円 形	0.68 × 0.83	28	外傾	平坦	自然	縄文土器片27	縄文時代後期(堀之内1式期)
95	B5gs	N-60°-E	楕 円 形	1.21 × 0.89	25	垂直	平坦	自然	縄文土器片49	縄文時代後期(堀之内1式期)
96	B5j	N-0°	楕 円 形	1.74 × 1.56	74	外傾	平坦	自然	縄文土器片68	縄文時代後期(堀之内1式期)
97	B5f	N-78°-W	[楕 円 形]	1.64 × [0.82]	13	外傾	平坦	人為	縄文土器片14	縄文時代後期
98	B5gs	N-78°-W	不 整 円 形	1.35 × 1.23	36	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片58	縄文時代後期(堀之内1式期)
99	B5j	—	楕 円 形	1.00 × 0.89	33	外傾	平坦	自然	縄文土器片24	縄文時代後期
100	C4j	—	円 形	0.54 × 0.50	17	垂直	平坦	自然	縄文土器片9	縄文時代後期
101	C5a	N-57°-E	楕 円 形	0.64 × 0.53	12	緩斜	平坦	自然	縄文土器片11	縄文時代後期
102	B5f	—	円 形	0.88 × 0.86	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器片36	縄文時代後期(堀之内1式期)
106	B5gs	—	円 形	0.46 × 0.45	16	垂直	平坦	自然		
107A	B5gs	N-36°-E	楕 円 形	1.15 × 0.91	36	垂直	平坦	自然	縄文土器片43	縄文時代後期, SK107B→本誌
107B	B5gs	N-54°-W	[楕 円 形]	0.95 × (0.65)	26	外傾	凹凸	自然		縄文時代後期, 本誌SK107A
108	B5gs	N-32°-W	楕 円 形	1.06 × 0.92	21	緩斜	平坦	自然	縄文土器片34	縄文時代後期
109	B5gs	—	楕 円 形	1.10 × 0.97	30	垂直	平坦	自然	縄文土器片32, 石皿	縄文時代後期(堀之内1式期)
110	B5gs	N-12°-E	楕 円 形	0.90 × 0.81	34	垂直	平坦	自然	縄文土器片43	縄文時代後期(堀之内1式期)
111	B5gs	N-28°-W	楕 円 形	0.72 × 0.57	17	外傾	平坦	自然	縄文土器片40	縄文時代後期
112	B6h	N-58°-W	楕 円 形	1.51 × 1.07	22	緩斜	平坦	自然	縄文土器片66	縄文時代後期(堀之内1式期)
113	B6h	—	楕 円 形	1.08 × 0.95	21	外傾	平坦	自然	縄文土器片165	縄文時代後期(堀之内1式期)
114	B6h	N-40°-E	楕 円 形	0.98 × 0.86	19	緩斜	平坦	自然	縄文土器片51	縄文時代後期(堀之内1式期)
115	B6h	—	楕 円 形	0.71 × 0.56	11	外傾	平坦	自然	縄文土器片17	縄文時代後期
116	B6h	—	円 形	0.66 × 0.65	19	垂直	平坦	自然	縄文土器片7	
117	B6h	N-60°-W	[楕 円 形]	0.74 × [0.40]	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片41	縄文時代後期
118	B6h	N-60°-W	楕 円 形	0.51 × 0.36	15	外傾	平坦	自然	縄文土器片13	縄文時代後期
119	B6h	—	円 形	0.47 × 0.43	42	垂直	平坦	人為	縄文土器片13	縄文時代後期
120	B6h	N-63°-W	[楕 円 形]	0.97 × [0.81]	20	緩斜	起伏	自然	縄文土器片10	縄文時代後期
121	B6h	N-32°-W	楕 円 形	0.98 × 0.82	26	外傾	平坦	自然	縄文土器片40	縄文時代後期(堀之内1式期)
122	B6f	N-63°-W	隅 丸 長 方 形	0.80 × 0.72	23	緩斜	屈状	自然	縄文土器片38	縄文時代後期(堀之内1式期)
123	B6f	N-34°-E	隅 丸 長 方 形	0.84 × 0.76	15	緩斜	平坦	人為	縄文土器片26	縄文時代後期
124	C6c	N-62°-W	楕 円 形	0.43 × 0.38	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片2	
125	B6h	N-58°-W	楕 円 形	0.49 × 0.37	69	外傾	平坦	自然	縄文土器片1	SK126→本誌
126	B6h	—	円 形	2.01 × 1.97	45	垂直	平坦	自然	縄文土器片383土器片5(土器片3)	縄文時代後・前期, 本誌→SK125
127	B6h	N-19°-E	楕 円 形	0.45 × 0.39	77	垂直	平坦	自然	縄文土器片6	
128	B5h	—	円 形	0.23 × 0.23	16	緩斜	平坦	自然	縄文土器片14	縄文時代後期
129	C6a	N-67°-W	楕 円 形	2.11 × 1.16	46	外傾	平坦	自然	縄文土器片121	縄文時代後期(堀之内1式期)
130	B6j	—	円 形	0.88 × 0.87	28	外傾	平坦	自然	縄文土器片63, 鉄滓	縄文時代後期, SK131→本誌
131	B6j	—	円 形	0.59 × 0.97	28	緩斜	屈状	自然	縄文土器片20	縄文時代後期, 本誌→SK130
132	B6h	—	楕 円 形	0.98 × 0.87	31	外傾	平坦	人為	縄文土器片24	縄文時代後期(堀之内1式期)
133	B6h	—	不 整 円 形	0.70 × 0.55	29	垂直	平坦	自然	縄文土器片14	縄文時代後期
134	C6b	N-65°-W	楕 円 形	1.20 × 0.86	30	外傾	平坦	自然	縄文土器片23	縄文時代後期
135	C5c	N-34°-W	楕 円 形	0.53 × 0.45	64	垂直	平坦	自然		
136	C5d	N-34°-W	楕 円 形	1.83 × 1.10	13	外傾	平坦	自然	縄文土器片10	縄文時代後期(堀之内1式期)
137	C6d	N-11°-W	楕 円 形	1.24 × 0.77	14	垂直	平坦	自然	縄文土器片21	縄文時代後期
138	C6f	N-90°-W	楕 円 形	0.97 × 0.76	22	緩斜	平坦	自然	縄文土器片21	縄文時代後期
139	C6e	—	円 形	0.76 × 0.72	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片13	縄文時代後期

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	果 核		断面	裏面	覆土	出土遺物	備 考
				長径(幅)×短径(幅)(cm)	深さ(cm)					
140	C6es	N-38°-E	楕九長方形	0.88 × 0.78	35	外傾	平坦	自然	縄文土器片82	縄文時代後期(堀之内1式期)
141	C6ds	—	円形	0.55 × 0.52	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片31	縄文時代後期(堀之内1式期)
142	C6es	N-77°-E	楕円形	1.36 × 0.98	71	外傾	平坦	自然	縄文土器片56	縄文時代後期(堀之内1式期)
143	C6ds	—	円形	0.52 × 0.51	26	外傾	平坦	自然	縄文土器片15	縄文時代後期
144	C6es	—	円形	0.67 × 0.74	37	外傾	平坦	自然	縄文土器片19	縄文時代後期
146	C6es	—	円形	0.52 × 0.50	16	外傾	平坦	自然		
147	C6fs	N-31°-E	不整円形	0.87 × [0.85]	29	外傾	平坦	自然	縄文土器片5	
148	C6es	N-90°-E	不整楕円形	1.00 × 0.90	27	外傾	平坦	自然	縄文土器片46	縄文時代後期(堀之内1式期)
149	C6ds	N-47°-W	楕円形	0.53 × 0.44	59	外傾	平坦	自然		
150	B41s	N-79°-W	不整形	0.94 × 0.79	38	外傾	平坦	—		
151	B41s	N-35°-E	不整楕円形	0.67 × 0.53	20	外傾	平坦	自然	縄文土器片5	
152	C6ds	N-2°-E	不整形	0.87 × 0.85	28	外傾	平坦	自然	縄文土器片104	縄文時代後期(堀之内1式期)

5 溝 (付図, 第49・50図)

当遺跡から溝11条を検出した。形状等については一覧表で記載する。時期は、正確にはとらえられないが覆土の土質から、中・近世以降とみられる。出土遺物については実測図(第50図)でその一部を掲載する。



第49図 溝土層断面図

第1号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第3号溝土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・粒子極少量

第4号溝土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量

第6号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子極少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第9号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第2号溝土層解説A

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子極少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第2号溝土層解説B

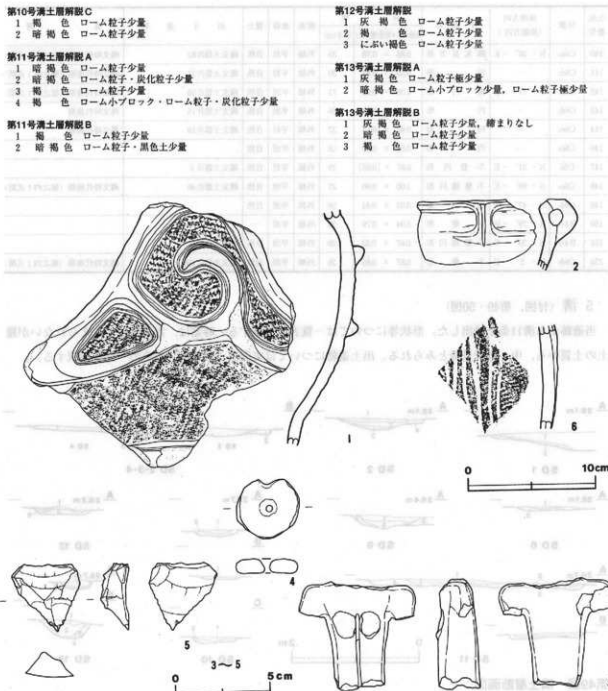
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子極少量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量

第10号溝土層解説A

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第10号溝土層解説B

- 1 褐色 ローム粒子少量



第50図 第5・11・13号溝出土遺物実測図

溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測例(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B (20.6)	胴部から口縁部に至る破片。口縁部は外反する。口縁部文様帯は発帯によって胴部と区画され、発帯内はRシの半部縄文で充填されている。胴部にはRシの半部縄文が施されている。	長石・石英・雲母・スクリア にぶい褐色 普通	P41 20% SD5 縄土中 阿玉台IV式 P.L.22
2	浅鉢形土器 縄文土器	A [11.7] B (5.6)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内増し、口縁部で外反する。口縁部に把手を有する。	小礫・長石・石英 黄褐色 普通	P42 20% SD5 縄土中 阿玉台IV式 P.L.22

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	孔径(m)	重量(g)		
第50図3	土 鍋	(5.7)	6.1	2.4	-	(56.0)	S D 13 覆土中	D P 8 瀬之内式 P L 22
4	有孔円盤	3.2	3.2	0.8	0.3	9.0	S D 13 覆土中	D P 9 P L 30

図版番号	種別	計測値				石 質	出土地点	備考
		長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)			
第50図5	楕形石盤	8.6	3.5	1.5	13.0	ガラス質黒色安山岩	S D 11 覆土中	Q 66 旧石器 P L 22

ここでは、溝の出土遺物観察表に記載しなかった遺物について解説する。

第13号溝 (第50図)

6は深鉢形土器の胴部片である。縄文を地文とし、隆帯と沈線文が施されている。混入したもので、本跡に伴うものではない。

中谷津遺跡溝一覽表

溝番号	中心位置	主軸方向	規 模				崖面	断面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
			長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
1	E 4	N-45°-E	(11.7)	(1.96-0.75)	(0.72-0.22)	28~6	緩斜	[U]	自然	縄文土器片18, 陶器片1	
2	D 5	N-34°-E	(56.1)	2.31-1.23	1.69-1.00	17~5	緩斜	U	自然	縄文土器片135	本跡→SD3・5
3	D 5	N-20°-W	8.3	1.10-0.67	0.69-0.29	10~7	緩斜	U	自然		SD2・4→本跡
4	D 5	N-31°-W	(7.0)	0.92-0.62	0.62-0.34	7~3	緩斜	U	自然		本跡→SD3
5	D 5	N-45°-W	29.0	1.20-0.60	0.31-0.08	20~10	緩斜	U	不明	縄文土器片22	SD2→本跡
6	D 5	N-37°-W	(18.7)	1.21-0.47	0.69-0.18	7~2	緩斜	U	自然		
9	D 6	N-38°-W	(5.5)	(1.65-0.66)	0.32-0.16	20~6	緩斜	[U]	自然	縄文土器片49	
10	B 5 C 5	N-44°-E	39.2	1.02-0.45	(0.72-0.22)	10~5	緩斜	U	自然	縄文土器片46	T M 1→本跡→SD11
11	B 5 B 6 C 6	N-45°-W N-51°-E	29.1	1.36-0.32	1.20-0.70	10~5	緩斜	U	自然	縄文土器片152, 土師器片1 石器1(剥片), 瓦片1	T M 1→SD10→本跡
12	C 5	N-50°-W	19.2	1.08-0.80	0.83-0.60	10~5	緩斜	U	自然	縄文土器片24	
13	C 5	N-37°-E N-53°-W	23.7	1.08-0.42	0.44-0.15	29~10	緩斜	U	自然	縄文土器片218, 土製品 2(土製有孔円盤), 石器 13(石錐, 磨石, 剥片)	

6 焼土遺構

調査区のはほぼ全域から、6基の焼土遺構を検出した。焼土遺構の周囲を調査したがピットや硬化面は検出されず、また、硬い炉床面を確認できなかったことから住居跡の炉やファイヤーピットではないと考えたが、いずれもその正確を明らかにできなかったため、焼土遺構とした。

第1号焼土遺構 (S X - 3) (第51図)

位置 調査2区南東部, D5ha区。

規模と平面形 東側が調査区域外のため規模と平面形は不明であるが、長径0.53m, 短径(0.27)mで不整形円形と推定される。焼土の厚さは10cmである。

長径方向 N-2°-W

土層解説

- 1 赤褐色 焼土中ブロック・小ブロック・粒子多量

所見 本跡の時期と性格は不明である。

第2号焼土遺構(SX-4)(第51図)

位置 調査1区南東部, C6hr区。

規模と平面形 長径0.65m, 短径0.55mの楕円形で, 焼土の厚さは5cmである。

長径方向 N-63°-W

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子少量

遺物 縄文土器片が1点出土している。1は、胴部片で南東部の覆土上層から出土している。LRの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。堀之内1式と思われる。

所見 本跡の時期と性格は不明である。

第3号焼土遺構(SX-5)(第51図)

位置 調査5区北部, C6as区。

規模と平面形 長径1.07m, 短径0.78mの楕円形で, 焼土の厚さは40cmである。

長径方向 N-15°-E

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子極少量

- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量

- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極少量

- 4 黒褐色 焼土粒子少量

遺物 縄文土器片が13点出土している。いずれも細片である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。

第4号焼土遺構(SX-6)(第51図)

位置 調査5区北部, B6j4区。

規模と平面形 長径0.76m, 短径0.64mの楕円形で, 焼土の厚さは10cmである。

長径方向 N-45°-E

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子極少量

- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 縄文土器片が1点出土している。

所見 出土した土器は縄文時代後期とみられ, 本跡の時期は縄文時代後期の可能性が考えられる。性格は不明である。

第5号焼土遺構(SX-7)(第51図)

位置 調査5区北部, B6js区。

規模と平面形 長径0.61m, 短径0.59mの円形で, 焼土の厚さは13cmである。

長径方向 N-18°-E

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量

- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子極少量

- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子極少量

- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

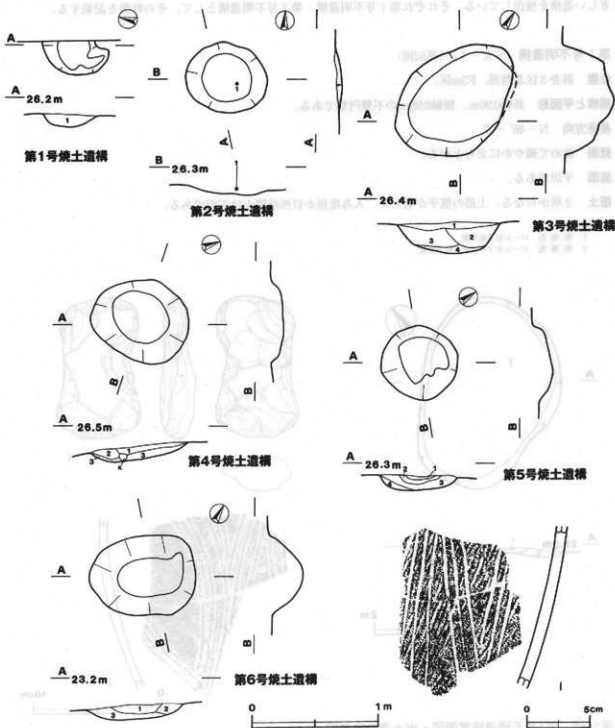
遺物 縄文土器片が2点出土している。黒浜式期と堀之内式期とみられるが、いずれも細片である。
 所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代と思われる。性格は不明である。

第6号焼土遺構 (SX-8) (第51図)

位置 調査5区北部, B4f区。

規模と平面形 長径0.75m, 短径0.62mの楕円形で, 焼土の厚さは19cmである。

長径方向 N-56°-E



第51図 第1・2・3・4・5・6号焼土遺構実測図・出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子極少量
 2 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、灰少量
 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子中量、灰少量

所見 本跡は、出土遺物がなく、時期と性格は不明である。

7 不明遺構

当遺跡では、調査3区北西部に、縄文土器片が集中的に出土している地点が存在するが、上部の削平が著しく、遺構の性格を明らかにすることができなかった。また、調査6区北部に、平面形が不定形で底部の凹凸が著しい遺構を検出している。それぞれ第1号不明遺構・第2号不明遺構として、その特徴を記載する。

第1号不明遺構 (SX-1) (第52図)

位置 調査3区北西部、F3a0区。

規模と平面形 長軸0.96m、短軸0.95mの不整形円形である。

長径方向 N-46°-W

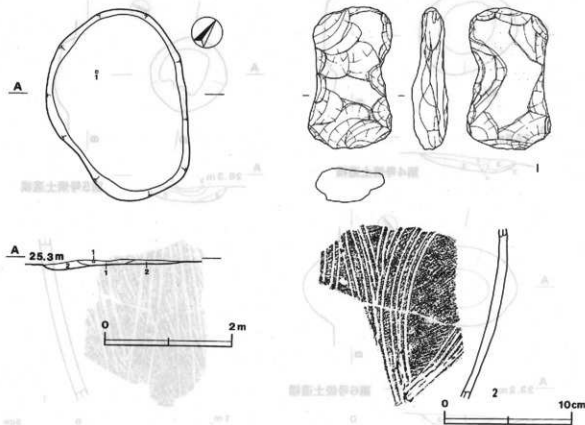
壁面 極めて緩やかに立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。上部の削平が著しく、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子極少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量



第52図 第1号不明遺構実測図・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片が59点、石器（打製石斧）が1点出土している。1は打製石斧である。西部の覆土上層から出土している。2は深鉢形土器の胴部片である。縄文を地文とし、沈線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉の堀之内1式期と考えられる。性格は不明である。

第2号不明遺構（SX-10）（第53図）

位置 調査6区北部、B4f6区。

規模と平面形 北壁が調査区外で不明だが、長径5.50m、短径（1.37）mの不定形で、深さ47cmである。

長軸方向 N-53°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸が激しい。

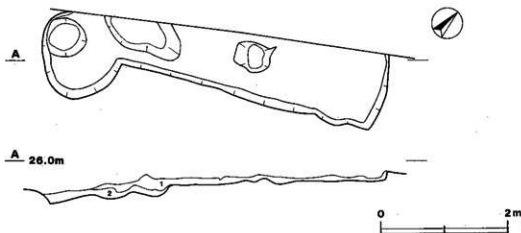
覆土 2層からなる。堆積状況や含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム・炭化粒子少量

遺物 縄文土器片が182点、土師器片が1点出土しているが、いずれも細片である。土師器片は混入と思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。



第53図 第2号不明遺構実測図

不明遺構出土遺物観察表

図版番号	種別	計 測 数				石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第52図1	打製石斧	11.2	6.6	2.9	239.0	ホルンフェルス	第1号不明遺構覆土中	Q72 P.1.22

8 旧石器集中地点

当遺跡における旧石器時代の調査は、B5e1を基点とし、調査区域の境界に沿って、西に4m、北に4mの台形状の範囲でグリットを設定して調査した。その結果、剥片3点が出土した。

第1号旧石器集中地点（第54・55図）

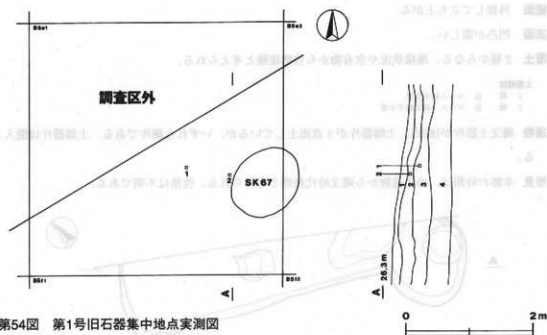
位置 調査6区北部、B5e1区から出土している。出土遺物の平面分布及び垂直分布については第54図に 示し

た通りである。

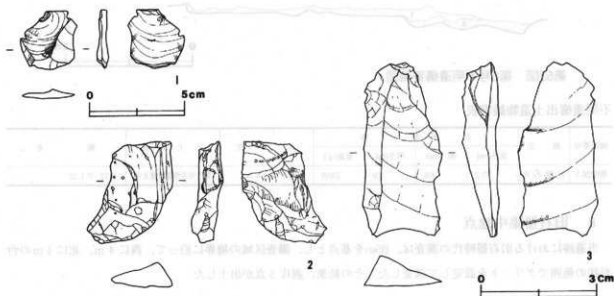
確認土層 第1層はハードローム層, 第2層は黄褐色ローム層, 第3層は始良Tn火山灰(AT)を含む層, 第4層は粘性を帯びた暗褐色ローム層である。確認面からの深さ10cm, 深さ15cmのハードローム層と黄褐色ローム層, 深さ30cmのAT層でそれぞれ1点ずつ確認されている。

遺物 剥片3点が出土している。1はAT層から出土しており, 石質は硬質頁岩である。2は黄褐色ローム層から出土しており, 石質は黒曜石である。3はハードローム層から出土しており, 石質は珪質頁岩である。

所見 本地点は出土遺物が少なく剥片のため, 性格は不明である。



第54図 第1号旧石器集中地点実測図



第55図 第1号旧石器集中地点出土遺物実測図

旧石器集中地点出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土層位	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
表55図1	削片	3.1	2.9	0.6	3.5	硬質頁岩	A T層	Q68 旧石器 P L22
2	削片	2.7	2.2	0.8	2.8	黒曜石	黄褐色ローム層	Q69 旧石器 P L22
3	削片	4.6	2.1	0.9	3.9	硬質頁岩	ハードローム層	Q70 旧石器 P L22

9 遺物包含層

当初、7か所で遺物包含層の調査を行ったが、第2号遺物包含層とした地点は出土遺物がなく、第5号遺物包含層は第3号住居跡、第7号遺物包含層は第6号住居跡となったため、ここでは、4か所の遺物包含層（第1・3・4・6号遺物包含層）と出土遺物について記述する。

なお、出土遺物は実測図、拓影図及び観察表で報告するが、土器については以下の分類基準を用いて記述する。

第1群 縄文時代早・前期の土器

第2群 縄文時代中期の土器

第3群 縄文時代後期前葉の土器

第1類 称名寺式土器

第2類 堀之内式土器

第3類 東北系（網取式）の土器

第4類 北陸系（三十桶場式）の土器

第4群 縄文時代後期中葉の土器

第5群 縄文時代後期後葉の土器

第6群 縄文時代晩期の土器

第1号遺物包含層（第56・57図）

第1号遺物包含層は、3区南東部F5区の斜面部に、幅2m、長さ約22mのトレンチを南北方向に設定し、掘り込んだ結果確認された。

堆積する層は11層からなり、いずれも北から南に向けて傾斜して堆積している。第1層は厚さ2～22cmで、ローム粒子を少量含む黒褐色土である。第2層は厚さ5～35cmで、ローム粒子を中量、ローム小ブロックを少量含む暗褐色土である。第3層は厚さ10～40cmで、ローム粒子・砂・粘土粒子を少量含む暗褐色土である。第4層は厚さ2～20cmで、粘土粒子を中量、ローム粒子・砂を少量含む灰褐色土である。第5層は厚さ2～18cmで、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を極少量含む黒褐色土である。第6層は厚さ2～35cmで、粘土粒子を少量、焼土粒子・砂を極少量含む暗褐色土である。第7層は厚さ8～33cmで、粘土粒子を少量、焼土粒子・砂を極少量含む黒褐色土である。第8層は厚さ2～40cmで、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子・砂を極少量含む褐色土である。第9層は厚さ2～18cmで、ローム小ブロック・粒子を多量、粘土粒子を中量、砂を少量、焼土粒子を極少量含む褐色土である。第10層は厚さ2～10cmで、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子を多量、砂を少量含むにぶい褐色土である。第11層は厚さ2～25cmで、粘土粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子・砂を極少量

含む黒褐色土である。包含層の北側は表層が粘土層で、緩やかに南に傾斜しており、第3～11層にかけて含まれる粘土粒子や砂は、それらが流れ込んだものと考えられる。

縄文時代の遺物を包含する層は、おおむね3～7層で、縄文土器片2,779点（第1群1点、第2群3点、第3群399点、第4群81点、第5群2点、第3～5群2,293点）、土製品2点（有孔円盤）が出土している。出土遺物の大半は第3群の土器で占められている。

第2群 縄文時代中期の土器（第57図1）

1は深鉢形土器の胴部片である。半截竹管の内側による結節平行沈線文が施されている。阿玉台Ⅱ式と思われる。

第3群 縄文時代後期前葉の土器（第57図2～6）

第1類 称名寺式土器

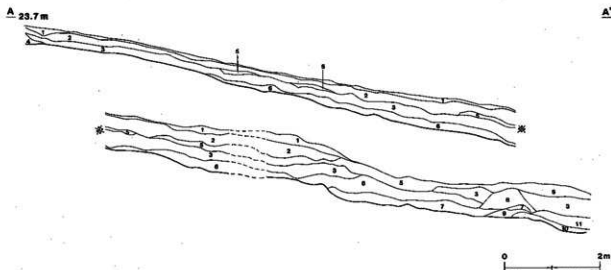
2は深鉢形土器の胴部片である。沈線文と刺突文が施されている。

第2類 堀之内式土器

3は台付土器の台部片である。「ハ」の字状に開き、無文である。4は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。波頂部に盲孔が施され、口唇部は沈線が巡り円形刺突文と結ばれる。その下は紐線と沈線が巡り、盲孔の下に施された円形刺突文と結ばれる。その円形刺突文を起点とし、紐線と沈線文が垂下する。地文はRLの単節縄文である。5は深鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。3～5は堀之内Ⅰ式と思われる。6は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部を条線が巡り、その下に条線による菱形の区画文が施されている。堀之内Ⅱ式と思われる。

第4群 縄文時代後期中葉の土器（第57図7～10）

7は深鉢形土器の口縁部片である。RLの単節縄文を地文とし、口唇部内面に沈線が、外面に押圧された隆帯が巡る。加曾利B式の粗製土器と思われる。8は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部内面に沈線が、外面に紐線が巡る。口縁部下を刺突文が施された付文と連繋して紐線が巡り、その下にRの無節縄文で施された沈線文が施されている。加曾利B1～2式と思われる。9は小波状を呈する口縁部片で、波頂部に「S」字状の付文が施され、口唇部の内・外面を沈線が巡る。Rの無節縄文を地文とし、「ノ」字状の沈線で平行沈線を区切っている。10は胴部片である。「ハ」状の沈線で平行沈線を区切っている。9・10は加曾利B1式と思われる。



第56図 第1号遺物包含層実測図

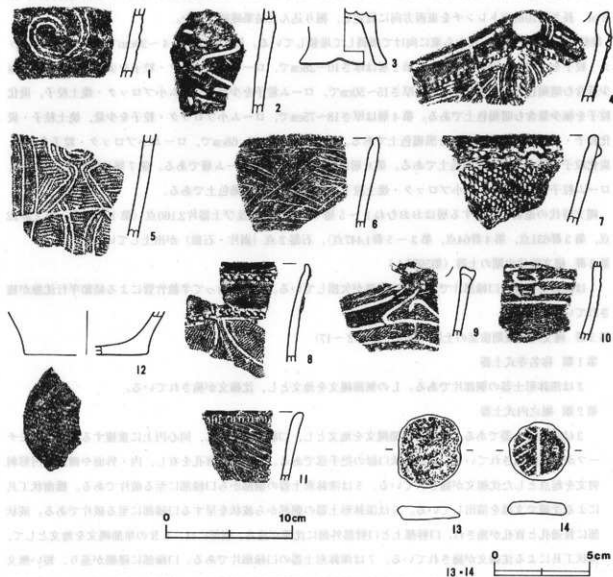
る。

第5群 縄文時代後期後葉の土器 (第57図11)

11は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部に刻みが施され、その直下に半截竹管による条線文が斜位に施されている。安行1~2式と思われる。

その他 (第57図12)

12は深鉢形土器の底部片である。平底で網代痕が残る。後期と思われる。



第57図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第1号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第57図 3	台付土器 縄文土器	B (45) D 7.0	台部破片。台部は「ハ」の字状に広がり、無文である。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P43 5% 層之内式

図録番号	種別	計 測 値				出土層位	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第57813	土器片付籠	3.9	3.3	0.8	11.0	第3~7層	DP11 PL30
14	土器片付籠	3.1	3.1	0.7	8.0	第3~7層	DP12 PL30

第3号遺物包含層 (第58・59・60・61図)

第3号遺物包含層は5区南部C6区~D6区の斜面部に、幅2m、長さ約12mのトレンチを南北方向に、幅2m、長さ約10mのトレンチを東西方向に設定し、掘り込んだ結果確認された。

堆積する層は7層で、西から東に向けて傾斜して堆積している。第1層は厚さ4~20cmで、ローム小ブロック・粒子を中量含む褐色土である。第2層は厚さ10~28cmで、ローム小ブロック・粒子を少量、焼土粒子を極少量含む暗褐色土である。第3層は厚さ15~50cmで、ローム粒子を少量、ローム小ブロック・焼土粒子、炭化粒子を極少量含む暗褐色土である。第4層は厚さ18~75cmで、ローム小ブロック・粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を極少量含む黒褐色土である。第5層は厚さ2~68cmで、ローム小ブロック・粒子を少量、炭化粒子を極少量含む黒褐色土である。第6層は厚さ2~50cmのローム層である。第7層は厚さ2~20cmで、ローム粒子を少量、ローム小ブロック・焼土粒子を極少量含む極暗褐色土である。

縄文時代の遺物を包含する層はおおむね2~5層で、縄文土器及び土器片2,160点(第1群6点, 第2群12点, 第3群631点, 第4群64点, 第3~5群1,447点), 石器2点(剥片・石皿)が出土している。

第2群 縄文時代中期の土器 (第59図1)

1は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部が欠損している。隆帯に沿って半載竹管による結節平行沈線が施されている。

第3群 縄文時代後期前葉の土器 (第59・60図2~17)

第1類 称名寺式土器

2は深鉢形土器の胴部片である。Lの無節縄文を地文とし、沈線文が施されている。

第2類 堀之内式土器

3は浅鉢形土器である。R Lの単節縄文を地文とし、口縁部を起点に、同心円上に重複する半円状のモチーフが4単位施されている。4は波状口縁の把手部である。貫通孔と盲孔を有し、内・外面や側面に円形刺突文を起点とした沈線文が施されている。5は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。櫛歯状工具による沈線文様を描出している。6は深鉢形土器の胴部から波状を呈する口縁部に至る破片である。波状部に貫通孔と盲孔が施され、口唇部上と口唇部外面に沈線が巡る。胴部には、L Rの単節縄文を地文として、棒状工具による沈線文が施されている。7は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部に隆帯が巡り、短い無文帯と区画されている。頸部から胴部にかけてはL Rの単節縄文を地文とし、沈線文が垂下する。8は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部上に刻みが施され、口唇部に半載竹管による沈線が巡る。口縁部直下からはL Rの単節縄文を地文とし、半載竹管による蛇行沈線が施されている。3~8は、堀之内1式と思われる。9は胴部から口縁部に至る破片で、口縁部内面に沈線が巡る。外面の口縁部直下から胴部にかけて、単節縄文を地文とし、沈線によって区画された文様帯が施されている。10は胴部から口縁部に至る破片で、口縁部に盲孔が施された把手を持つ。口縁部内面に半載竹管による沈線が巡り、外面には「8」字状の付文と連繋して組線が巡る。胴部にはLの無節縄文によって充填された区画文が施されている。11は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部を隆帯が巡り、その下に研線と沈線文が施されている。12は胴部から口縁部に至

る破片で、口縁部は小波状を呈する。口唇部と頸部に沈線が巡り、波頂部を起点として垂下する沈線文と連繋する。口縁部直下から胴部にかけてはLの単節縄文を地文とし、半載竹管による懸垂文が施されている。13は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部内面に沈線が巡る。口縁部外面に押圧された隆帯が2条巡り、「8」字状の付文によって連繋されている。さらにその下に沈線が巡り、口縁部文縁帯と区画している。地文はLの無節縄文である。9～13は堀之内2式と思われる。

第3類 東北系（網取式）の土器

14は波状口縁の把手部で、二つの貫通孔と一つの盲孔が施され、刺突文を抱く「C」字状の沈線が施されている。15は櫛状把手を有する、頸部から口縁部に至る破片である。波頂部の円形刺突文を起点とし、口唇部に巡る沈線文、頸部に垂下する弧状文、把手部に垂下する沈線文が施されている。頸部には単節縄文を地文とし、沈線が巡る。

第4類 北陸系（三十稲場式）の土器

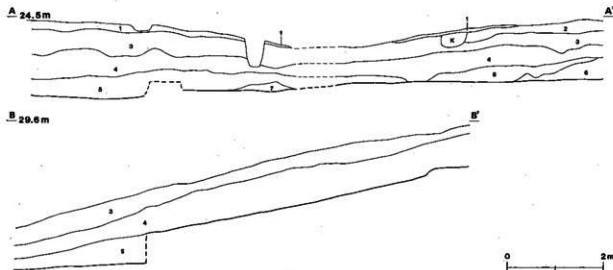
16は口縁部片で、幅の狭い無文帯を持ち、その下に花卉状の刺突文が施されている。17は頸部片で、16と同じ文様が施されている。

第4群 縄文時代後期中葉の土器（第60図18～20）

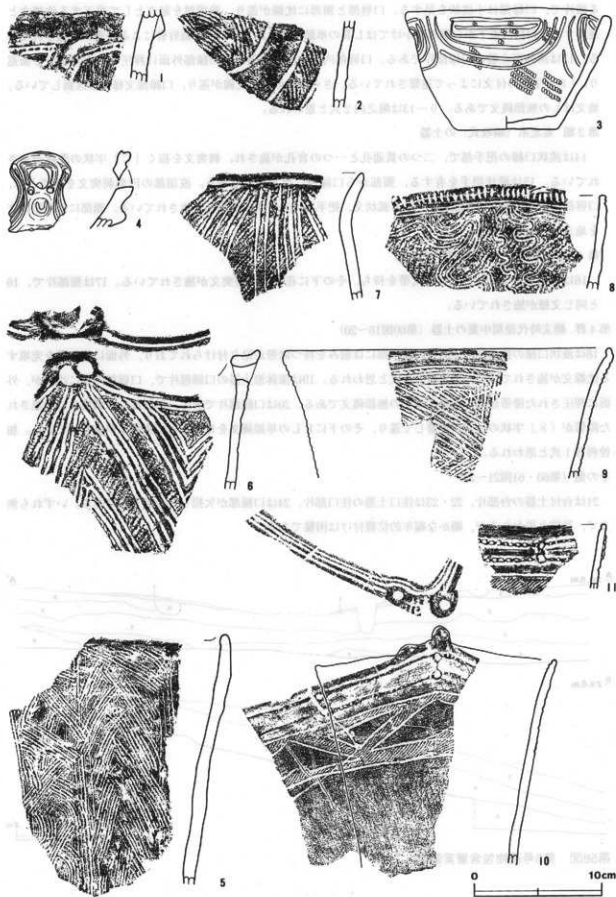
18は波状口縁の把手部片である。波頂部には刻みを持つ隆帯が貼り付けられており、外面に縦線間を充填する沈線文が施されている。加曾利B1式と思われる。19は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部内面に沈線が、外面に押圧された隆帯が巡る。地文はLの無節縄文である。20は口縁部片である。口唇部には刺突文で充填された隆帯が「8」字状の付文と連繋して巡り、その下にRLの単節縄文を地文として沈線文が施されている。加曾利B1式と思われる。

その他（第60・61図21～24）

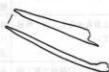
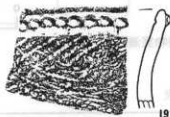
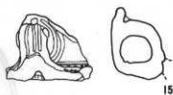
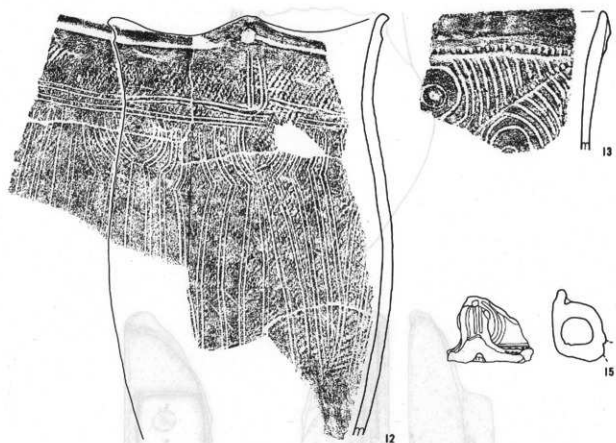
21は台付土器の台部片、22・23は注口土器の注口部片、24は口縁部が欠損した壺形土器である。いずれも無文で、後期と思われるが、細かな編年の位置付けは困難である。



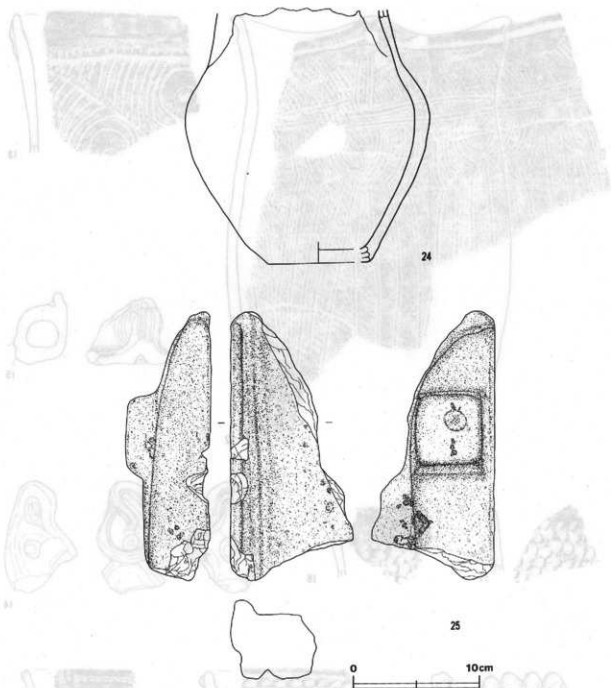
第58図 第3号遺物包含層実測図



第59图 第3号遺物包含層出土遺物实测图(1)



第60图 第3号遗物包含層出土遺物実測図(2)



第61図 第3号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第3号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	器種	許測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第59図 3	浅鉢形土器	A 15.6	平底。腹部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。R Lの単部縄文を地文とし、口縁部を起点に、同心円上に重畳する平円状のモチーフが4単位施されている。	砂粒・長石・石英・スコリア・パミス 棕色 普通	P44 100% 5層 層之内1式 P.L.23
	縄文土器	B 9.7			
	縄文土器	C 7.8			
4	浅鉢形土器	長さ(5.8)	波状口縁の把手部。外傾して立ち上がる。貫通孔と盲孔を有し、内・外面や横面に円形刺突文を起点とした沈線文が施されている。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P49 5% 層之内1式 P.L.24
	縄文土器	幅 4.4			
9	深鉢形土器	A [25.8]	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部で鋭く内傾する。口縁部内面を沈線が高る。外面には口縁部直下から胴部にかけて単部縄文を地文とし、区間文が施されている。	長石・石英・スコリア 黒褐色 普通	P77 5% 層之内2式 P.L.23
	縄文土器	B (10.3)			

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第56図 10	深鉢形土器 A [18.8]	B (19.0)	胴部下平から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は円孔を有する把手を持つ。口縁部内面に半截竹管による沈線が走り、外面は「8」字状文と透窓して縁線が走る。胴部上平にはLの無彫縄文によって充填された区画文が施されている。	長石・石英・雲母・ パミス・黒色粒子 極薄褐色 普通	P78 20% 堀之内3式 P.L.23
	縄文土器				
第60図 12	深鉢形土器 A [21.5]	B (33.3)	胴部から口縁部に至る破片。L縁部は小波状を呈する。口縁部と胴部を沈線が走り、波頂部を起点として垂下する沈線文と透窓する。L縁部直下から胴部にかけてはLの早稲縄文を地文とし、半截竹管による透窓文が施されている。	小礫・長石・スコ リア にふい褐色 普通	P76 25% 堀之内3式 P.L.23
	縄文土器				
14	深鉢形土器 長さ(8.9)	幅 5.9	波状口縁の把手部。外傾する。二つの貫通孔と一つの盲孔を有し、刺突文を散く「C」字状の沈線が施されている。	小礫・長石・スコ リア にふい赤褐色 普通	P47 5% 新成1式 P.L.24
	縄文土器				
15	壺形土器 長さ(5.8)	幅 (6.8)	柄状把手を有する。胴部から口縁部に至る破片。胴部で深く透れ、口縁部は外反する。波頂部の円形刺突文を起点とし、口唇部に至る沈線文と胴部に垂下する波状文、把手部に垂下する沈線文が施されている。胴部には早稲縄文を地文とし、沈線文が走る。	小礫・長石・スコ リア にふい褐色 普通	P48 5% 細取式
	縄文土器				
18	浅鉢形土器 長さ(5.8)	幅 (8.2)	波状口縁の把手部片。外傾する。波頂部には溜みを持つ隆帯が貼り付けられており、外面には縦線文を充填する沈線文が施される。	長石・石英・スコ リア 極灰色 普通	P50 5% 加曽利B1式 P.L.24
	縄文土器				
21	台付土器 B (5.6)	D 5.2 E 3.1	台部破片。台部は「ハ」の字状に広がり、無文である。	小礫・長石 灰白色 普通	P46 5% 後期 P.L.24
	縄文土器				
	注口土器 長さ(9.0)				
	縄文土器				
22	注口土器 長さ(9.0)	注口部片。基部外径37cm、内径1.5cm、先端部外径17cm、内径1.3cm。基部から反り気味に先端部に至る。無文である。	長石・雲母・パミス にふい黄褐色 普通	P51 5% 後期 P.L.24	
	縄文土器				
	注口土器 長さ(9.0)				
	縄文土器				
第61図 24	壺形土器 B (19.7)	C (8.0)	口縁部欠損。胴部は内傾して立ち上がり、胴部に至る。胴部は、無文である。	砂粒・パミス・ スコリア 赤褐色 良好	P45 50% 後期 P.L.23
	縄文土器				
	壺形土器 C (8.0)				
	縄文土器				

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 層 位	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第61図25	石 皿	(21.3)	(9.7)	5.8	(840.0)	凝灰岩	第2～5層	Q79 P.L.24

第4号遺物包含層 (第62・63・64・65図)

第4号遺物包含層は5区東部C7区の斜面部に、幅2m、長さ約11.5mのトレンチを東西方向に設定し、掘り込んだ結果確認された。

堆積する層は4層で、西から東に向けて傾斜して堆積している。第1層は含有物から1a層と1b層に分けられる。1a層は厚さ2～30cmでローム粒子を中量含む褐色土である。1b層は厚さ2～40cmで、ローム粒子を少量、焼土粒子を極少量含む褐色土である。第2層は厚さ30～50cmで、ローム粒子を少量含む黒色土である。第3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含むが、黒褐色土の3a層と暗黒褐色土の3b層に分けられる。3a層は厚さ3～30cm、3b層は厚さ4～30cmである。4層は灰白色土であるが、砂を中量含む4a層と砂を多量含む4b層に分けられる。4a層は厚さ3～30cm、4b層は厚さ2～50cmである。

縄文時代の遺物は1b～4層に包含されているが、特に2～3層に集中している。

(第1層出土遺物) (第63図1)

第1層は1b層から縄文土器片19点(第2群6点、第3群5点、第4群8点)が出土している。

1は胴部片で、花卉状の刺突文が施されている。第3群第5類と思われる。

(第2層出土遺物) (第63図2~5)

第2層からは縄文土器片322点(第1群3点, 第2群11点, 第3群234点, 第4群70点, 第5群3点, 第3~5群1点), 剥片1点が出土している。

第3群 縄文時代後期前葉の土器(第63図2~4)

第2類 堀之内式

2は深鉢形土器の胴部片でLRの単節縄文を地文とし, 沈線文が施されている。堀之内1式と思われる。

3・4は波状口縁の把手部で, 波頂部に瘤状の突起が貼り付けられ, 円形刺突文と沈線文が施されている。

両者は第4群に分類される可能性も考えられる。

第4群 縄文時代後期中葉の土器(第63図5)

5は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部内面に沈線が廻り, 内面は口縁部に押圧された隆帯が廻り, その下に条線が施されている。

その他(第63図6)

6は深鉢形土器の底部片である。平底で網代痕が残る。後期と思われる。

(第3層出土遺物) (第63図7~17)

第3層からは縄文土器片591点(第1群2点, 第2群10点, 第3群453点, 第4群123点, 第5群3点), 石器3点(磨製石斧・蔽石・凹石)が出土している。

第3群 縄文時代後期前葉の土器(第63・64図7~14)

第1類 称名寺式

7は深鉢形土器の口縁部片で, 刻みが施された隆帯が廻り, その下には半載竹管による刺突文と沈線文が施されている。

第2類 堀之内式

8は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 口唇部内面に沈線が廻る。LRの単節縄文が施されている。9は深鉢形土器胴部片で, RLの単節縄文を地文とし, 半載竹管による沈線文が斜位に施されている。10は深鉢形土器の口縁部片で, Rの無節縄文を地文とし, 半載竹管による沈線文が施されている。11は深鉢形土器の小波状を呈する口縁部片で, LRの単節縄文が施されている。12は胴部片で隆帯と沈線文が施されている。8~12は, 堀之内1式と思われる。13は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で, 頭部には紐線が縦位に貼り付けられ, 紐線間に条線が横位に施されている。胴部には渦巻文のモチーフと, それから垂下する対弧状文が施されている。14は深鉢形土器の口縁部片で, 口唇部内面に半載竹管による沈線が廻り, その下に沈線文が施されている。外面にはLRの単節縄文が充填された条線文が施されている。13・14は堀之内2式と思われる。

第4類 縄文時代後期中葉の土器(第64図15・16)

15は深鉢形土器の底部片である。平底で, 底部には網代痕が残る。16は深鉢形土器の胴部片である。Rの無節縄文を地文とした磨消縄文が施されている。

第5類 縄文時代後期後葉の土器(第64図17)

17は深鉢形土器の小波状を呈する口縁部片である。口縁部は魚尾状の波状を呈し, Rの無節縄文帯の上に瘤状と豚鼻状の付文が施されている。安行2式と思われる。

(第4層出土遺物) (第64図18~23)

第4層は縄文土器片311点(第1群4点, 第2群8点, 第3群252点, 第4群47点)が出土している。

第1群 縄文時代早・前期の土器 (第64図18・19)

18, 19は胎土に繊維を含み, 黒浜式と思われる。

第3群 縄文時代後期前葉の土器 (第64図20)

第2類 堀之内式

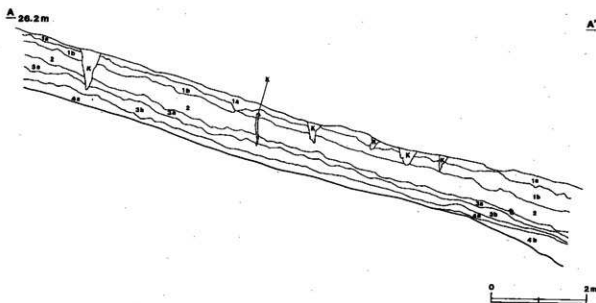
20は深鉢形土器の口縁部片である。口縁端部に沈線が廻る。Lの無節縄文を地文とし, 円形刺突文と沈線文が施されている。堀之内1式と思われる。

第4群 縄文時代後期中葉の土器 (第64図21~23)

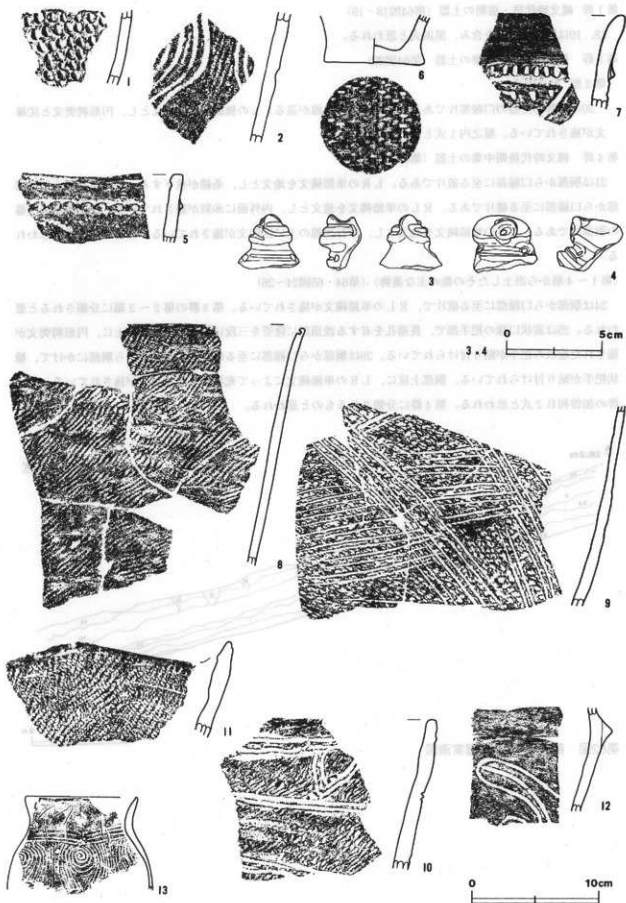
21は胴部から口縁部に至る破片である。LRの単節縄文を地文とし, 条線が垂下する。22は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。RLの単節縄文を地文とし, 内外面に赤彩が施されている。23は浅鉢形土器の胴部片である。LRの単節縄文を地文とし, 平行沈線の上に区切文が施されている。加曾利B1式と思われる。

(第1~4層から出土したその他の主な遺物) (第64・65図24~26)

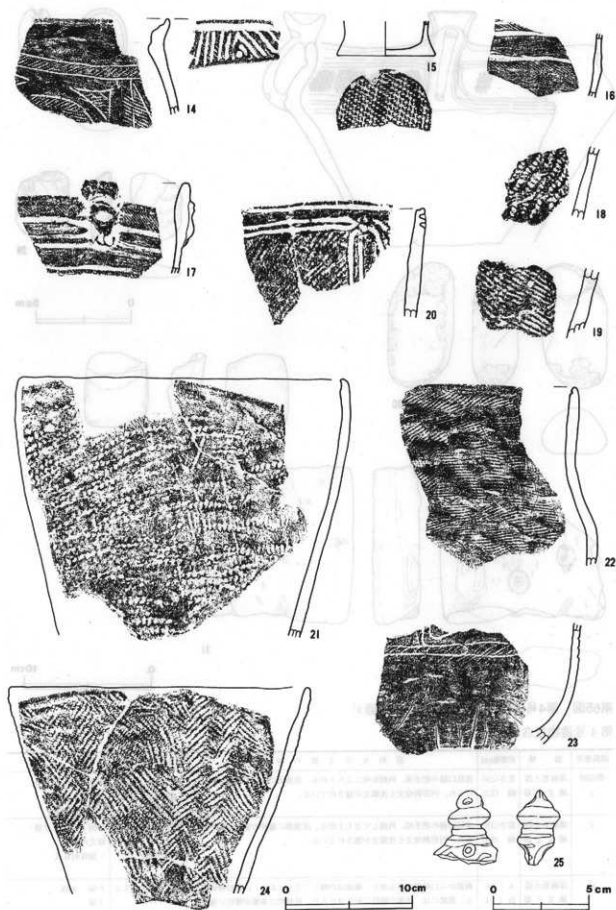
24は胴部から口縁部に至る破片で, RLの単節縄文が施されている。第3群の第2~3類に分類されると思われる。25は波状口縁の把手部で, 貫通孔を有する波頂部に隆帯を三段に貼り付け, その上に, 円形刺突文が施された瘤状の把手が貼り付けられている。26は胴部から口縁部に至る破片で, 口唇部から胴部にかけて, 橋状把手が貼り付けられている。胴部上位に, LRの単節縄文によって充填された沈線文が施されている。第4群の加曾利B2式と思われる。第4群に分類されるものと思われる。



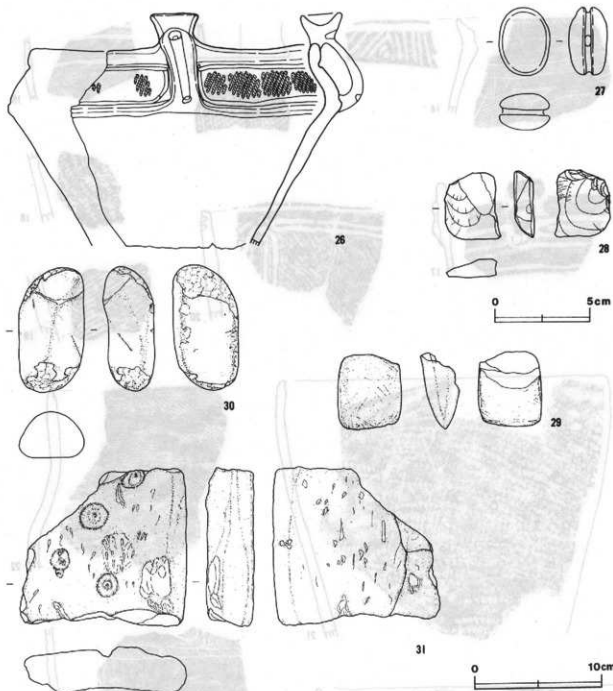
第62図 第3号遺物包含層実測図



第63图 第4号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第64图 第4号遗物包含層出土遺物实测图(2)



第65図 第4号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第4号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 3	深鉢形土器 縄文土器	長さ(2.9) 幅(3.2)	波状口縁の把手部。外縁気味に立ち上がる。波頂部に瘤状の突起が貼り付けられ、円形刺突文と沈線文が施されている。	砂粒・長石・スコリア に白い褐色 普通 一部に赤影残る	P58 5% 2層 層之内2式 →加登利B式
4	深鉢形土器 縄文土器	長さ(3.8) 幅(3.4)	波状口縁の把手部。外縁して立ち上がる。波頂部に瘤状の突起が貼り付けられ、円形刺突文と沈線文が施されている。	砂粒・長石・スコリア に白い褐色 普通	P59 5% 2層 層之内2式 →加登利B式
13	深鉢形土器 縄文土器	A [8.6] B (7.4)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。胴部には、縦線が縦紋に貼り付けられ、縦線間に糸織が横位に施されている。胴部には、渦巻文のモチーフと、それから垂下する対弧状文が施されている。	長石・石英・スコリア・パミス に白い褐色 普通	P56 20% 3層 層之内2式 PL24

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色料・焼成	備考
第64図 21	深鉢形土器 縄文土器	A [25.2] B (20.5)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、上位で緩やかに内彎して口縁部に至る。単節縄文を施文とし、糸織が顕下する。	小礫・長石・スコリア 極薄赤褐色 普通	P55 20% 4a層 加賀利B式 P.L.24
24	深鉢形土器 縄文土器	A [24.6] B (16.3)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。R.Lの単節縄文が、口唇部から胴部にかけて施されている。	小礫・長石・石英・スコリア に広い褐色 普通	P54 20% 層之内式
25	深鉢形土器 縄文土器	長さ(3.8) 幅(3.4)	底状口縁部の把手部。外縁気味に立ち上がる。貫通孔を有する底面部に隆部を三段に隔り付け、その上に、円形刺突文が施された環状の突起が隔り付けられている。	砂鉄・長石 黒褐色 普通	P57 5% 加賀利B式
第65図 26	深鉢形土器 縄文土器	A [22.2] B (18.4)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、上位で内傾し、口縁部は外反する。口唇部から胴部にかけて、橋状把手が隔り付けられている。胴部上位に、L.Rの単節縄文によって光潤された比喩文が施されている。	石英・雲母 黒褐色 普通	P53 20% 加賀利B2式 P.L.24

図版番号	種別	計測値				出土層位	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第65図27	青銅土鏡	3.6	2.7	2.0	20.0	第2層～第5層	DP13

図版番号	種別	計測値				石質	出土層位	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第65図28	銅片	3.6	2.9	1.0	12.0	泥軟質	第2層	Q73 銅石器
29	磨製石斧	(6.0)	5.0	3.0	(107.0)	ホルンフェルス	第3層	Q77
30	崖石	9.9	5.2	4.0	296.0	建築用岩	第3層	Q78
31	凹石	(12.6)	(13.2)	3.9	(725.0)	安山岩	第3b層	Q81

第6号遺物包含層 (第66・67・68・69図)

第6号遺物包含層は5区南部C6区の斜面部に、幅約1.5m、長さ約11.5mのトレンチを東西方向に設定し、掘り込んだ結果確認された。堆積する層は6層で、西から東に向けて傾斜して堆積している。第1層は厚さ2～20cmで、ローム粒子と炭化粒子を少量含む褐色土である。第2層は厚さ2～33cmで、ローム粒子・炭化粒子を少量、焼土粒子を極少量含む暗褐色土である。第3層は厚さ8～48cmで、ローム粒子を少量、炭化粒子を極少量含む暗褐色土である。第4層は厚さ20～50cmで、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を極少量含む暗褐色土である。第5層は厚さ5～58cmで、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を極少量含む暗褐色土である。第6層は厚さ5～50cmのローム層である。

出土遺物については、第1～3層を上層、第4層を中層、第5～6層を下層として取り上げた。

(上層出土遺物) (第67図1)

上層からは縄文土器片253点(第1群7点、第3群231点、第4群15点)が出土している。1は深鉢形土器の底部から胴部に至る破片である。平底で無文である。第3群に分類されると思われる。

(中層出土遺物) (第67・68図2～10)

中層からは縄文土器片393点(第1群19点、第2群6点、第3群358点、第4群10点)、土製品1点(垂飾り)が出土している。

第1群 縄文時代早・前期の土器 (第67図2・3)

2は深鉢形土器の口縁部片である。L.Rの単節縄文が施され、胎土には繊維を含む。黒浜式と思われる。3は深鉢形土器の胴部片である。半截竹管による結節平行沈線文が施されている。諸磯a式と思われる。

第3群 縄文時代後期前葉の土器 (第67・68図4～10)

第1類 称名寺式

4は深鉢形土器の胴部片である。沈線間をLの無節縄文で充填した文様が施されている。

第2類 堀之内式

5は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。口縁部は小波状を呈し、地文はLRの単節縄文である。波状部を起点として、平行沈線と蛇行沈線文が垂下する。6は注口土器の、橋状把手を有する胴部上半から口縁部に至る破片である。把手には「8」字状の隆帯が貼り付けられ、貫通孔が施されている。胴部上半を隆帯が巡る。7は口縁部から胴部に至る破片で、口縁部は小波状を呈する。外面にLの無節縄文が施されている。8は浅鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。口縁部は波状を呈するが、波頂部を欠いている。口唇端部に沈線が施されている。波底部から胴部にかけて半載竹管による円形刺突文と沈線文が施されている。9は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部には貫通孔が施された把手を持ち、隆帯が巡る。把手部を起点として押圧された隆帯と沈線文、Lの無節縄文が施されている。5～9は、堀之内2式と思われる。10は小波状を呈する口縁部片である。Rの無節縄文を地文とし、沈線文が波状部を起点として施されている。

(下層出土遺物) (第68図11～15)

下層からは縄文土器片49点 (第1群25点, 第3群23点, 第4群1点), 石器 (打製石斧) 1点が出土している。

第1群 縄文時代早・前期の土器 (第68図11～14)

11は胴部片で、胎土に繊維が含まれる。内・外面に条痕文が施されており、条痕文系土器と思われる。12は口縁部片で、胎土に繊維が含まれている。RLにRを左巻きした縄巻縄文が施されている。13は口縁部片で、胎土に繊維が含まれている。Rの無節縄文を地文とし、半載竹管による沈線文が施されている。14は胴部片で、胎土に繊維が含まれている。Rの無節縄文が施されている。12～14は、黒浜式と思われる。

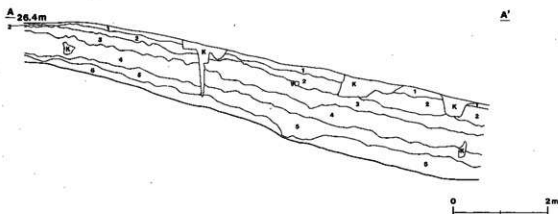
第3群 縄文時代後期前葉の土器 (第69図16)

第2類 堀之内式

16は胴部片で、Lの無節縄文を地文とし、沈線文と列点文が施されている。堀之内1式と思われる。

(第1～6層, 攪乱層から出土したその他の主な遺物) (第68図15・第69図17～20)

15は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で、口縁部は波状を呈する。LRの単節縄文を地文とし、平行沈線が斜位に施されている。第3群第2類に分類される。17は深鉢形土器の小波状を呈する口縁部片で、沈線文と刺突文が施されている。第3群第1類に分類される。18は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部には沈線が通り、口縁部直下から下位にはLRの単節縄文を地文として、沈線文が施されている。19は浅鉢形土器の口縁部片である。無節縄文を地文とし、沈線文と刻みが横位に施されている。第4群に分類される。20は口唇部内面に沈線が、外面に押圧された隆帯が施されている。LRの単節縄文を地文とし、半載竹管による沈線文が施されている。第4類に分類される。



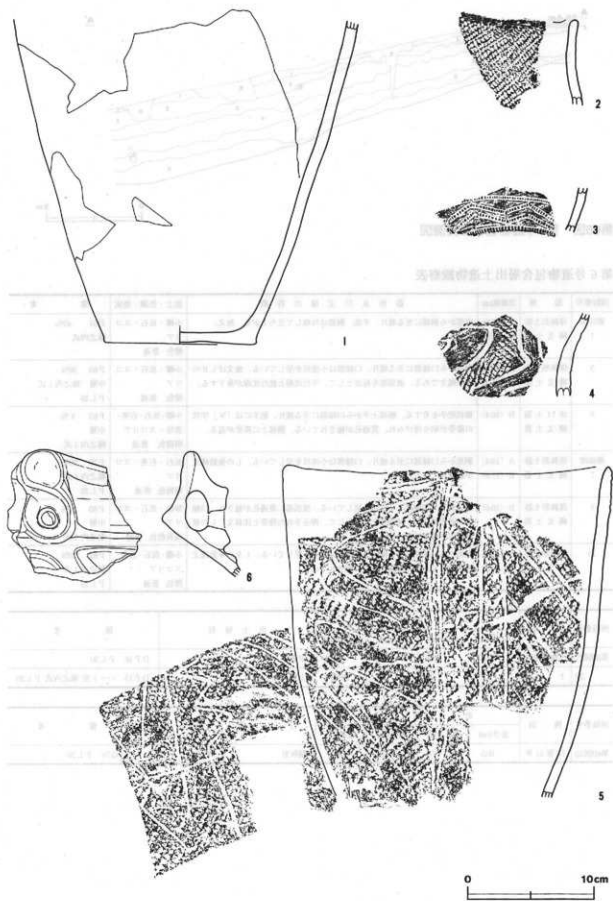
第66図 第6号遺物包含層実測図

第6号遺物包含層出土遺物観察表

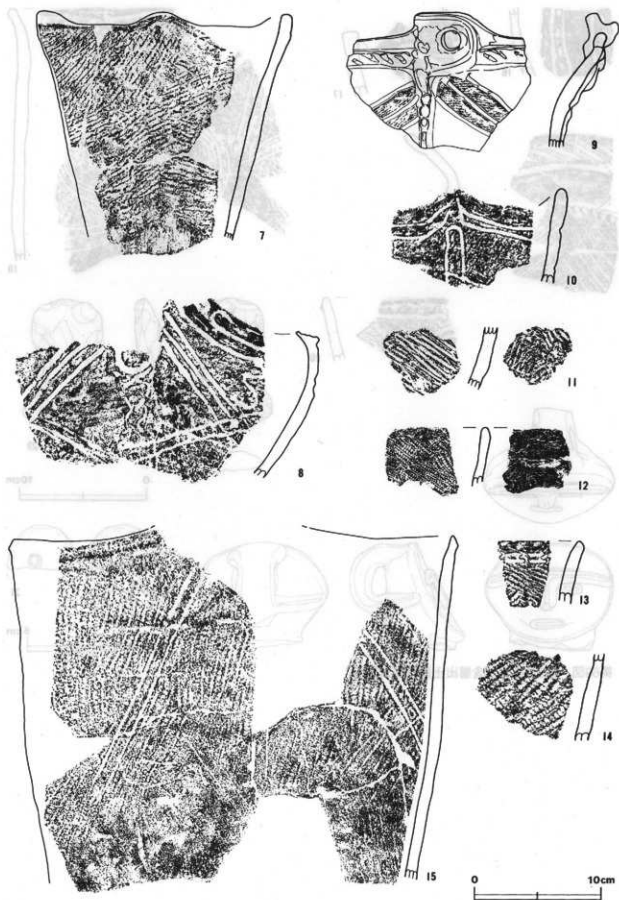
図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第67図 1	浴鉢形土器 縄文土器	B (25.8) C [12.0]	底部から胴部に至る破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	小礫・長石・スコリア 橙色 普通	P61 40% 層之内式
5	浴鉢形土器 縄文土器	A [26.4] B (26.3)	胴部から口縁部に至る破片。口縁部は小波状を呈している。地文はLRの単純縄文である。波頂部を起点として、平行沈線と蛇行沈線が垂下する。	小礫・長石・スコリア 橙色 普通	P60 30% 中層 層之内1式 P.L25
6	注口土器 縄文土器	B (10.4)	横状把手を有する。胴部上半から口縁部に至る破片。把手には「8」字状の隆帯が貼り付けられ、貫通孔が施されている。胴部に隆帯が通る。	小礫・長石・石英・ 炭母・スコリア 明褐色 普通	P63 5% 中層 層之内1式
第68図 7	浴鉢形土器 縄文土器	A [19.4] B (17.9)	胴部から口縁部に至る破片。口縁部は小波状を呈している。Lの無節縄文が施されている。	長石・石英・スコリア 暗褐色 普通	P79 30% 層之内1式 P.L26
9	浴鉢形土器 縄文土器	B (10.6)	口縁部片。口縁部は小波状を呈している。波頂部に貫通孔が施され、口縁部に隆帯が通る。波頂部を起点として、押圧された隆帯と沈線文、Lの無節縄文が施されている。	砂粒・長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P80 5% 中層 層之内1式
15	浴鉢形土器 縄文土器	A [34.3] B (24.3)	胴部から口縁部に至る破片。口縁部は波状を呈している。LRの単純縄文を地文とし、平行沈線が斜位に施されている。	小礫・長石・石英・ スコリア 橙色 普通	P62 20% 層之内1式 P.L26

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 層 位	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第69図21	土製織物片	(2.3)	3.4	1.5	(10.0)	中層	DP16 P.L30
22	土 器	(5.7)	6.8	6.1	(133.0)	上層 (第3層)	DP15 ハート形器之内式 P.L26

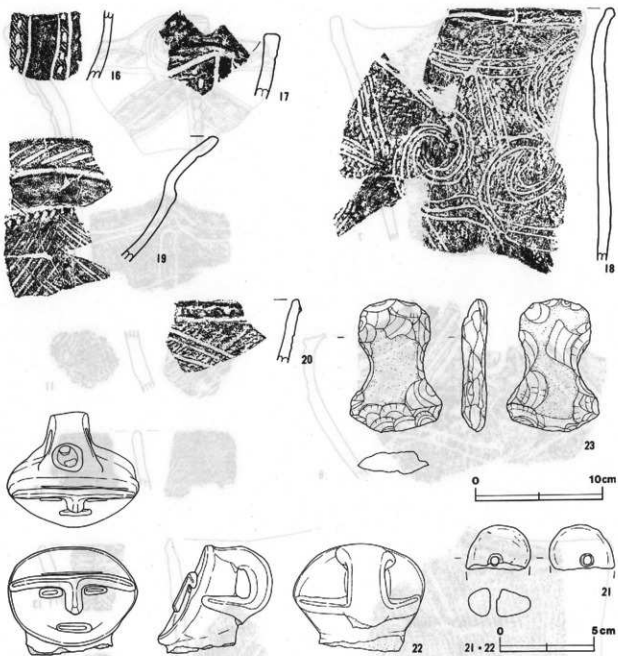
図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 層 位	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第60図23	打製石斧	10.5	7.3	2.0	169.0	凝灰岩	下層	Q76 P.L26



第67图 第6号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第68图 第6号遺物包含層出土遺物実測図(2)



第69图 第6号遗物包含层出土物实测图(3)

10 遺構外出土遺物

当遺跡から遺構に伴わないで出土した遺物について、土器については解説し、石器・石製品及び土製品については一覧表で記載する。

なお、土器については「9 遺物包含層」で用いた分類基準に基づいて観察する。

第1群 縄文時代早・前期の土器 (第70図1~17)

1~8はいずれも胎土に繊維が含まれている土器である。1は口縁部片で、沈線文が施されている。2は波状を呈する口縁部片で、半載竹管による沈線文が施されている。3は深鉢形土器の胴部から頸部に至る破片で、LRの単節縄文が施されている。4は深鉢形土器の胴部片で、縄文が施されている。5は胴部片で、RLの単節縄文が施されている。6は胴部片で、LRの単節縄文が施されている。3と同一個体と思われる。7は深鉢形土器の口縁部片で、LRの単節縄文が施されている。8は胴部片で、貝殻腹縁文が施されている。1~8は、黒浜式と思われる。9は胴部片で、半載竹管による沈線文が施されている。10は口縁部片で、胎土に繊維を含み、上帯R、下帯Lの羽状縄文が施されている。11は胴部片で、胎土に繊維を含み、上帯RL、下帯LRの羽状縄文を地文とし、半載竹管による平行沈線文を施した後、同じ工具による刺突文が施されている。12は胴部片で、波状貝殻文が施されている。浮島式と思われる。13は胴部片で、半載竹管による結節平行沈線文が施されている。14は胴部片で、爪形文が施されている。13・14は、諸磯a式と思われる。15は胴部片で、浮線文が施されている。諸磯b式と思われる。16は口縁部片で、胎土に繊維が含まれている。口唇部に棒状工具による結節沈線文が施され、その下に縄巻縄文が施されている。17は胴部片で、貝殻腹縁文が施されている。浮島式と思われる。

第2群 縄文時代中期の土器 (第70図18・20~22)

18は深鉢形土器の胴部片である。隆帯に沿って、半載竹管による結節平行沈線文が施されている。阿玉台IV式と思われる。20は深鉢形土器の口縁部片で、隆帯で区画され、LRの単節縄文を地文とし、隆帯に沿って半載竹管による平行沈線文が施されている。21は深鉢形土器の波状を呈する口縁部片である。隆帯に沿って、半載竹管による結節平行沈線文が施されている。18・20・21は、阿玉台IV式と思われる。22は深鉢形土器の口縁部片である。半載竹管による沈線文が施されている。

第3群 縄文時代後期前葉の土器 (第70・72・73図19・23~57・66)

第1類 称名寺式

23~25は深鉢形土器の胴部片である。23・24は沈線文と刺突文が施されている。25は沈線間に縄文が充填されている。26は深鉢形土器の口縁部片である。沈線間には列点文が充填されている。27は深鉢形土器の胴部片である。沈線間にLRの単節縄文が充填されている。28は深鉢形土器の波状口縁の波底部片である。縄文を地文とし、沈線文が施されている。

第2類 堀之内式

19は蓋で、つまみを二つ持ち、楕円形状に重なる沈線文が施されている。29は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。口縁部は小波状を呈し、波頂部には貫通孔と円形刺突文が施されている。口縁部には沈線が巡る。口縁部直下から胴部にかけてはRLの単節縄文を地文としている。波頂下には、4本の弧状文により、波頂部の円形刺突文と繋がれた刺突文が三つ施され、頸部はこの刺突文を繋ぐ3本の沈線文で区画されている。胴部は波頂部下の刺突文を起点とし、対弧状文により覆われた蕨手文が垂下する。30は深鉢形土器で、底部と口縁部の一部が欠損している。口縁部は小波状を呈する。LRの単節縄文を地文とし、波状部を起点として垂下する半載竹管による沈線文と蛇行沈線文が施されている。31は蓋で、つまみを持ち、無

文である。32は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で、L Rの単節縄文が施されている。33は深鉢形土器の口縁部片で、条線文が施されている。34は深鉢形土器の小波状を呈する口縁部片である。波頂部に押圧が施されている。R Lの単節縄文を地文とし、条線文が施されている。35は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部を沈線が巡り、その下はR Lの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。補修孔が穿たれている。36は深鉢形土器の口縁部片である。隆帯を貼り付けた後に半載竹管による円形刺突文を施し、R Lの単節縄文を地文として沈線文が施されている。37は深鉢形土器の胴部片である。縄文を地文とし、沈線文が施されている。30~37は、堀之内1式と思われる。38は深鉢形土器の胴部片である。R Lの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。39は深鉢形土器の胴部片である。縄文を地文とし、条線文が施されている。堀之内1式と思われる。40は深鉢形土器の頸部片である。沈線文が施されている。41は深鉢形土器の胴部片である。Lの無節縄文を地文とし、沈線文が垂下する。42は口縁部片である。口唇部に沈線が巡り、縄文を地文とし、沈線文が施されている。43は深鉢形土器の胴部片で、沈線文が施されている。堀之内2式と思われる。44は浅鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片で口唇部が欠損している。口縁部には沈線が二重に巡り、半載竹管による刺突文と結ばれる。胴部にはL Rの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。45は胴部から口縁部に至る破片である。口縁部に二重の沈線が巡り、胴部には沈線間を列点文で充填された文様が施されている。46は深鉢形土器の口縁部片である。縄文を地文とし、口唇部に半載竹管による円形刺突文を起点とした沈線文が施されている。44~46は、堀之内1式と思われる。47は深鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。Lの無節縄文を地文とし、蔗手文が垂下する。48は深鉢形土器の口縁部片である。Rの無節縄文を地文とし、蛇行沈線が垂下する。49は深鉢形土器の胴部片である。沈線文が横位に、条線文が縦位に施されている。50は胴部片である。沈線文と刺突文が施されている。51は深鉢形土器の口縁部片である。Lの無節縄文を地文とし、半載竹管による沈線文が施されている。52は深鉢形土器の胴部片である。沈線文が施されている。53は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部に沈線が巡り、その下に沈線文が施されている。54は深鉢形土器の頸部片である。Lの無節縄文を地文とし、半載竹管による沈線文が施されている。55は胴部片である。L Rの単節縄文を地文とし、沈線文が施されている。66は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部内面に沈線が巡る。口唇部外面に紐線が巡り、「8」字状の付文が貼り付けられている。その下にはL Rの単節縄文で充填された沈線文が施されている。堀之内2式と思われる。

第3類 東北系(網取式)と思われる土器

56は深鉢形土器の小波状を呈する口縁部片である。隆帯に沈線が施され、盲孔が施された付文が貼り付けられている。57は口唇部を欠く口縁部片である。隆帯が貼り付けられ、沈線文と刺突文が施されている。

第4群 縄文時代後期中葉の土器 (第73・74図58~65・67~72)

58は深鉢形土器の把手部片である。波頂部に沈線が施された瘤状の突起を持ち、内・外面には沈線文が施されている。59は口縁部片である。口縁部内面に沈線文が巡り、外面に押圧のある隆帯が巡る。加工痕があり、土器片種の未製品と考えられる。60は深鉢形土器の胴部片である。R Lの単節縄文が施されている。61は深鉢形土器の口縁部片である。無節縄文を地文とし、沈線文を横位に施し、縦位の区切り文が施されている。加曾利B1式と思われる。62は深鉢形土器の口縁部片である。条線文が施されている。63は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部内面に沈線、外面に押圧された隆帯が施され、その下に条線文が横位に施されている。64は口縁部片で、口唇部内面に刻みが施されている。L Rの単節縄文を地文とし、沈線文が巡る。加曾利B1式と思われる。65は口縁部片である。口縁部内面に沈線が、外面に刻みが施された隆帯が巡る。Lの無節縄文を地文とし、沈線文が施されている。補修孔が穿たれている。67は浅鉢形土器の胴部片で、刺突文と条線文が施され

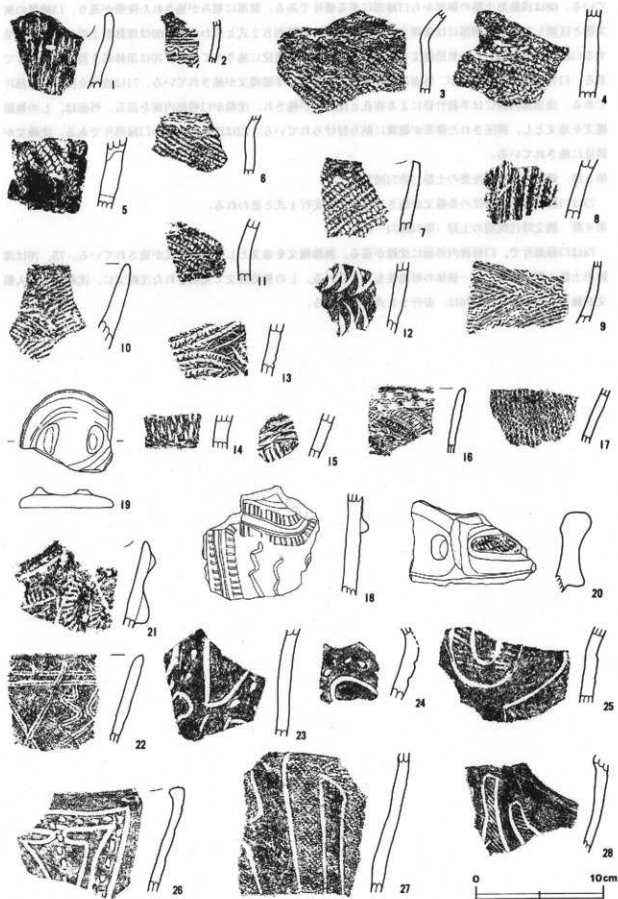
ている。68は浅鉢形土器の胴部から口縁部に至る破片である。頸部に刻みが施された隆帯が廻り、口縁部の無文帯と区画している。胴部には条線文が横位に廻る。加曾利B2式と思われる。69は深鉢形土器の小波状を呈する口縁部片である。Lの無節縄文を地文とし、条線文が横位に施されている。70は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部内面に沈線文が、外面に隆帯が廻る。RLの単節縄文が施されている。71は波状を持つ口縁部片である。波頂部内面には半截竹管による盲孔と沈線文が施され、沈線が口唇部内面を廻る。外面は、Lの無節縄文を地文とし、押圧された隆帯が縦横に貼り付けられている。72は深鉢形土器の口縁部片である。沈線文が斜位に施されている。

第5群 縄文時代後期後葉の土器 (第74図73)

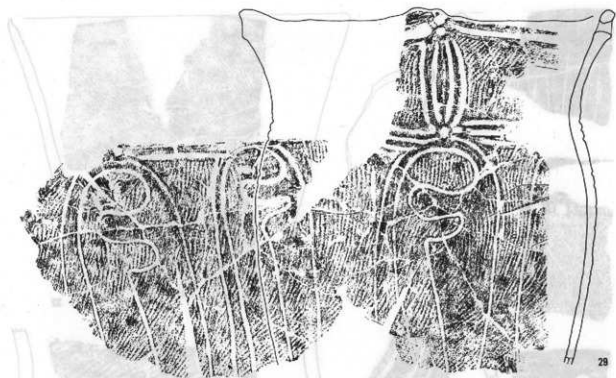
73は口縁部片で、横位の条線文が施されている。安行1式と思われる。

第6群 縄文時代晩期の土器 (第74図74~76)

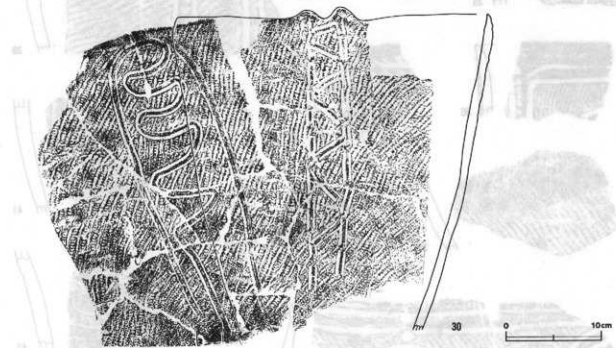
74は口縁部片で、口唇部内外面に沈線が廻る。無節縄文を地文とした磨消縄文が施されている。75、76は深鉢形土器の胴部片で、同一個体の可能性も考えられる。Lの無節縄文で充填された沈線文に、沈線による入組文が施されている。74~76は、安行3b式と思われる。



第70図 遺構外出土遺物実測図(1)



29

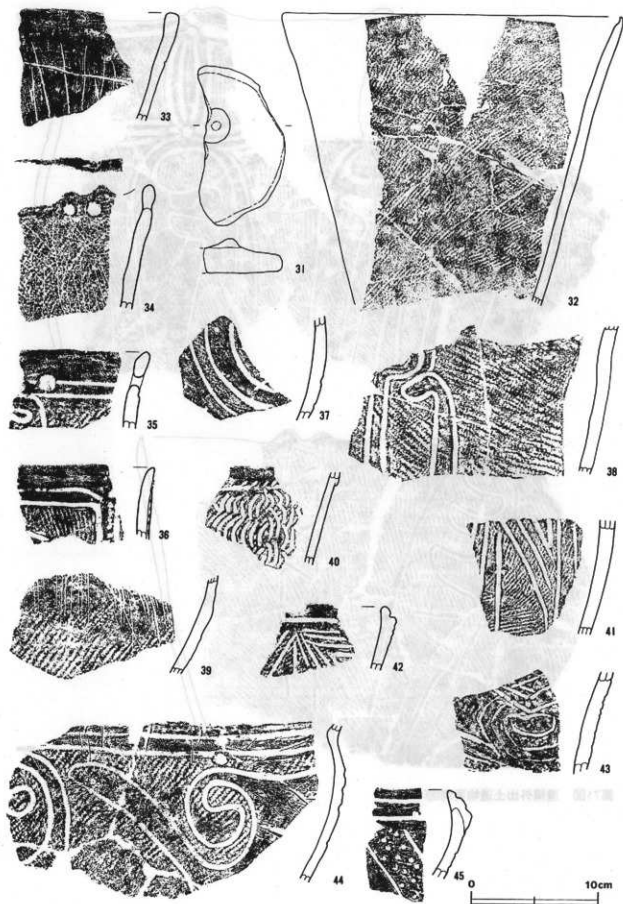


30

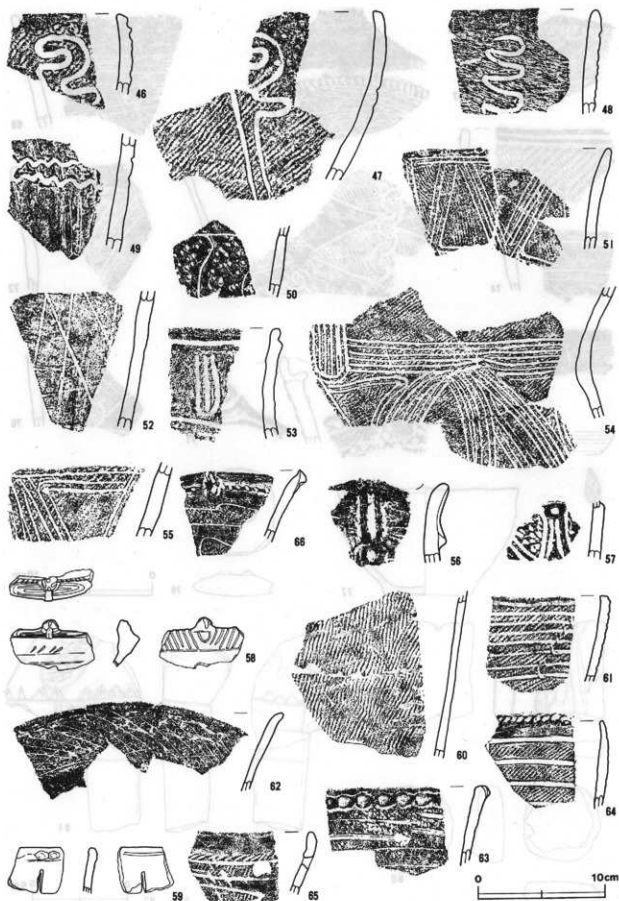
0 10cm

第71图 遺構外出土遺物実測図(2)

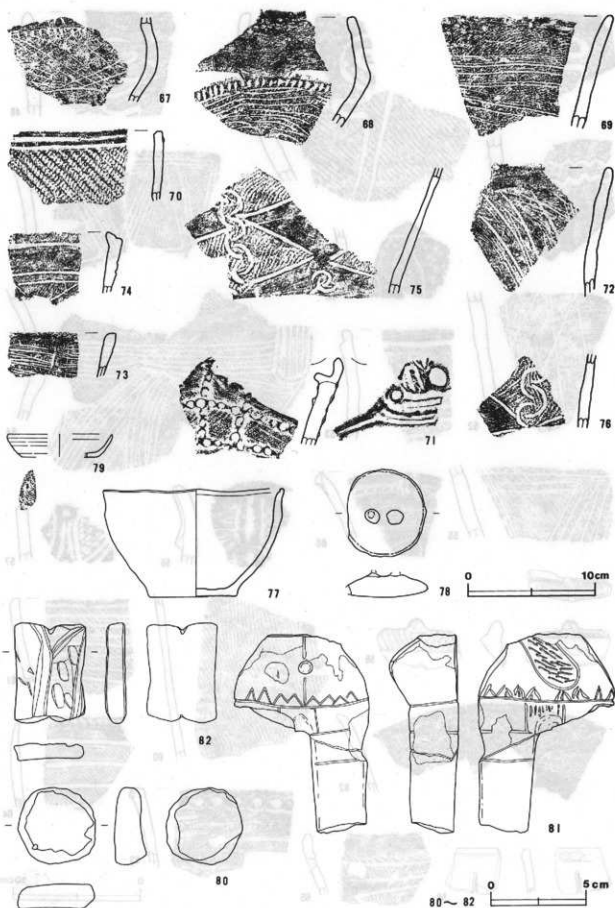
① 国書院蔵出土品複製 図55番



第72图 遺構外出土遺物実測図(3)

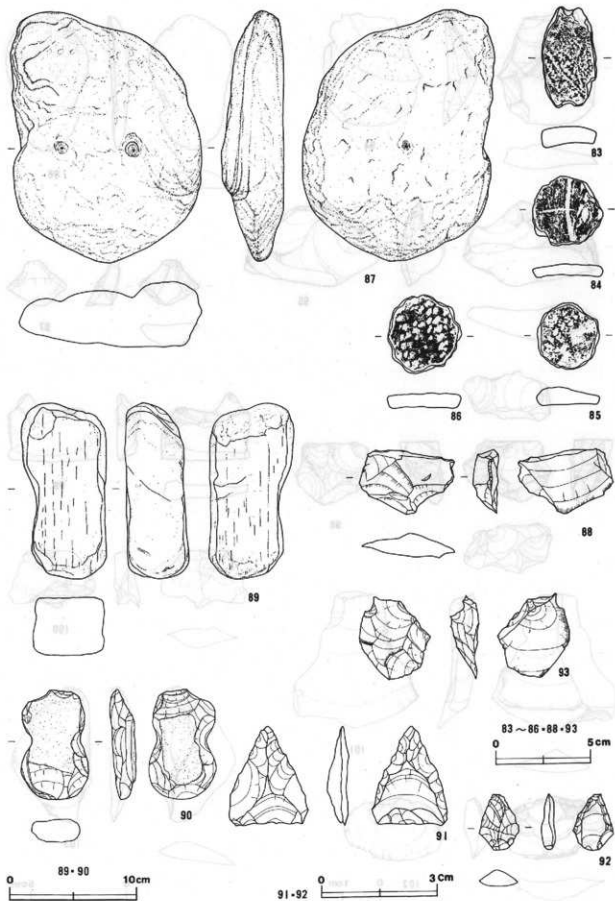


第73图 遗物出土文物实测图(4)

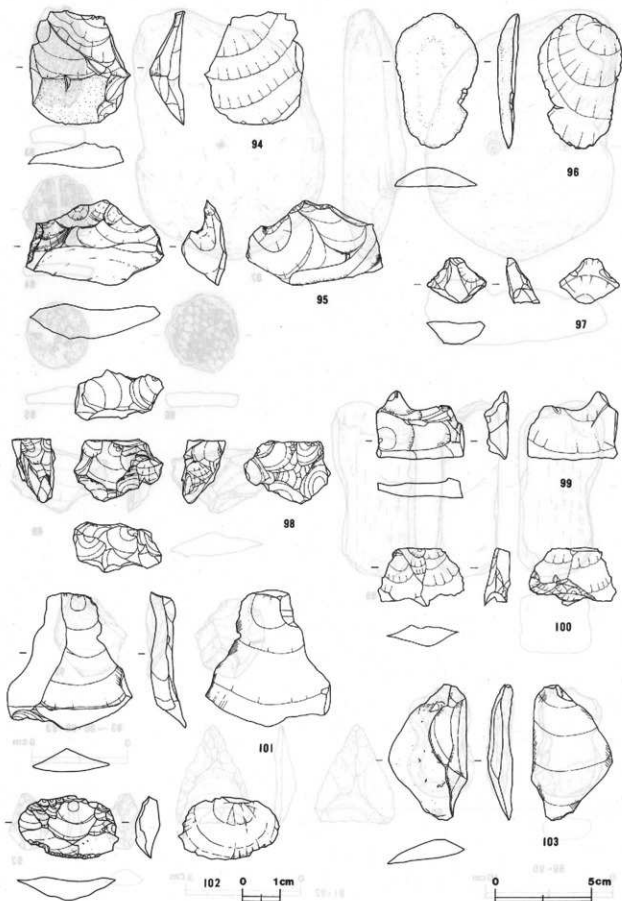


第74図 遺構外出土遺物実測図(5)

1: 図解 2: 実物 3: 土山 4: 山形 5: 山形

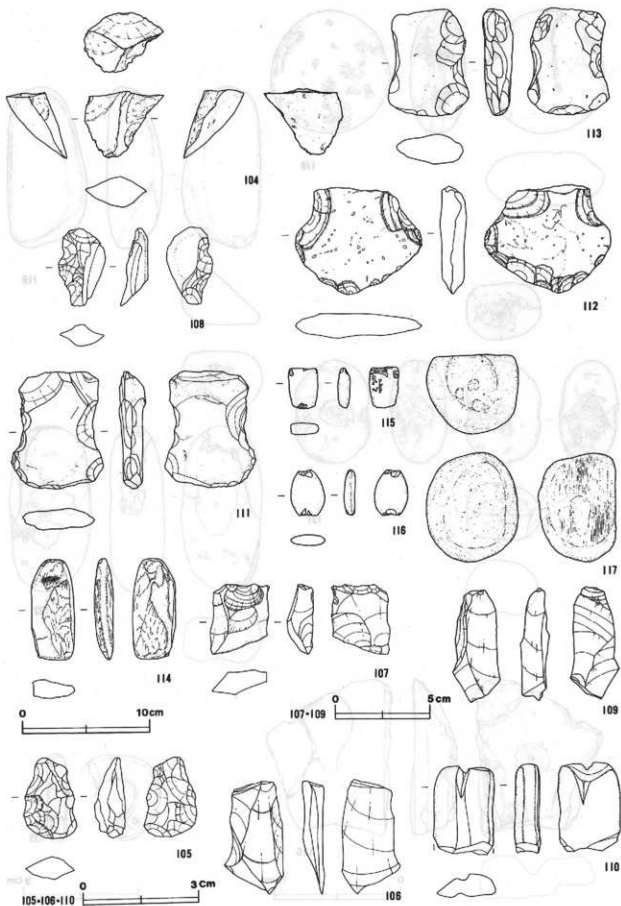


第75图 遺構外出土遺物実測図(6)



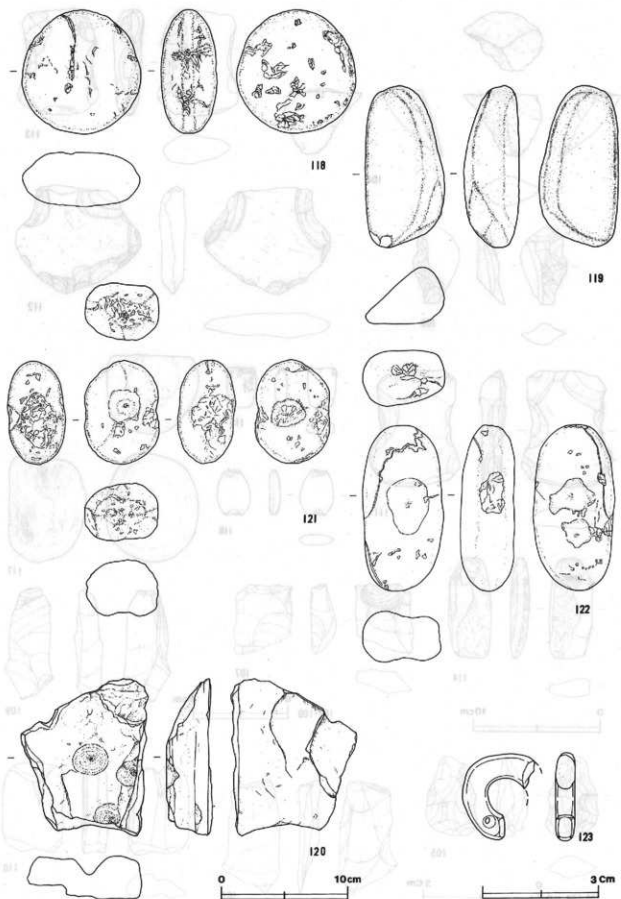
第76图 遺構外出土遺物実測図(7)

〔図解〕 遺構外出土遺物実測図 図76



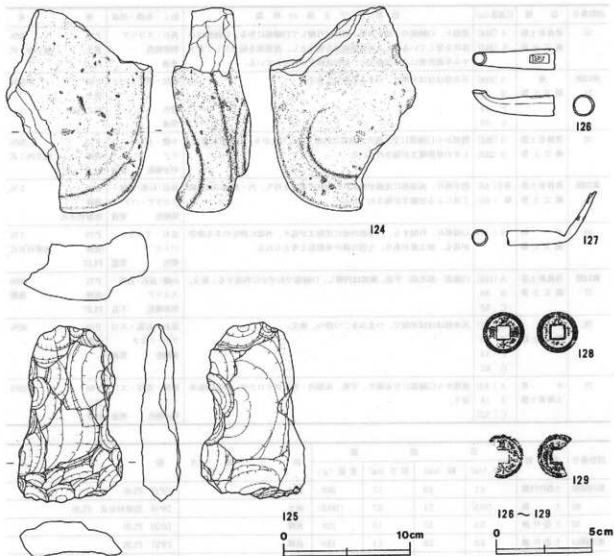
第77图 遺構外出土遺物実測図(8)

洋館南東壁土出片群集 図版第



第78图 遺構外出土遺物実測図(9)

（図例）遺構外出土遺物実測図



第79図 遺構外出土遺物実測図(10)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第70図 1	漆鉢形土器 縄文土器	B (9.2)	胴部破片。半截竹管による筋彫平行沈線文が隆帯に沿って施されている。	砂較・長石・雲母 赤褐色 普通	P65 表土 阿玉台N式	5%
19	蓋 縄文土器	A [7.4] B 1.5 F 1.2 G 0.6	天井部はほぼ平坦で、つまみを二つ持ち、楕円形状に重なる沈線文が施される。	長石・雲母 褐色 普通	P70 表採 瓶之内式 PL27	60%
20	漆鉢形土器 縄文土器	B (6.5)	胴部破片。口縁部は隆帯で区画され、L Rの単筋縄文を地文とし、隆帯に沿って半截竹管による平行沈線が施される。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P67 表土 阿玉台N式	5%
第71図 29	漆鉢形土器 縄文土器	A [38.4] B (37.6)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は内壁して立ち上がり、胴部で折れ、口縁部は外反する。口縁部は小段状を呈する。波頂部には貫通孔と盲孔を伴う付文が施される。口縁部には沈線文が高く、口縁部直下から胴部にかけてR Lの単筋縄文が地文として施される。波頂部下には、4本の弧状文により、波頂部の貫孔と繋がれた刺突文が三つ施され、胴部はこの刺突文を繋ぐ3本の沈線文で区画される。胴部には波頂部下の刺突文を起点とし、対弧状文により覆われた、楔手文が重下する。	小礫・長石・石英・スコリア ふいひ褐色 普通	P66 表土 瓶之内1式 PL27	40%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 ビ 文 様 の 特徴	胎土・色調・焼成	備 考
30	深鉢形土器 周文土器	A [32.8] B (34.2)	底部と、口縁部の一部を欠損。胴部は外傾して口縁部に至る。口縁部は小波状を呈している。L.Rの厚胎織文を亀文とし、波頂部を起点として垂下する半散竹管による沈線文と、蛇行沈線文が施されている。	灰石・スコリア 明赤褐色 普通	P25 60% 表土 堀之内1式 PL27
第72図 31	壺 周文土器	A [13.8] B 2.8 P 1.4 G 0.8	天井部はほぼ平皿で、つまみを持つ。無文。	砂粒・灰石・パリス S 褐色 普通	P64 50% 表土 堀之内式
32	深鉢形土器 周文土器	A [26.6] B (23.0)	胴部から口縁部に至る破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。L.Rの厚胎織文が施されている。	小礫・灰石・スコリア 明赤褐色 普通	P72 30% 表探 堀之内1式 PL27
第73図 58	深鉢形土器 周文土器	長さ(4.0) 幅(6.6)	把手部片。波頂部に沈線が施された瘤状の突起を持ち、内・外面には輪状工具による沈線文が施されている。	灰石・石英・雲母・スコリア・パリス 暗褐色 普通	P69 5% 表探 加曽利B式
59	不明 周文土器	B (3.7)	口縁部片。外傾する。口縁部内面に沈線文が高く、外面に押圧のある隆帯が走る。加工痕があり、土器片種の未製品と考えられる。	灰石・スコリア・パリス 褐色 普通	P73 5% 表探 加曽利B式 PL27
第74図 77	浅鉢形土器 周文土器	A [14.0] B 8.6 C 6.9	口縁部一部欠損。平底。胴部は内傾し、口縁部でわずかに外反する。無文。	小礫・灰石・石英・スコリア 明赤褐色 不良	P71 80% 表探 後期 PL27
78	壺 周文土器	A [4.7] B 1.9 P 1.4 G 0.2	天井部はほぼ平皿で、つまみを二つ持つ。無文。	灰石・石英・スコリア・パリス 黄褐色 普通	P74 80% 表探
79	小皿 土師質土器	A [8.2] B 1.8 C [5.2]	底部から口縁部に至る破片。平底。底部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P68 20% 表土 近世

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第74図80	土器片円盤	4.1	4.0	1.7	26.0	表土	DP17 PL30
81	土 筒	(10.5)	7.1	3.7	(165.0)	表土	DP18 加曽利B式 PL30
82	土器片片断	5.3	3.7	1.0	23.0	表探	DP20 PL30
第75図83	土器片片断	5.3	2.9	1.1	18.0	表探	DP21 PL30
84	土器片円盤	3.7	3.7	0.7	6.0	表探	DP22 PL30
85	土器片円盤	2.5	3.4	1.0	9.0	表探	DP23 PL30
86	土器片円盤	4.2	3.9	0.9	16.0	表探	DP24 PL30

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第79図126	煙 管	(4.3)	1.1	1.1	1.1	(48)	表土	M1 近世
127	煙 管	(4.7)	0.8	0.8	0.8	(28)	表探	M4 近世

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		外径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第79図128	寛永通宝	2.2	0.6	0.1	1.8	表探	M2 新寛永 近世
129	寛永通宝	2.3	0.6	0.1	(1.5)	表探	M3 近世

図版番号	種別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第75図 87	凹石	19.9	15.2	5.2	—	1910.0	黄緑片岩	表土	Q80
88	洞片	5.0	4.3	1.3	—	21.0	ガラス質黒色安山岩	アストビット	Q82 旧石器 PL30
89	磨石	13.8	6.7	5.1	—	742.0	砂岩	アストビット	Q83
90	打製石斧	8.7	5.3	2.1	—	114.0	ホルンフェルス	表土	Q84 PL30
91	石 鏃	2.7	2.0	0.6	—	2.5	チャート	表土	Q85 PL31
92	石 鏃	1.5	1.0	0.4	—	0.5	チャート	表土	Q86 PL31
93	洞片	4.4	3.7	1.5	—	16.0	チャート	表採	Q87 旧石器 PL31
第76図 94	洞片	6.0	5.2	1.8	—	47.0	ガラス質黒色安山岩	表採	Q88 旧石器 PL31
95	洞片	4.5	8.1	2.3	—	41.0	珪質頁岩	表採	Q89 旧石器 PL31
96	洞片	7.1	4.3	1.1	—	29.0	ガラス質黒色安山岩	表採	Q91 旧石器
97	楔形石器	2.4	3.1	1.8	—	7.3	ガラス質黒色安山岩	表採	Q92 旧石器 PL31
98	石 核	3.4	4.6	2.2	—	32.0	チャート	表採	Q94 PL31
99	洞片	3.6	4.7	1.2	—	17.0	珪質頁岩	表採	Q95 旧石器
100	洞片	3.0	4.5	1.3	—	12.0	頁岩	表採	Q96
101	洞片	7.2	6.5	1.8	—	41.0	珪質頁岩	表土	Q98 旧石器 PL30
102	ステインパー	1.7	2.6	0.7	—	2.2	チャート	表土	Q100
103	洞片	7.2	4.2	1.3	—	26.0	珪岩	表土	Q101
第77図 104	洞片	3.6	4.1	3.2	—	24.0	安山岩	表土	Q99 旧石器 二次加工有り PL30
105	洞片	2.1	1.3	0.8	—	1.9	チャート	表土	Q102 PL31
106	洞片	3.0	1.5	0.9	—	2.3	珪質頁岩	表土	Q103 旧石器 PL31
107	石 核	3.7	3.1	1.3	—	17.0	珪質頁岩	表土	Q104 旧石器 洞片裏材
108	洞片	6.1	3.7	2.2	—	32.0	安山岩	表土	Q105 旧石器 二次加工有り PL30
109	洞片	5.9	2.6	1.6	—	18.0	珪質頁岩	表土	Q107 旧石器 PL30
110	石 鏃	(2.3)	1.6	0.6	—	(3.5)	燧石	表土	Q108 PL31
111	打製石斧	9.3	7.3	2.1	—	162.0	ホルンフェルス	表採	Q109 PL31
112	打製石斧	(8.4)	9.9	2.0	—	(189.0)	安山岩	表採	Q110
113	打製石斧	8.4	6.3	2.4	—	166.0	凝灰岩	表採	Q111 PL31
114	磨製石斧	8.0	3.4	1.5	—	64.0	泥岩	表採	Q113
115	磨製石斧	(3.2)	2.4	1.0	—	(14.0)	凝灰岩	表採	Q114 PL30
116	石 鏃	3.6	2.7	0.9	—	13.0	粘板岩	表土	Q115 PL30
117	燧石	8.7	7.3	6.4	—	607.0	安山岩	表土	Q116
第78図 118	磨石	9.8	9.5	4.5	—	524.0	安山岩	表採	Q117
119	磨石	12.8	6.3	4.3	—	457.0	凝灰岩	表土	Q118
120	凹石	(12.5)	(10.0)	3.7	—	(496.0)	砂岩	表土	Q120 石鏃から転用 PL31
121	凹石	8.2	5.8	4.6	—	285.0	安山岩	表採	Q121 PL31
122	凹石	13.1	6.2	4.3	—	502.0	安山岩	表採	Q122 PL31
123	石製鏃身	(2.3)	(1.9)	0.5	0.7	(2.4)	燧石	表採	Q125 耳飾りから転用 PL31
第79図 124	石 鏃	(16.2)	(11.5)	6.2	—	(1000.0)	凝灰岩	表採	Q119 PL31
125	打製石斧	14.0	8.3	3.0	—	360.0	安山岩	表採	Q124 PL31

第4節 ま と め

当遺跡の調査によって明らかになった遺構は、竪穴住居跡10軒、地点貝塚4基、古墳1基、土坑115基、溝11条、焼土遺構6基、不明遺構2基、旧石器集中地点1か所、遺物包含層4か所である。時期は、古墳時代後期の方墳を除くと、縄文時代後期前葉の堀之内1式期の遺構が大半を占める。遺物は縄文時代後期の土器を中心に、多数の土製品と石器・石製品が出土している。ここでは、各時期の検出遺構と出土遺物について概要を述べ、まとめとしたい。

1 旧石器時代

当遺跡では、旧石器集中地点から剥片が3点出土している。いずれも立川ローム層の第IV層上部以上の文化層からの出土である。他は遺構外からの出土が大半であり、石核3点、楔形石器2点以外はすべて剥片である。石材は黒曜石、安山岩、ガラス質黒色安山岩、チャート、流紋岩、珪質頁岩、硬質頁岩などである。

2 縄文時代

当遺跡の中心となる時代で、縄文時代後期から晩期にかけての遺構が検出されている。遺物は縄文時代早期から晩期にかけてのものが出土している。早期から中期の遺物は少量出土しているだけで、この時期に該当する遺構は確認できなかった。集落が営まれたのは後期前葉と晩期前葉と思われる。

後期前葉の遺構は、第1～7、11A・B号住居跡の9軒で、第6号住居跡が堀之内2式期と考えられるが、他はいずれも堀之内1式期と考えられる。また、地点貝塚や土坑もほとんどが後期と考えられ、その中でも後期前葉の遺構が多数を占めている。なかでも第4・5・6号住居跡はその新旧関係が明確であり、堀之内1式期後半から堀之内2式期前半にかけての土器様相の解明にとって参考となると思われる。また、第4号住居跡の炉内からヤマトシジミ、コイ科の椎骨、烏骨片、イノシシの臼歯片等が、地点貝塚から大量のヤマトシジミの他に、マツカサガイ、ハマグリ、オキシジミ、オノガイ等が少量出土しており、当時の桜川流域の生産活動を知る貴重な資料となると思われる。

出土した縄文土器の大半は堀之内1式と思われる。称名寺式や加曾利B式と思われる土器も少なからず出土しているが、これらの時期の住居跡は検出できなかった。また、わずか3点ではあるが、新潟県地方を中心に分布する三十種場式土器も出土している。これらは胎土や焼成、施文方法から、新潟で製作されたものではなく、在地で模倣して製作したものと思われる。当遺跡では東北地方南部を中心に分布する網取式土器も出土しており、北陸地方や東北地方との交流が考えられる。

晩期前葉の住居跡は、第10号住居跡の1軒のみである。床面と覆土下層からミミズク形土偶と土版、鉄鉛石が出土しており、祭祀行為との関連が考えられる資料である。また、覆土中から石巖や石巖の未製品、スクレイパーが多数出土している。本跡は6区の北西部に位置しており、調査区域外に石器の製作場や晩期の住居跡が展開している可能性も考えられる。

3 古墳時代

今回の調査では、7世紀の方墳1基が検出されている。埋葬施設は半地下式の横穴式石室で、玄室部分と羨道部分に分かれ、敷石や欄石の一部が残存している。玄室部分から被葬者と考えられるヒト1～2体分の歯と四肢骨の一部が検出されている。

註

- (1) 後期前業から中業については中島庄一氏、西田泰民氏の編年（『縄文土器大観』4）に基づいた。後業については金子裕之氏（同書）、晩期前業については能登健氏の編年（同書）に基づいた。
- (2) 寺崎裕助氏（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）より御教示をいただいた。

参考文献・論文

- ・小林達雄編集『縄文土器大観 4』小学館 1989年10月
- ・上野修一「ハート形土偶」『季刊考古学』30 雄山閣出版 1990年2月
- ・上野修一「東北地方南部における縄文時代中期後業から後期初頭の土偶について」『土偶研究の地平』勉誠社 1997年2月
- ・瓦吹堅「山形土偶」『季刊考古学』30（前掲）
- ・瓦吹堅「山形土偶」『土偶研究の地平』（前掲）
- ・吉川園男「ミミズク土偶の分布と前頭部の装飾について」『埼玉考古学論集』埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991年7月
- ・知久裕昭「堀之内Ⅰ式土器研究序説」『唐澤考古』16 唐澤考古会 1997年5月
- ・齋藤弘道「茨城・栃木における後期中業の土器様相」『後期中業の諸様相』縄文セミナーの会 1996年2月
- ・菅谷通保「南関東東部の様相」『後期中業の諸様相』（前掲）
- ・永井久美男編『近世の出土銭Ⅱ』兵庫県埋蔵銭調査会 1998年2月
- ・加藤晋平・鶴丸俊明『石器入門事典—先土器』柏書房 1991年3月
- ・鈴木道之助『石器入門事典—縄文』柏書房 1991年2月

写 真 图 版



中谷津遺跡全景 (平成8年度調査)

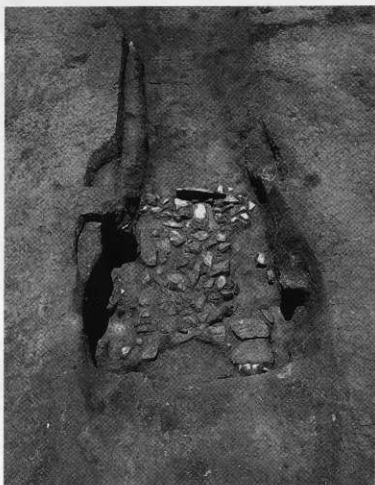


中谷津遺跡全景 (平成9年度調査)

PL2



第10号住居跡



第1号古墳主体部

第1号住居跡



第2号住居跡



第3号住居跡



PL4



第4号住居跡



第5号住居跡
遺物出土状況



第6号住居跡



第3・4・5・6号住居跡



第3号住居跡遺物出土状況（埋壘）

PL6



第7号住居跡



第7号住居跡
遺物出土状況



第11A・B号住居跡



第10号住居跡
遺物出土状況



第10号住居跡
遺物出土状況 (土版)



第3号遺物包含層
遺物出土状況



第1号古墳全景



第1号古墳主体部



第1号古墳玄室内骨片出土状況



第1号古墳主体部掘り方

PL10



第1号地点貝塚



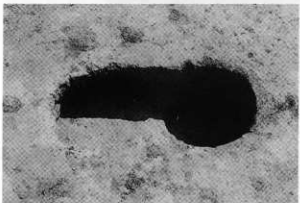
第1号地点貝塚土層断面



第3号地点貝塚遺物出土状況



第14号土坑



第19号土坑



第19号土坑遺物出土状況



第18号土坑遺物出土状況



第28号土坑



第52号土坑遺物出土狀況



第93号土坑遺物出土狀況



第94号土坑遺物出土狀況



第98号土坑遺物出土狀況



第152号土坑遺物出土狀況



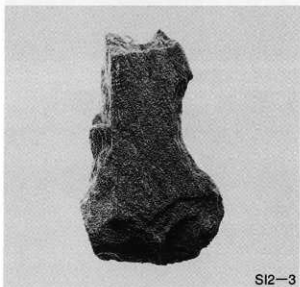
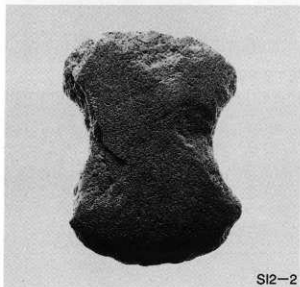
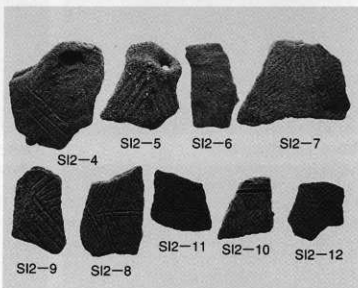
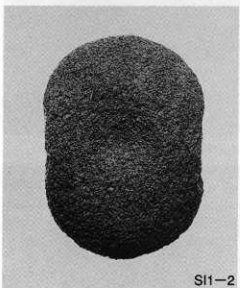
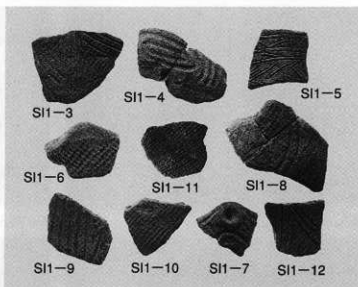
第1号不明遺構



第5号焼土遺構



旧石器集中地点遺物出土狀況





SI3-1



SI3-2



SI3-8

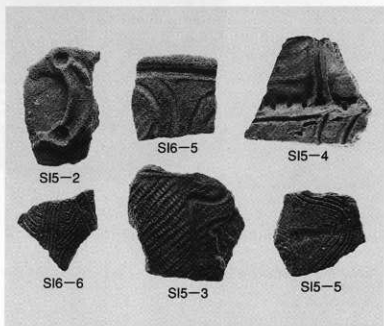
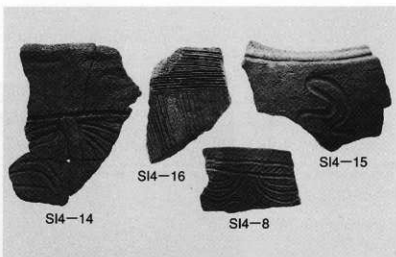


SI3-6



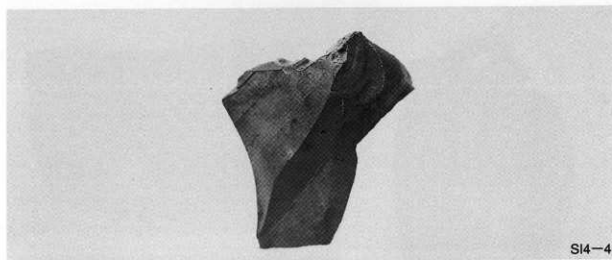
SI3-5

PL14

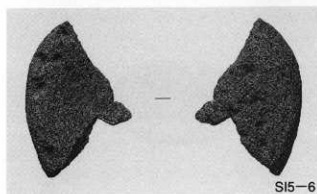




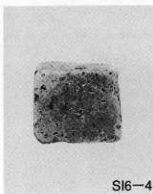
SI6-1



SI4-4



SI5-6

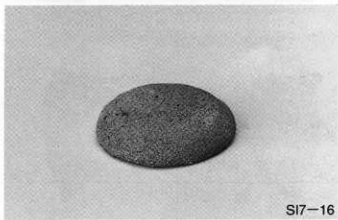
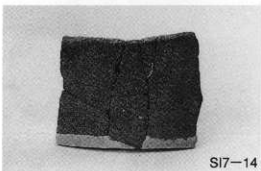
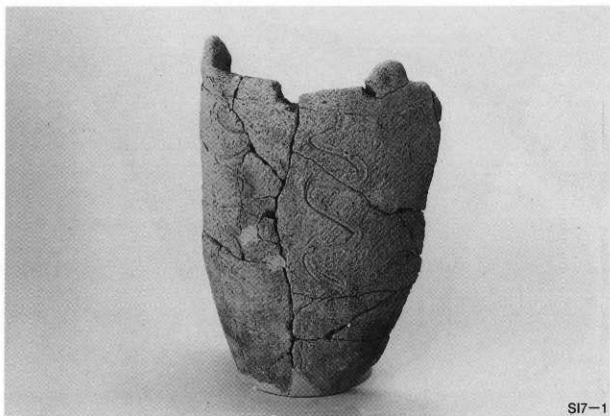


SI6-4



SI5-9

PL16





SI7-6



SI7-17



SI7-5



SI7-4



SI7-13



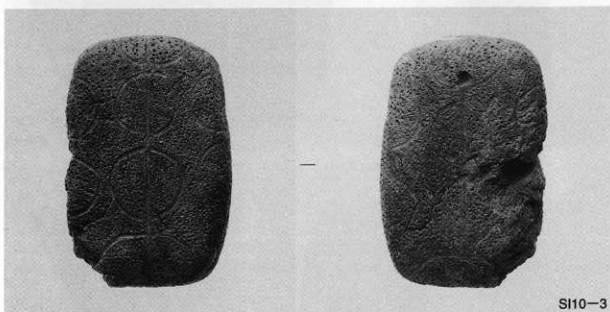
SI7-18



SI10-1



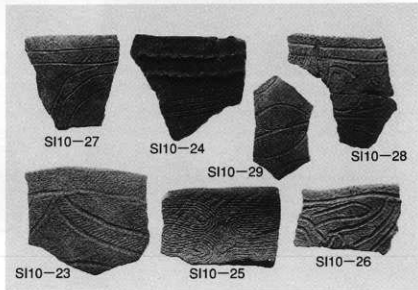
SI10-2



SI10-3



SI10-5



SI10-27

SI10-24

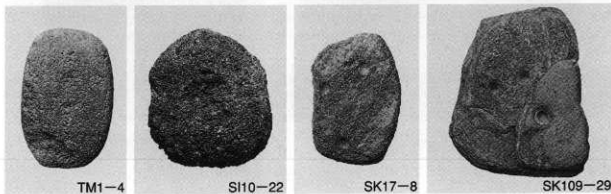
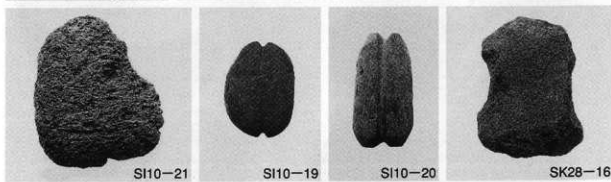
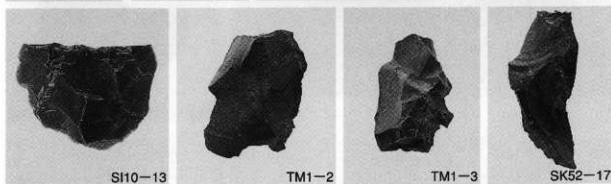
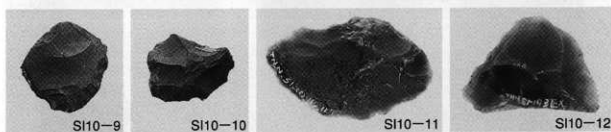
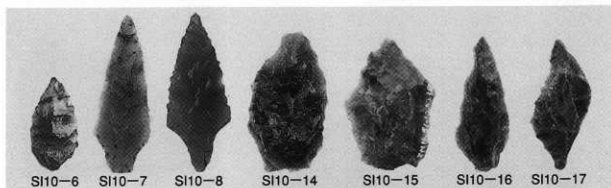
SI10-28

SI10-29

SI10-23

SI10-25

SI10-26



PL20



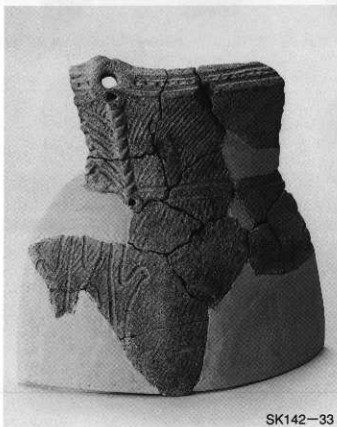
SK17-6



SI11A-1



SI11B-2



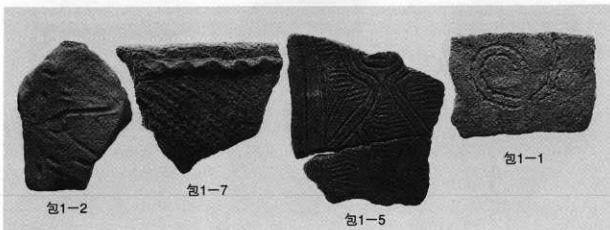
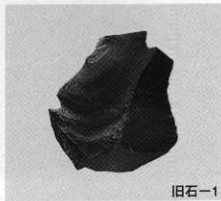
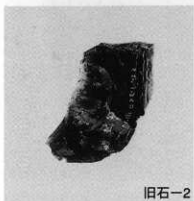
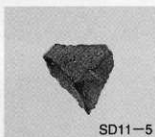
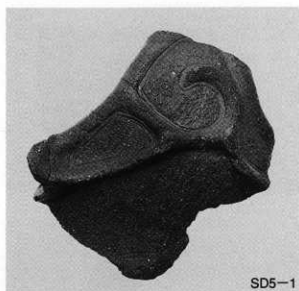
SK142-33

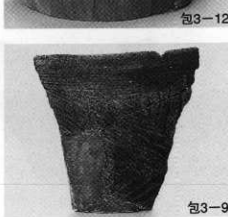
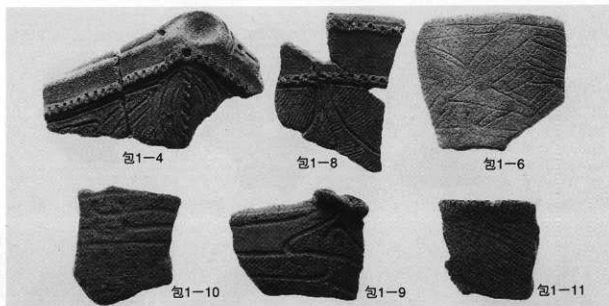


SK52-17



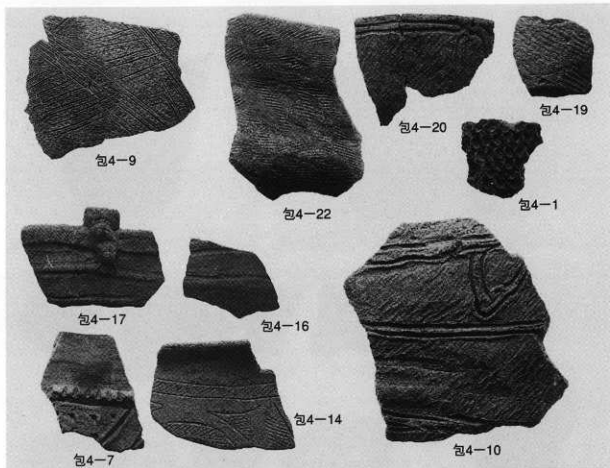
PL22

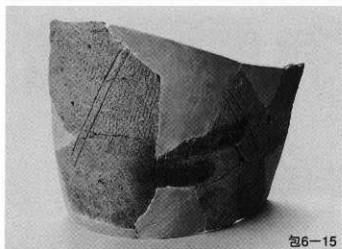




PL24







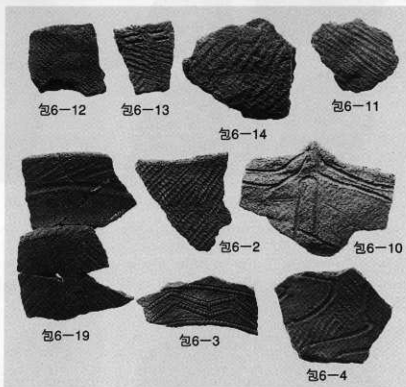
包6-15



包6-7



包6-23



包6-12

包6-13

包6-14

包6-11

包6-2

包6-10

包6-19

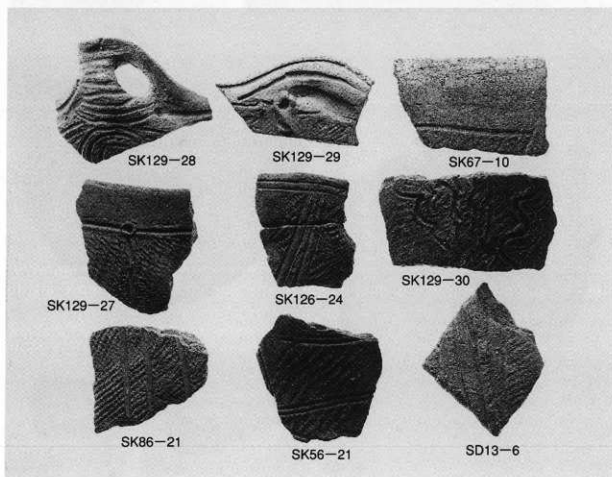
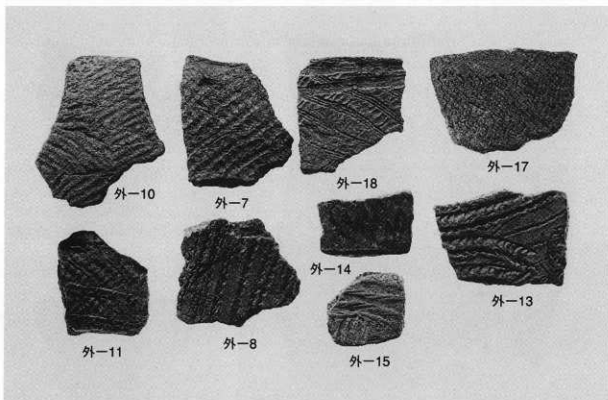
包6-3

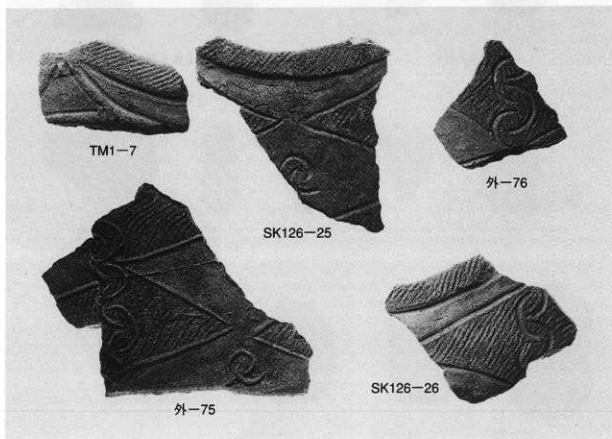
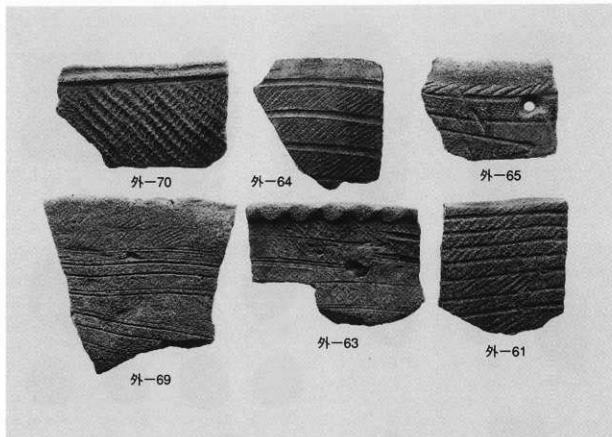
包6-4



包6-22

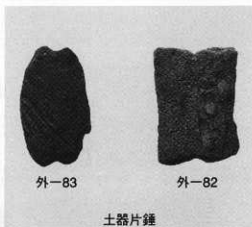








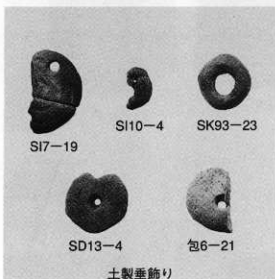
外-81



外-83

外-82

土器片鏟



SI7-19

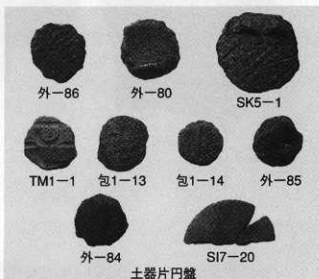
SI10-4

SK93-23

SD13-4

包6-21

土製垂飾り



外-86

外-80

SK5-1

TM1-1

包1-13

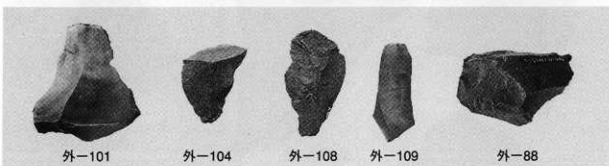
包1-14

外-85

外-84

SI7-20

土器片円盤



外-101

外-104

外-108

外-109

外-88



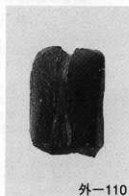
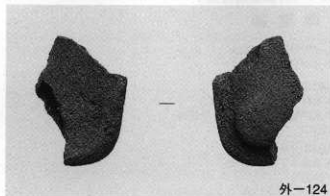
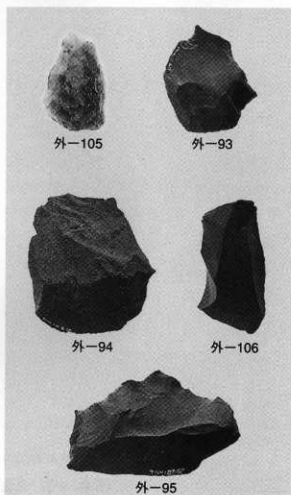
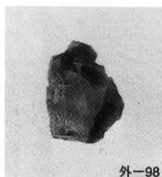
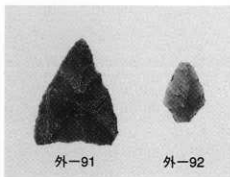
外-90



外-115



外-116



茨城県教育財団文化財調査報告第139集

(仮称)中根・金田台地区特定土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

中谷津遺跡

平成10(1998)年9月25日 印刷

平成10(1998)年9月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4242代

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第139集

中谷津遺構全体図

付図 中谷津遺跡1 遺構全体図

